Canon

EOS-1D Mark IV



J

使用説明書

Canon EOS-1D Mark IV 使用説明書 J

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

EOS-1D Mark IVは、有効画素数約1610万画素・高精細大型CMOSセンサー、デュアルDIGIC 4、高精度・高速45点エリアAF（39点：クロス測距点）、最高約10コマ/秒・高速連続撮影機能、ライブビュー撮影機能、Full HD（フルハイビジョン）動画撮影機能を搭載した、EOS DIGITAL最高峰の高性能デジタル一眼レフカメラです。

本機は、いつでもすぐに撮影できる優れた機動性、高度な撮影に最適対応する豊富な撮影機能、過酷な環境下での撮影を実現する高い信頼性、撮影領域をさらに拡大する幅広いシステム拡張性など、さまざまな特長を備えています。

撮影しながら操作すると理解が深まります

デジタルカメラは、撮影した結果をその場ですぐに見ることができます。本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。

なお、撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに別紙の『安全上のご注意』、および『取り扱い上のご注意』（p.12、13）をお読みください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

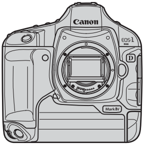
あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

メモリーカードについて

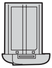
本書では、コンパクトフラッシュカードを「CFカード」、SD/SDHCメモリーカードを「SDカード」、画像を記録するメモリーカードの総称を「カード」と表記しています。なお、画像を記録する**カードは付属していません。**別途ご購入ください。

カメラと主な付属品

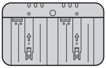
　使用する前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



カメラ
（アイカップ、
ボディキャップ、
電池室キャップ付き）



電池
バッテリーパック
LP-E4
（保護カバー付き）



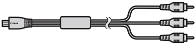
充電器
バッテリー
チャージャー
LC-E4



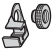
ワイドストラップ
L6



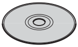
インターフェースケーブル
IFC-200U



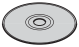
ステレオAVケーブル
AVC-DC400ST



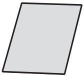
ケーブル
プロテクター
（取り付けねじ付き／
p.26）



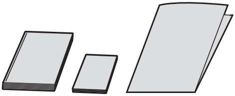
EOS DIGITAL
Solution Disk
（ソフトウェア）



ソフトウェア
使用説明書



お客様ご相談窓口、
修理受付窓口一覧／
安全上のご注意



①　②　③

① **カメラ使用説明書**（本書）
② **ポケットガイド**
　すぐに撮影したい方は、このガイドをご覧ください。
③ **CD-ROMガイド**
　付属ソフトウェア（EOS DIGITAL Solution Disk）とソフトウェア使用説明書のガイドです。

※　付属品は、なくさないようご注意ください。

本使用説明書上のおことわり

本文中の絵文字について

〈6〉　：メイン電子ダイヤルを示しています。
〈5〉　：サブ電子ダイヤルを示しています。
〈9〉　：マルチコントローラーを示しています。
〈0〉　：設定ボタンを示しています。
0 6／9 16：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ6秒／16秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

3：〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

(p.＊＊)：参照ページを示しています。

：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
：補足説明や補足事項を記載しています。
：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。
?：困ったときの手助けになる事項を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈ON〉または〈J〉になっていることを前提に説明しています（p.34）。
- 〈5〉の操作は、電源スイッチが〈J〉になっていることを前提に説明しています。
- メニュー機能やカスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- CFカード〈f〉、SD/SDHCメモリーカード〈g〉の使用を前提に説明しています。
- EF50mm F1.4 USMレンズを取り付けた状態で説明しています。

章目次

目　次

3 AF/ ドライブの設定 93

4 写真表現にあわせた露出制御 103

機能目次

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルと液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の残像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

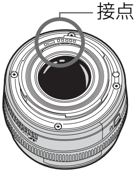
カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

レンズについて

レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

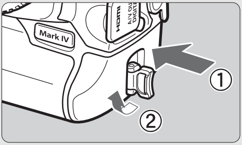


長時間使用時のご注意

連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因になることがありますので、ご注意ください。

すぐ撮影するには

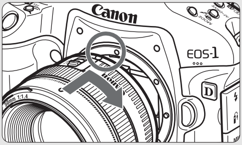
1



電池（バッテリー）を入れる（p.32）

キャップを取り外し、充電済みの電池を入れます。電池の充電方法については28ページを参照してください。

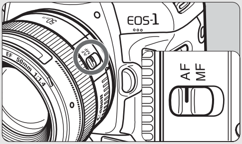
2



レンズを取り付ける（p.39）

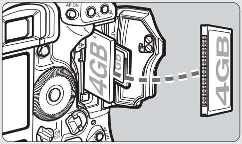
赤い指標に合わせて取り付けます。

3



レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.39）

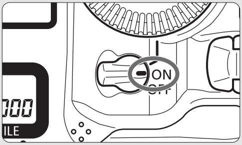
4



カードを入れる（p.36）

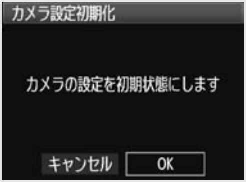
CFカードは左側、SDカードは右側のスロットに入れます。

5



電源スイッチを〈ON〉にする（p.34）

6



初期状態にする（p.53）

メニュー画面で［🔧］タブの［**カメラ設定初期化**］を選びます。

・〈MENU〉ボタンを押して、〈⚙〉〈◎〉を回して選択し、〈SET〉で設定します。
・〈**P**〉プログラムAEになります。

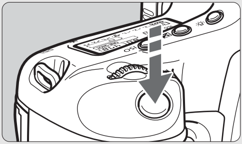
7



ピントを合わせる（p.41）

写したいものにエリアAFフレームを合わせます。シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

8



撮影する（p.41）

さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9

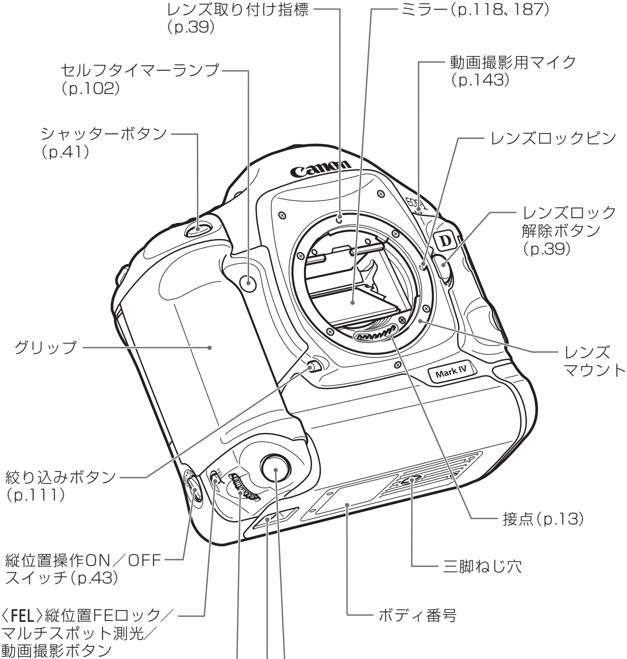


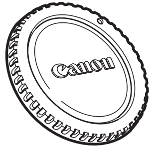
画像を確認する（p.181）

撮影した画像が液晶モニターに約2秒間表示されます。〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（p.156）。

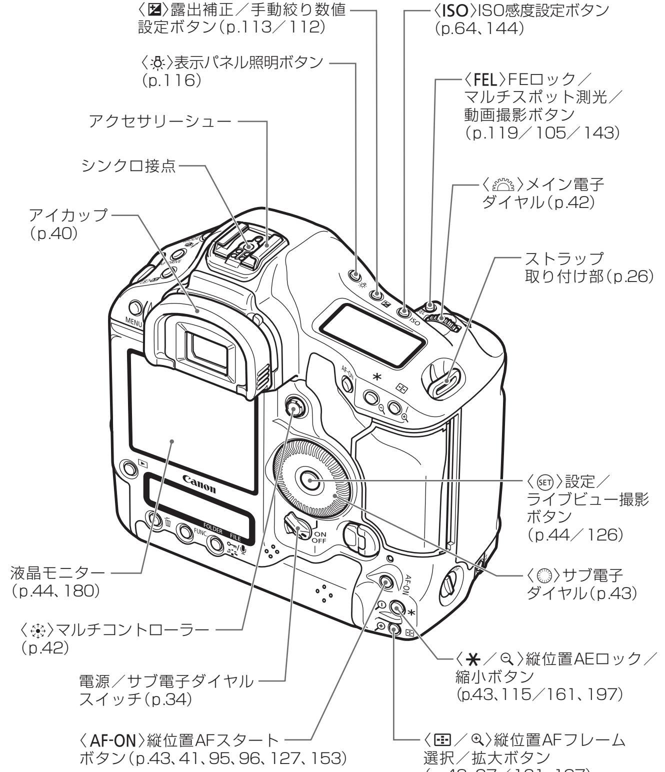
- CFカード、またはSDカードのどちらかが入っていれば撮影できます。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.156）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.179）を参照してください。

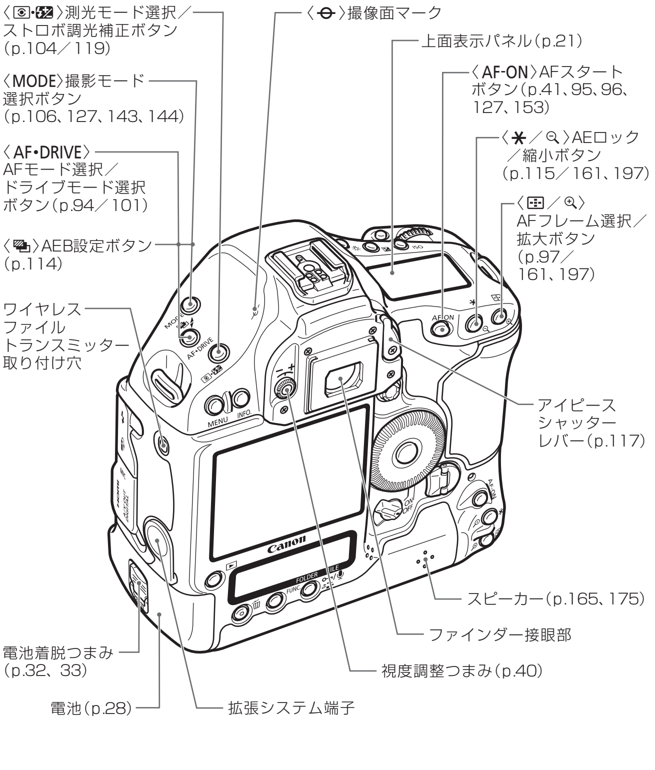
各部の名称



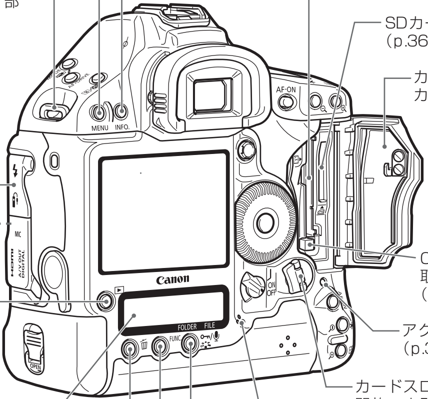


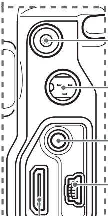
ボディキャップ（p.39）

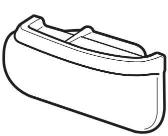

〈☒〉露出補正／手動絞り数値設定ボタン（p.113／112）
〈ISO〉ISO感度設定ボタン（p.64、144）
〈☼〉表示パネル照明ボタン（p.116）
〈FEL〉FEロック／マルチスポット測光／動画撮影ボタン（p.119／105／143）
アクセサリーシュー
シンクロ接点
〈⚙〉メイン電子ダイヤル（p.42）
アイカップ（p.40）
ストラップ取り付け部（p.26）
〈SET〉設定／ライブビュー撮影ボタン（p.44／126）
液晶モニター（p.44、180）
〈◎〉サブ電子ダイヤル（p.43）
〈✣〉マルチコントローラー（p.42）
〈✱／🔍〉縦位置AEロック／縮小ボタン（p.43、115／161、197）
電源／サブ電子ダイヤルスイッチ（p.34）
〈AF-ON〉縦位置AFスタートボタン（p.43、41、95、96、127、153）
〈⊞／🔍〉縦位置AFフレーム選択／拡大ボタン（p.43、97／161、197）
MENU
Canon
FUNC
FOLDER
FILE
ON
OFF
AF-ON
ISO



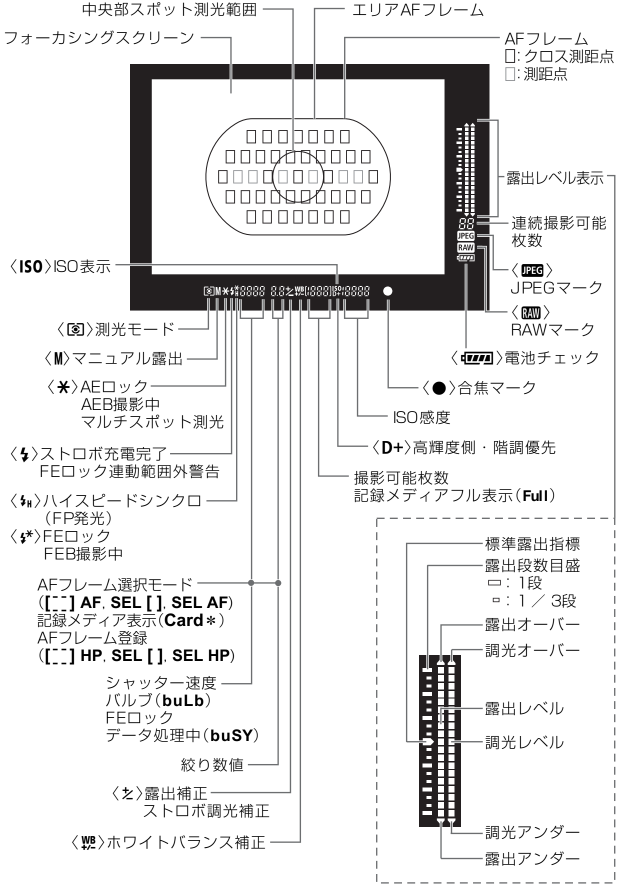
拡張システム端子にワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E2を取り付けて使用するときは、WFTのファームウェアをVer.2.0.0以上にアップデートしてください。


〈MENU〉メニューボタン(p.44)
〈INFO.〉インフォ／トリミング枠縦横切り換えボタン(p.128、148、156、246／197)
ストラップ取り付け部(p.26)
CFカードスロット(p.36)
SDカードスロット(p.36)
カードスロットカバー(p.36)
端子カバー
CFカード取り出しボタン(p.38)
〈▶〉再生ボタン(p.156)
アクセスランプ(p.38)
カードスロットカバー開放つまみ(p.36)
背面表示パネル(p.22)
音声メモ記録用マイク(p.174)
〈🗑〉消去ボタン(p.179)
〈⊶/🎙〉プロテクト/音声メモボタン(p.172/174)／
〈ピクチャースタイル〉ピクチャースタイル選択ボタン(p.66)
〈FUNC.〉ファンクションボタン(p.56、59、72、78)


〈⚡〉シンクロ端子(p.120)
〈リモコン〉リモコン端子(N3タイプ)(p.117)
〈MIC〉外部マイク入力端子(p.152)
〈A/V OUT/DIGITAL〉映像/音声出力／デジタル端子(p.170／190)
〈HDMI〉HDMIミニ出力端子(p.171)

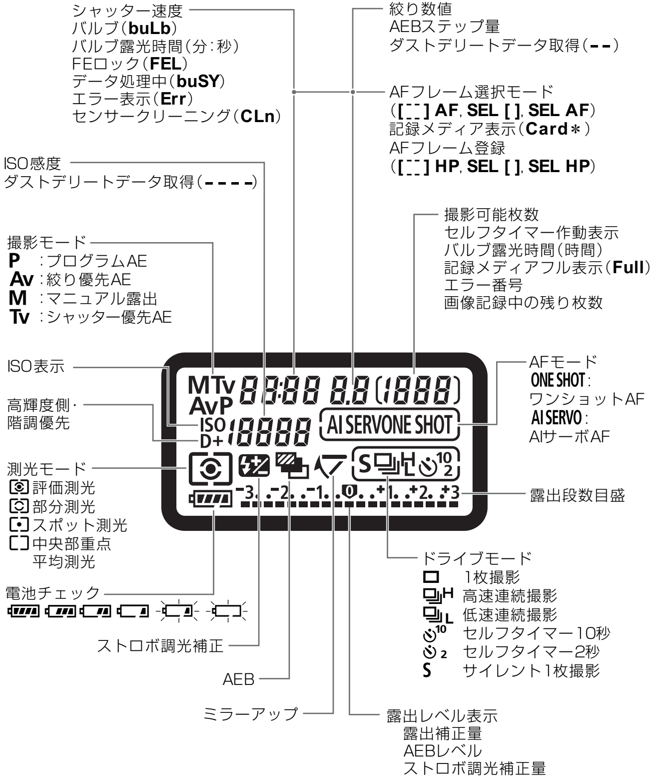

電池室キャップ(p.32)

ファインダー内表示



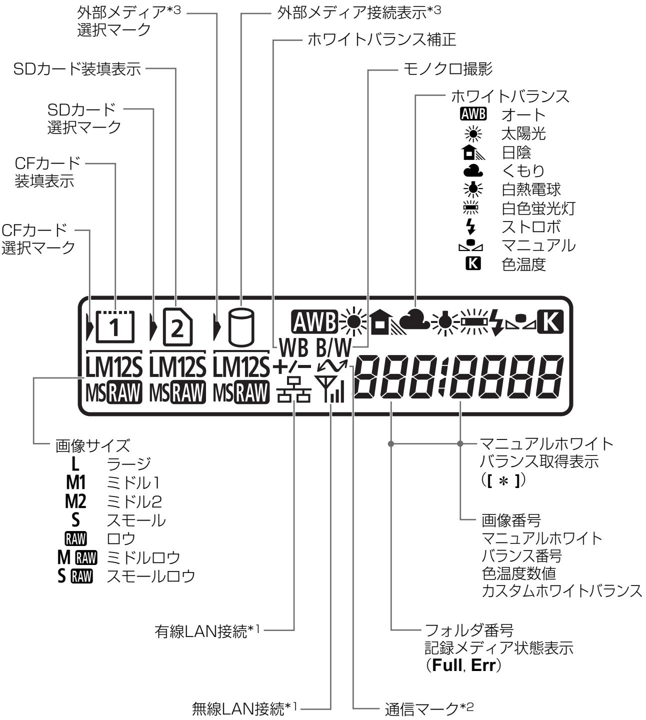
状況に応じた部分のみ表示されます。

上面表示パネル



状況に応じた部分のみ表示されます。

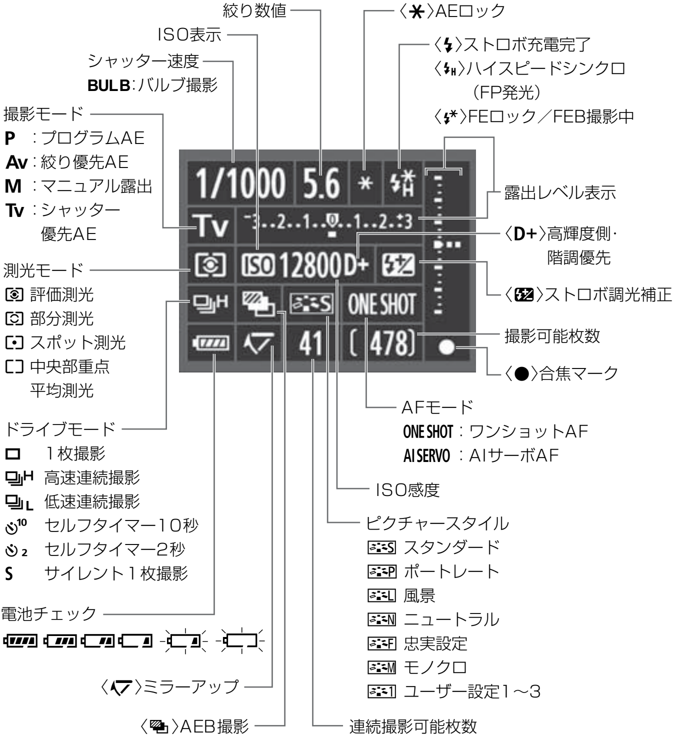
背面表示パネル



＊1：ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E2 II B、WFT-E2使用時に表示
＊2：パソコン、PictBridge（プリンター）接続時に表示
＊3：WFT-E2 II B、WFT-E2＋外部メディア使用時に表示

状況に応じた部分のみ表示されます。

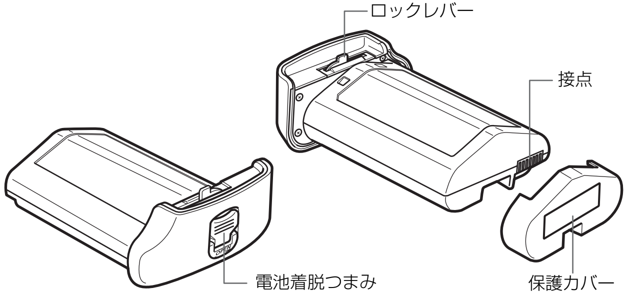
撮影機能の設定状態



状況に応じた部分のみ表示されます。

- 初期状態では、電源を入れたあと、液晶モニターに何も表示されていない状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、撮影機能の設定状態の画面が表示されます。もう一度押すと、表示が消えます。
- 撮影機能の設定状態については、217ページの［C.Fn II -10：撮影時のINFO.ボタン］を参照してください。

バッテリーパック LP-E4



つまみ側　　　　　　　　接点側

注意

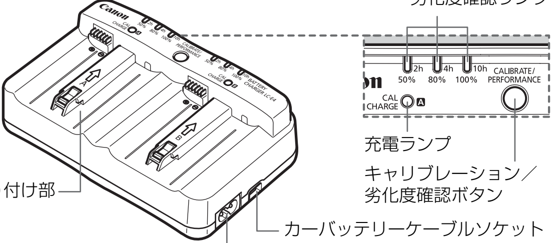
指定外の電池を使うと、爆発などの危険があります。
使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分するか、最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。

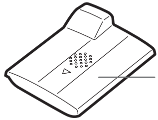
Li-ion

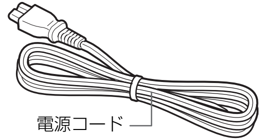
- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

バッテリーチャージャー LC-E4

バッテリーパックLP-E4用の充電器です。(p.28)



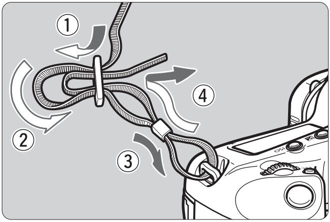




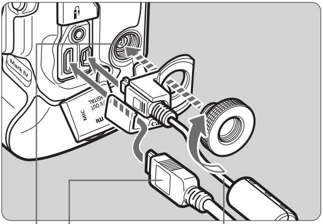
ストラップ／ハンドストラップE1の取り付け方

ケーブルプロテクターの使い方

ストラップ



ケーブルプロテクター

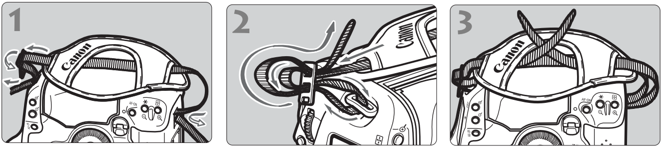


インターフェースケーブル

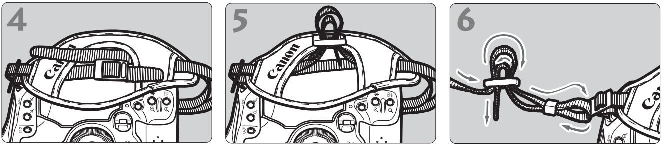
HDMIケーブル（別売）

拡張システム端子

ハンドストラップE1（別売）



ストラップを取り付ける



ストラップの取り付けが終わったら、留め具の部分のたるみを取り、ストラップを引っ張っても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

1

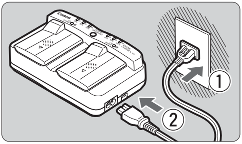
撮影前の準備と操作の基本

　この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、基本的な操作方法について説明します。

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

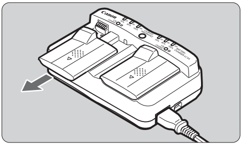
- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

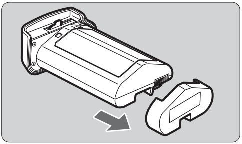
電池を充電する



1 充電器をコンセントにつなぐ

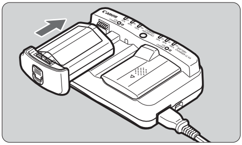
- 電源プラグをコンセントに差し込み、電源コードを充電器に接続します。
- 電池を取り付けていない状態では、すべてのランプが消灯しています。

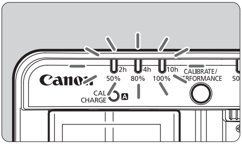




2 充電器と電池の保護カバーを外す

- 充電器の保護カバーは、スライドさせて外します。





3 充電する

- 保護カバーを外したときと逆の要領で電池をスライドさせ、充電器にしっかり取り付けます。
- A、B どちら側に取り付けても充電できます。
- ➡ 充電が始まり、緑色の充電状態ランプが点滅します。
- ➡ 3つの充電状態ランプ（50／80／100%）が点灯すると充電完了です。
- **使い切った電池の充電に要する時間は、1本あたり約2時間です。**
- 充電時間は、周囲の温度や電池の充電状態によって異なります。

電池と充電器の上手な使い方

- **充電は、使用する当日か前日にする**

　充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

- **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**

　電池と充電器を使わないときは、保護カバーを取り付けておきます。

- **電池は0℃〜45℃の範囲で使用する**

　電池の性能を十分に発揮させるためには、10℃〜30℃の範囲で使用することをおすすめします。スキー場などの低温下では電池の性能が一時的に低下し、使用できる時間が短くなることがあります。

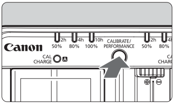
- **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**

　電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因になります。電池をカメラから取り出し、保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

- **充電器は海外でも使うことができる**

　充電器は、家庭用電源のAC100〜240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

- **電池の劣化度が確認できる**



　充電中に〈**PERFORMANCE**〉ボタンを押すと、充電状態ランプの点灯で電池の劣化度を確認することができます。

　■■■（緑）：劣化していません
　■■□（緑）：少し劣化しています
　■□□（赤）：電池の買い換えをおすすめします

- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**

　電池の劣化度（p.247）を確認したうえで、新しい電池をお買い求めください。

自動車のシガーライターソケットからも充電できる

カーバッテリーケーブルCB-570（別売）を使用すると、シガーライターソケットと充電器のカーバッテリーケーブルソケット（〈**DC IN**〉端子）をつないで充電を行うことができます。

- 充電は、必ず自動車のエンジンをかけた状態で行ってください。エンジンを止めたときは、シガーライターソケットからカーバッテリーケーブルのプラグを抜いてください。抜かずに放置すると、自動車のバッテリーがあがる原因になることがあります。
- 自動車用の変圧器を使用して充電を行わないでください。
- DC12V、またはDC24Vの自動車バッテリーを備えたマイナス接地車でのみ使用できます。また、車種により、シガーライターソケットの形状、寸法が異なるため、使用できないことがあります。

〈CAL/CHARGE〉ランプが赤色に点滅した

- カメラの電池残量表示が正確に行われるよう、電池容量を把握するためのキャリブレーションを推奨する表示です。キャリブレーションは必須の操作ではありません。充電したいときは、そのまま約10秒間待つと自動的に充電が始まります。キャリブレーションを行うときは、〈**CAL/CHARGE**〉ランプが赤色に点滅している間に、〈**CALIBRATE**〉ボタンを押します。充電状態ランプが赤色に点滅してキャリブレーション（放電）が始まります。
- キャリブレーション後、自動的に充電が行われますが、電池残量が多いほど時間がかかります。充電状態ランプの横にかかれている〈**2h**〉〈**4h**〉〈**10h**〉は、キャリブレーション（放電）に要する時間の目安で、〈**10h**〉の充電状態ランプが赤色に点滅しているときは、約10時間かかります。
- キャリブレーションを行うと放電が行われ、電池が空になりますので、その後の充電には約2時間かかります。キャリブレーションを途中で止めて充電したいときは、充電器から電池を取り外し、再度取り付けます。

? 充電状態ランプ3つ全部が点滅した

- 充電状態ランプ（緑色）が全部点滅したときは、電池の内部温度が０～40℃の適正範囲外になっています。電池の内部温度が0～40℃の範囲内になると充電が始まります。
- キャリブレーション（放電）状態ランプ（赤色）が全部点滅したときや、赤／緑色ランプが交互に点滅（〈**CAL/CHARGE**〉ランプも点滅）したときは、電池を充電器から取り外し、お買い上げになった販売店、または修理受付窓口にご連絡ください。
- バッテリーパックLP-E4以外の電池を充電器に取り付けると、赤／緑色ランプが交互に点滅（〈**CAL/CHARGE**〉ランプも点滅）して充電できません。

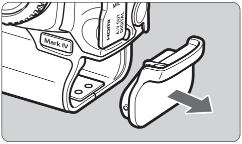
- 付属の充電器は、バッテリーパックLP-E4以外は充電できません。
- バッテリーパックLP-E4は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器や、製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

- 電池2本を充電器に取り付けたときは、取り付けた順に充電が行われます。なお、充電とキャリブレーションを同時に行うことはできますが、2本同時に充電したり、2本同時にキャリブレーションを行うことはできません。
- キャリブレーションを行うときは、電池の残量が少ない状態で行うことをおすすめします。フル充電の状態から行うと、キャリブレーション開始から充電完了まで約12時間（放電：約10時間、充電：約2時間）かかります。

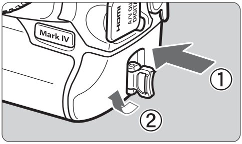
電池を入れる／取り出す

入れ方

充電したバッテリーパックLP-E4をカメラに入れます。



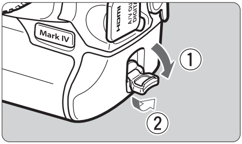
1 電池室キャップを取り外す



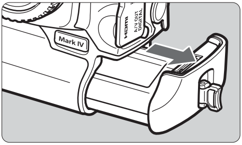
2 電池を入れる

- 電池を奥までしっかりと入れ、着脱つまみを矢印の方向に回します。

取り出し方



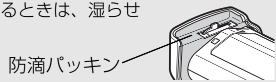
1 着脱つまみを起こし、矢印の方向に回す



2 電池を引き出す

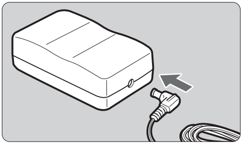
- 取り出したあとは、ショート防止のため、必ず電池に保護カバー（p.24）を取り付けてください。
- カメラを使用しないときは、電池室キャップ（p.19）をカメラに取り付けてください。

電池の防滴パッキンにゴミなどが付着しているときは、湿らせた綿棒などで取り除いてください。



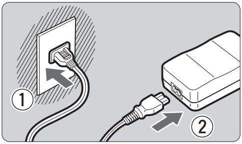
家庭用電源（別売）を使用する

ACアダプターキットACK-E4（別売）を使うと、家庭用電源を使用して、電池の残量を気にせずにカメラを使うことができます。



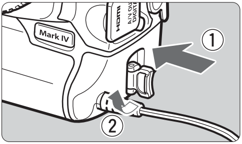
1 DCカプラーのプラグを接続する

● DCカプラーのプラグを、ACアダプターのDC端子に接続します。



2 電源コードを接続する

● 電源プラグをコンセントに差し込み、電源コードをACアダプターに接続します。



3 DCカプラーを入れる

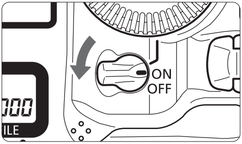
● DCカプラーを奥までしっかりと入れ、着脱つまみを矢印の方向に回します。

● 使い終わったら電源プラグをコンセントから抜いてください。

● DCカプラーは防滴構造になっていませんので、屋外で使用するときは、濡らさないようにしてください。
● 電源スイッチを〈ON〉または〈J〉にしたまま、電源コードやDCカプラーのプラグの抜き差しを行わないでください。

電源を入れる

電源／サブ電子ダイヤルスイッチ



〈OFF〉: カメラは作動しません。使用しないときはこの位置にします。
〈ON〉: カメラが作動します。
〈J〉 : カメラと〈◎〉が作動します（p.43）。

撮像素子の自動清掃について



- 電源スイッチを〈ON/J〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます。清掃中は、液晶モニターに〈⁺□⁺〉が表示されます。
- 清掃中でもシャッターボタンを半押し（p.41）すると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。
- 電源スイッチの〈ON/J〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈⁺□⁺〉が表示されないことがありますが故障ではありません。

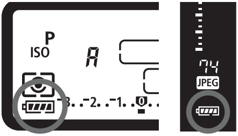
オートパワーオフについて

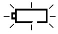
- 電池の消耗を防ぐため、約1分間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押し（p.41）すると、もう一度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、メニュー［**ƴ˙ オートパワーオフ**］で変更することができます（p.52）。

カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、［**書き込み中...**］が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池チェックについて

電池の残量は、電源スイッチを〈ON〉にしたときに、6段階で表示されます。



表示	残量（%）	状態
	100〜70	十分な残量があります
	69〜50	半分以上の残量があります
	49〜20	残量が半分以下です
	19〜10	残量が少なくなっています
	9〜1	もうすぐ電池切れになります
	0	電池を充電してください

撮影可能枚数の目安

温　度	常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影可能枚数	約1500枚	約1200枚

- フル充電のバッテリーパック LP-E4使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。

- 次の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - ・シャッターボタン半押し状態を長く続ける
  - ・AFのみ行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - ・液晶モニターを頻繁に使用する
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使用する
- 実際の撮影条件との違いにより、撮影可能枚数が表記数値よりも少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、129ページを参照してください。
- メニュー［**ꝩ: バッテリー情報**］で、電池の状態を詳しく確認することができます（p.247）。

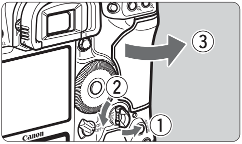
カードを入れる／取り出す

このカメラは、CFカードとSDカードが使用できます。**どちらかのカード が入っていれば、撮影した画像を記録することができます。**

両方のカードを入れたときは、どちらのカードを使用するか選択したり、両方のカードに同時に画像を記録することができます（p.56、57）。

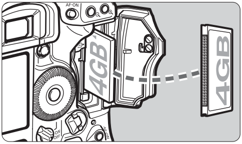
SDカード使用時は、カードのライトプロテクトスイッチが上側(書き込み／消去可能位置)にセットされていることを確認してください。

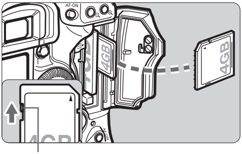
入れ方



1 カバーを開ける

● 開放つまみを起こし、矢印の方向に回して開きます。





ライトプロテクトスイッチ

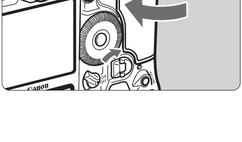
2 カードを入れる

● CFカードは左側、SDカードは右側のスロットに入れます。

● **CFカードは、図のようにカードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。**
<u>入れる向きを間違えると、カメラが壊れます。</u>

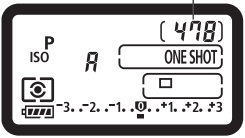
➡ CF カード取り出しボタンがせり出します。

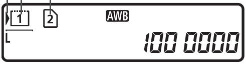
● SDカードは、カードの表を手前にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。



3 カバーを閉める

●「カチッ」と音がするまでカバーを押します。





4 電源スイッチを〈ON〉にする

➡ 上面表示パネルとファインダー内に撮影可能枚数が表示されます。

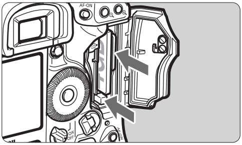
➡ 背面表示パネルには、装填したカードが表示されます。**〈▶〉マークが付いているカードに画像が記録されます。**

- SDHCメモリーカードも使用できます。
- CF（コンパクトフラッシュ）カードには、厚さの異なる2種類のタイプがありますが、どちらのタイプも使用できます。
- Ultra DMA（UDMA）対応のCFカードや、ハードディスクタイプのカードも使用できます。なお、UDMA対応のCFカードを使用すると、より高速なデータ書き込み処理が行われます。
- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより異なります。
- メニュー［**カードなしレリーズ**］を［**しない**］に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます（p.52）。

取り出し方

1 カバーを開ける

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- **アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。**



2 カードを取り出す

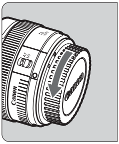
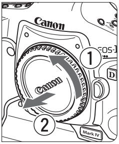
- CF カードは、取り出しボタンを押し込むとカードが出てきます。
- SD カードは、カードを軽く押し込んで離すと出てきます。
- カバーを閉じます。

- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れます。また場合により、カードが壊れたり、カメラ本体が損傷する原因になります。**
  ・カードスロットカバーを開ける
  ・電池を取り出す
  ・カメラ本体に振動や衝撃を与える
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001 から撮影されないことがあります（p.88）。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください(p.50)。正常な状態に戻ることがあります。
- ハードディスクタイプのカードを手で持つときは、必ずカードの側面を持ってください。平面部分を持つとカードが壊れることがあります。また、振動や衝撃に弱いため、特に記録/再生中は、カメラに振動や衝撃を与えないよう、注意してください。
- SDカードの接点に、指や金属が触れないように注意してください。

電源スイッチが〈OFF〉の位置でも、カードの出し入れを行うと、アクセスランプが点滅することがあります。

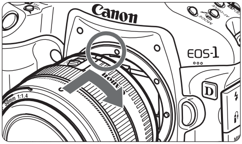
レンズを取り付ける／取り外す

取り付け方

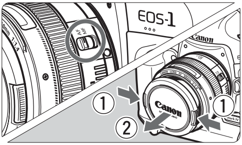
1 **キャップを外す**

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。



2 **レンズを取り付ける**

- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

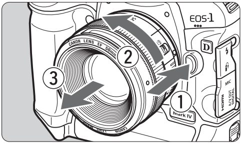


3 **レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉（自動ピント合わせ）にする**

- 〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっていると自動ピント合わせができません。

4 **レンズキャップを外す**

取り外し方



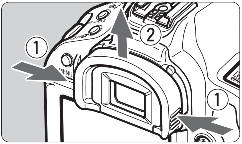
レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印方向に回す

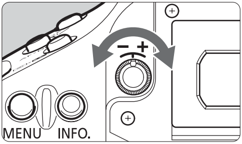
- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- EF-Sレンズは使用できません。

撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する





1 アイカップを取り外す

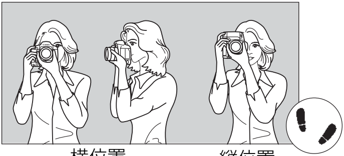
- アイカップの両脇をつまんだまま引き上げて取り外します。

2 調整する

- ファインダー内のAFフレーム、または中央部スポット測光範囲マーク（p.20）が最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- アイカップを取り付けます。

視度調整を行ってもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズEgの使用をおすすめします。

カメラの構え方



横位置　　　縦位置

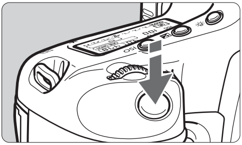
手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。

①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。
⑥片足を軽く踏み出して、体を安定させます。

液晶モニターを見ながら撮影するときは、125ページを参照してください。

シャッターボタン

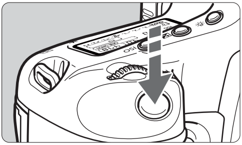
シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。



半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、上面表示パネルとファインダー内に表示されます（⏱6）。



全押し

シャッターが切れて撮影されます。

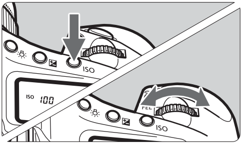
手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

- 〈AF-ON〉ボタンで半押しと同じ操作ができます。
- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

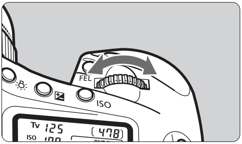
メイン電子ダイヤルによる機能の選択と設定



(1) ボタンを押したあと、〈〉を回す

ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（6）で保持されます。その間に〈〉を回します。タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- 撮影モード、AF　モード、測光モード、AFフレーム、ISO感度、ピクチャースタイル、〈〉ボタンを使用した露出補正、カードの選択・設定などに使用します。

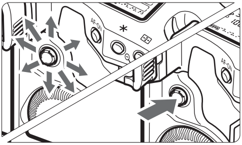


(2) 〈〉のみを回す

ファインダー内表示や上面表示パネルを見ながら〈〉を回します。

- シャッター速度や絞り数値の設定などに使用します。

マルチコントローラー操作



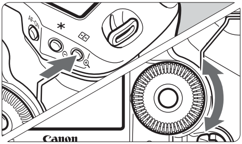
〈〉は8方向キーと中央押しボタンの構造になっています。

- AF フレーム選択、ホワイトバランス補正、ライブビュー撮影時におけるAFフレーム/拡大表示枠の移動、再生時における拡大表示位置の移動などに使用します。

〈〉でメニュー機能の設定を行うこともできます（[**画像消去**]、[**カード初期化**] を除く／p.45）。

サブ電子ダイヤルによる機能の選択と設定

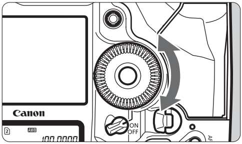
〈〉を操作するときは、電源スイッチを〈J〉にしてください。



(1) ボタンを押したあと、〈〉を回す

ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈〉を回します。タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- 撮影モード、ドライブモード、ストロボ調光補正、AFフレーム、ISO感度、ピクチャースタイル、〈〉ボタンを使用した露出補正、画像サイズ、ホワイトバランスの選択・設定などに使用します。



(2) 〈〉のみを回す

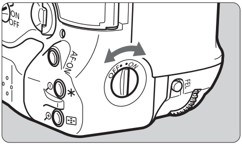
ファインダー内表示や上面表示パネルを見ながら〈〉を回します。

- 露出補正、マニュアル露出時の絞り数値の設定、AFフレームの選択などに使用します。

（1）の操作は、電源スイッチが〈**ON**〉の位置でも行うことができます。

縦位置撮影時の操作

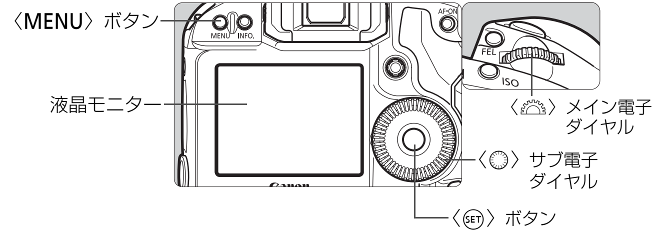
カメラの下部には、縦位置撮影用のボタン、ダイヤルが配置されています（p.16、17）。

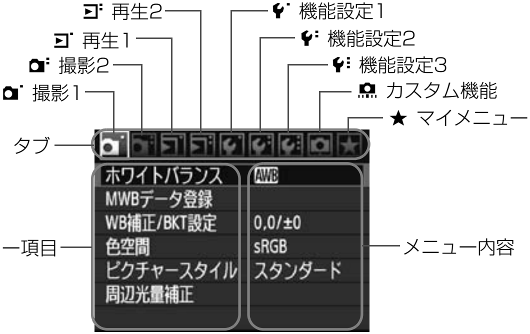


- 縦位置撮影用のボタン、ダイヤルを使用するときは、縦位置操作ON／OFFスイッチを〈**ON**〉にします。
- 使用しないときは、誤って作動しないように、〈**OFF**〉にします。

メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、電子音や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。メニュー機能の操作は、液晶モニターを見ながら、カメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈 〉〈 〉を使って行います。





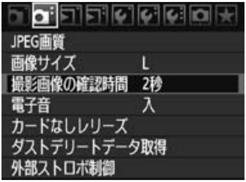
アイコン	色	系統	説明
	赤	撮影系	撮影に関する項目
	青	再生系	撮影した画像の再生に関する項目
	黄	機能設定系	カメラの機能に関する項目
	橙	カメラのカスタマイズ機能	
★	緑	よく使うメニュー機能やカスタム機能の登録	

メニュー機能の設定操作



1 メニューを表示する
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

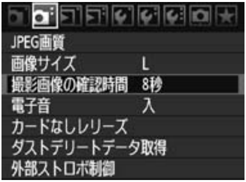
2 タブを選ぶ
- 〈◎〉を回してタブ（系統）を選びます。



3 項目を選ぶ
- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。



4 内容を選ぶ
- 〈◎〉を回して内容を選びます。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。



5 内容を設定する
- 〈SET〉を押すと設定されます。

6 設定を終了する
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影準備状態に戻ります。

- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- 〈✣〉でメニュー機能の設定を行うこともできます（[**画像消去**]、[**カード初期化**] を除く）。

メニュー機能一覧

撮影1（赤）

		参照頁
ホワイトバランス	AWB／☀／⌂／☁／☀／▦／ϟ／▲（1～5）／K（2500～10000）／PC-1～5	72
MWBデータ登録	ホワイトバランスデータの手動登録	73
WB補正/BKT設定	WB補正：B/A/M/G寄り各色9段 WB-BKT：B/A、M/G方向1段ステップ±3段	79 80
色空間	sRGB／Adobe RGB	92
ピクチャースタイル	S スタンダード／P ポートレート／L 風景／N ニュートラル／F 忠実設定／M モノクロ／1 ユーザー設定1～3	66～71
周辺光量補正	する／しない	82

撮影2（赤）

JPEG画質	**L**、**M1**、**M2**、**S**の画質（圧縮率）を設定	63
画像サイズ	RAW／**M** RAW／**S** RAW **L**／**M1**／**M2**／**S**　（→ p.48）	59
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	181
電子音	入／切	52
カードなしレリーズ	する／しない	52
ダストデリートデータ取得	付属ソフトウェアでゴミ消し処理を行うためのデータを取得	185
外部ストロボ制御	ストロボ機能設定／ストロボカスタム機能設定／ストロボカスタム機能一括解除	121

再生1（青）

画像プロテクト	画像の保護	172
画像回転	画像の縦横回転	162
画像消去	画像の消去	179
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	199
画像コピー	カード間の画像コピー	176
外部メディアへのバックアップ	WFT-E2 II B、WFT-E2（別売）経由、外部メディア使用時に表示	−

再生2（青）

		参照頁
ハイライト警告表示	しない／する	157
AFフレーム表示	しない／する	158
ヒストグラム	輝度／RGB	158
拡大表示設定	画面中央から拡大／AFフレーム任意選択点から拡大	161
での画像送り	1枚／10枚／100枚／撮影日／フォルダ／動画／静止画	160
スライドショー	再生内容／再生間隔／リピートを設定して自動再生	168

機能設定1（黄）

オートパワーオフ	1分／2分／4分／8分／15分／30分／切	52
記録機能とメディア・フォルダ選択	［**記録機能**］標準／自動切り換え／振り分け／同一書き込み ［**記録・再生**］［**再生**］1／2／ ［**フォルダ**］フォルダの作成と選択	57 56 84
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	88
ファイル名の設定	ファイル名（固有設定）／ユーザー設定1／ユーザー設定2	86
縦位置画像回転表示	する ／する ／しない	182
カード初期化	記録内容を初期化して消去	50

機能設定 2（黄）

液晶の明るさ	7段階の明るさ調整	180
日付/時刻	日付（年/月/日）/時刻（時/分/秒）の設定	49
言語	日本語／英語	49
ビデオ出力方式	NTSC／PAL	170
バッテリー情報	型式、残容量、撮影回数、劣化度の確認	247
ライブビュー機能/動画機能設定	LV / 設定／AFモード／グリッド／露出Simulation／測光タイマー／動画記録サイズ／録音 (→ p.48)	126 130 142 151

機能設定3（黄）

		参照頁
カメラ設定をメディアに保存・読込	カメラの設定状態をカードに保存・読み込み	238
カメラ基本設定の登録・呼出	カメラの基本設定をカメラに登録・呼び出し	240
カメラ設定初期化	カメラの設定を初期状態にする	53
著作権情報	著作権情報の表示／作成者名入力／著作権者名入力／著作権情報の消去	90
センサークリーニング	自動クリーニング／今すぐクリーニング／手作業でクリーニング	184
ファームウェア	ファームウェア変更時に選択	－
WFTの設定	WFT-E2 II B、WFT-E2（別売）装着時に表示	－

カスタム機能（橙）

C.Fn I：露出	カメラの機能を細かく設定する	208
C.Fn II：画像・調光・表示		214
C.Fn III：AF・ドライブ		218
C.Fn IV：操作・その他		227
カスタム機能（C.Fn）一括解除	カスタム機能をすべて解除	204
カスタム機能設定状態の登録・呼出	カスタム機能の設定状態をカメラに登録・呼び出し	235

★ マイメニュー（緑）

マイメニューの設定	よく使うメニュー機能やカスタム機能を登録	237

- ［**画像サイズ**］で表示される内容は、［**記録機能とメディア・フォルダ選択**］の［**記録機能**］（p.57）の設定により変わります。［**記録機能**］が［**振り分け**］に設定されているときは、カードごとに、画像サイズを設定します。
- ［**ライブビュー機能/動画機能設定**］で表示される内容は、［**LV/設定**］の設定により変わります。また、［**動画記録サイズ**］で表示される内容（フレームレート）は、［**ビデオ出力方式**］の設定により変わります。

使い始める前の準備

MENU 表示言語を設定する



1 ［言語🗨］を選ぶ

- ［🔧:］タブの［**言語🗨**］（上から3番目の項目）を選び、〈SET〉を押します。



2 言語を設定する

- 〈◎〉を回して言語を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示言語が切り換わります。

MENU 日付／時刻を確認する

日付と時刻を確認し、合っていないときは、次の手順で設定します。



1 ［日付/時刻］を選ぶ

- ［🔧:］タブの［**日付/時刻**］を選び、〈SET〉を押します。



2 日付/時刻／日付表示順序を設定する

- 〈◎〉を回して項目を選びます。
- 〈SET〉を押して、⇕ の状態にします。
- 〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。（□ の状態に戻ります）

3 設定を終了する

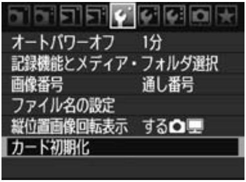
- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 日付/時刻が設定され、メニューに戻ります。

> 撮影した画像には、日付/時刻が一緒に記録されますので、正しく設定してください。

MENU カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。

カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。



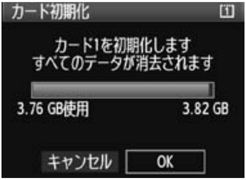
1 ［カード初期化］を選ぶ

- ［🔧］タブの［**カード初期化**］を選び、〈SET〉を押します。



2 カードを選ぶ

- ［1］はCFカード、［2］はSDカードです。
- 〈◎〉を回してカードを選び、〈SET〉を押します。



3 ［OK］を選ぶ

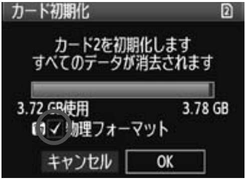
- ［2］選択時は、物理フォーマットを行うことができます（p.51）。
- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ カードが初期化されます。
- ➡ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。

カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイルの管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、物理フォーマットを行ったり、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。

物理フォーマットについて

［2］選択時に物理フォーマットを行うことができます。SDカードへの書き込み速度が低下したときや、SDカードに記録されている内容を完全に消去したいときは、［**物理フォーマット**］にチェックを入れてから初期化を行ってください。



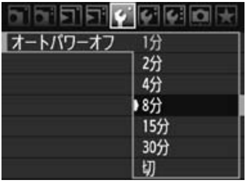
〈🗑〉ボタンを押す

- 前ページの手順3で〈🗑〉ボタンを押します。
- ➡ ［**物理フォーマット**］の横にチェックマーク〈✓〉が表示されます。
- 〈✓〉が表示された状態で［**OK**］を選ぶと、物理フォーマットが始まります。

- 物理フォーマットは、SD カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［**キャンセル**］を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、SDカードはそのまま問題なく使用できます。

MENU 電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ

電池の消耗を防ぐため、一定時間カメラを操作しないと、電源が自動的に切れます。オートパワーオフで、電源が自動的に切れるまでの時間を設定することができます。自動的に切れないようにするときは［切］に設定します。電源が切れたときは、シャッターボタンなどを押すと電源が入ります。



1 ［オートパワーオフ］を選ぶ

- ［ ］タブの［オートパワーオフ］を選び、〈SET〉を押します。

2 時間を設定する

- 〈 〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

［切］に設定しても、節電のため約30分で液晶モニターの表示が消えます（電源は切れません）。

MENU 電子音が鳴らないようにするときは

AFでピントが合った際などに、電子音が鳴らないようにすることができます。

1 ［電子音］を選ぶ

- ［ ］タブの［電子音］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［切］を選ぶ

- 〈 〉を回して［切］を選び、〈SET〉を押します。

MENU カードの入れ忘れを防止する

カメラにカードが入っていないときに、撮影できないようにすることができます。

1 ［カードなしレリーズ］を選ぶ

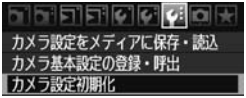
- ［ ］タブの［カードなしレリーズ］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［しない］を選ぶ

- 〈 〉を回して［しない］を選び、〈SET〉を押します。

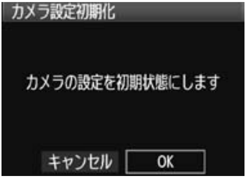
MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す

撮影機能や、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。



1 ［カメラ設定初期化］を選ぶ

● ［¥:］タブの［**カメラ設定初期化**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［OK］を選ぶ

● 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ カメラの設定が、次のようになります。

撮影機能関係

撮影モード	**P**（プログラムAE）
AFモード	ワンショットAF
AFフレーム	自動選択
測光モード	◙（評価測光）
ドライブモード	□（1枚撮影）
露出補正	0（ゼロ）
AEB	解除
ストロボ調光補正	0（ゼロ）
外部ストロボ制御	そのまま

画像記録関係

記録機能	標準
画像サイズ	**L**（ラージ）
JPEG画質	8
ISO感度	A（AUTO）
ピクチャースタイル	S（スタンダード）
周辺光量補正	する／登録レンズ保持
色空間	sRGB
ホワイトバランス	AWB（オート）
MWBデータ	登録保持
カスタムWB	登録保持
WB補正	解除
WB-BKT	解除
画像番号	通し番号
ファイル名の設定	カメラ固有
著作権情報	情報保持
自動クリーニング	する
ダストデリートデータ	消去

カメラ設定関係

オートパワーオフ	1分
電子音	入
カードなしレリーズ	する
撮影画像の確認時間	2秒
ハイライト警告	しない
AFフレーム表示	しない
登録AFフレーム	解除（中央）
ヒストグラム	輝度
拡大表示設定	画面中央
での画像送り	10枚
縦位置画像回転表示	する
スライドショー	全画像
液晶の明るさ	
日付/時刻	そのまま
言語	そのまま
ビデオ出力方式	そのまま
基本設定の内容	そのまま
マイメニューの内容	そのまま
マイメニューから表示	しない
カスタム機能	そのまま

ライブビュー撮影／動画撮影関係

LV/設定	しない
AFモード	ライブモード
グリッド	表示しない
露出Simulation	する
動画記録サイズ	1920×1080
録音	する
測光タイマー	16秒

2

画像に関する設定

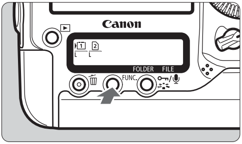
この章では、記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、オートライティングオプティマイザ、レンズの周辺光量補正など、画像に関係する機能設定について説明します。

画像を記録・再生するカードを選択する

本書では、CFカード、SDカードの使用を前提に説明しています。ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E2 II B、WFT-E2（別売）経由で、外部メディアを使用したときは、〈⊟〉が表示され、CFカード〈1〉、SDカード〈2〉と同じように、3番目の記録先〈⊟〉として選択することができます。

カメラにCFカード、またはSDカードの一方が入っていれば、画像を記録するカードが自動的に選択されます。

両方入れたときは、次の手順で記録・再生するカードを選択します。



1 〈FUNC.〉ボタンを押す（⏱6）

- 〈FUNC.〉ボタンを1回、または2回押して、背面表示パネルの左側に、カードと画像サイズを表示させます。

カード/画像サイズ ⇄ WB



2 カードを選ぶ

- 〈⚙〉を回して記録するカードを選びます。

  ▸1 ：CFカードに記録

  ▸2 ：SDカードに記録

- 〈◎〉を回すと、画像サイズを選ぶことができます（p.59）。

MENU カードの選択と記録・再生について

- メニュー［**記録機能とメディア・フォルダ選択**］の［**記録・再生**］（［**再生**］）で、カードを選ぶこともできます。なお、［**記録機能**］（p.57）の設定内容により、ここで行う選択操作の意味合いが異なります。

  ［**標準**］［**自動切り換え**］

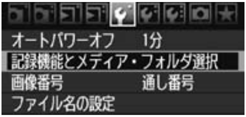
  本ページの操作は、画像を「記録・再生」するカードの選択になります。

  ［**振り分け**］［**同一書き込み**］

  撮影した画像は、CFカード、SDカードに同時に記録されます。そのため、本ページの操作は、画像を「再生」するカードの選択になります。

MENU カードを2枚入れたときの記録方法の設定

カメラにCFカードとSDカードを入れたときは、カードへの記録方法を設定することができます。



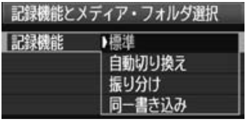
1 ［記録機能とメディア・フォルダ選択］を選ぶ

● ［ ］タブの［**記録機能とメディア・フォルダ選択**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［記録機能］を選ぶ

● 〈 〉を回して［**記録機能**］を選び、〈SET〉を押します。



3 記録方法を選ぶ

● 〈 〉を回して記録方法を選び、〈SET〉を押します。

● **標準**

前ページで選択したカードに画像が記録されます。

● **自動切り換え**

［**標準**］と同じですが、記録先のカードの空き容量がなくなると、記録先がもう一方のカードに自動的に切り換わります。

● **振り分け**

カードごとに記録する画像サイズを設定することができます（p.59）。1回の撮影でCFカード、SDカードに、設定したサイズの画像が記録されます。JPEGの**L**と**M2**、RAWと**M** RAWなど、画像サイズを自由に設定して撮影することができます。

● **同一書き込み**

1回の撮影でCFカード、SDカードに同じ画像が記録されます。RAW＋JPEGを選ぶこともできます。

- ［**自動切り換え**］のときは、1→2→□の順で切り換わります。
- ［**振り分け**］［**同一書き込み**］設定時は、CF カード、SD カードに同じ画像番号で記録されます。また、上面表示パネルとファインダー内には、撮影可能枚数が少ない方のカードの枚数が表示されます。どちらかのカードの空き容量がなくなると、［**カード*がいっぱいです**］が表示され、撮影できなくなります。そのときは、カードを交換するか、記録機能の設定を［**標準**］または［**自動切り換え**］にして、空き容量のあるカードを選ぶと、撮影を行うことができます。

記録画質を設定する

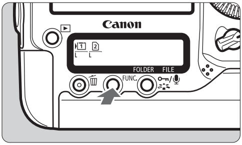
画像サイズ（記録画素数）／画像タイプ（JPEG、RAW）と、JPEG画質（圧縮率）を設定することができます。

画像サイズの選択

L／M1／M2／Sは、JPEG画像として記録されます。RAW／M RAW／S RAWは、撮影後、付属のソフトウェアで現像処理を行います。

なお、画像サイズは、次の2通りの方法で設定することができます。

背面表示パネルからの設定



1 〈FUNC.〉ボタンを押す（⏱6）

- 〈FUNC.〉ボタンを1回、または2回押して、背面表示パネルの左側に、カードと画像サイズを表示させます。

画像サイズ/カード ⇄ WB



2 画像サイズを選ぶ

- 〈◎〉を回して画像サイズを選びます。
- RAW／M RAW／S RAWと、L／M1／M2／Sが同時に表示されているときは、RAW画像と、JPEG画像がカードに同時記録されます。
- 〈◎〉を回すと、記録・再生するカードを選ぶことができます（p.56）。

［**記録機能**］の設定が［**振り分け**］に設定されているときは（p.57）、〈◎〉を回してカードを選び、カードごとに、画像サイズを設定します。

メニュー画面からの設定



1 **［画像サイズ］を選ぶ**

- ［◘̇］タブの［**画像サイズ**］を選び、〈SET〉を押します。



2 **画像サイズを設定する**

- RAWの画像サイズは〈ダイヤル〉、JPEGの画像サイズは〈◎〉を回して選びます。
- 画面の数字 「***M（百万画素）****×****」は記録画素数、［****］は撮影可能枚数を示しています。
- 〈SET〉を押すと設定されます。

画像サイズの設定例

Lのみ



RAWのみ



S RAW＋M2



- RAWとJPEGの設定を、両方［－］にしたときは、**L**に設定されます。
- ［**記録機能**］の設定が［**振り分け**］に設定されているときは（p.57）、設定画面が異なります。カードごとに、画像サイズを設定します。
- 設定した画像サイズに応じて、ファインダー内の右側に〈JPEG〉〈RAW〉マークが点灯します。
- 画像サイズの読み方は、**RAW**（ロウ）、**M RAW**（ミドルロウ）、**S RAW**（スモールロウ）、JPEG（ジェイペグ）、**L**（ラージ）、**M1**（ミドル1）、**M2**（ミドル2）、**S**（スモール）です。

画像サイズを選ぶときの目安（約）

画像サイズ	記録画素数	印刷サイズ	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
L	16.0M	A3以上	5.7	692	85（121）
M1	12.4M	A3程度	4.5	874	111（164）
M2	8.4M	A4以上	3.5	1148	182（309）
S	4.0M	A5以上	2.0	1957	1957（5447）
RAW	16.0M	A3以上	22.2	175	26（28）
RAW＋L	16.0M＋16.0M	—	22.2+5.7	139	20（20）
RAW＋M1	16.0M＋12.4M		22.2+4.5	145	20（20）
RAW＋M2	16.0M＋8.4M		22.2+3.5	152	20（20）
RAW＋S	16.0M＋4.0M		22.2+2.0	161	20（20）
M RAW	9.0M	A4以上	14.8	263	33（35）
M RAW＋L	9.0M＋16.0M	—	14.8+5.7	190	20（20）
M RAW＋M1	9.0M＋12.4M		14.8+4.5	202	20（20）
M RAW＋M2	9.0M＋8.4M		14.8+3.5	214	20（20）
M RAW＋S	9.0M＋4.0M		14.8+2.0	232	20（20）
S RAW	4.0M	A5以上	9.9	397	43（43）
S RAW＋L	4.0M＋16.0M	—	9.9+5.7	251	20（20）
S RAW＋M1	4.0M＋12.4M		9.9+4.5	272	20（20）
S RAW＋M2	4.0M＋8.4M		9.9+3.5	294	20（20）
S RAW＋S	4.0M＋4.0M		9.9+2.0	329	20（20）

- ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準4GBカードを使用し、当社試験基準（JPEG画質：8、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時）で測定したものです。**これらの数値は、被写体やカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。**
- 連続撮影可能枚数（バースト枚数）は、〈□ᴴ〉高速連続撮影時の数値です。なお、（ ）内の数値は、当社試験基準Ultra DMA（UDMA）モード6対応、16GBカード使用時の枚数です。

RAWについて

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生データ」です。RAW、M RAW、S RAW から選ぶことができます（本文中では「RAW」と表記）。

RAW画像は、付属のソフトウェアで、使用目的に応じたさまざまな画像調整を行ったあと、その調整を反映させたJPEG画像、TIFF画像などを生成することができます。

市販のソフトウェアでは、撮影したRAW画像を表示できないことがあります。付属ソフトウェアの使用をおすすめします。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）について



前ページの表に示した「連続撮影可能枚数」は、初期化されたカードを使用したときに、連続して何枚撮影できるかを示しています。

ファインダー内右側に表示される数字で、連続撮影できる枚数の目安を確認することができます。

- 連続撮影可能枚数は、カードが入っていないときにも表示されますので、カードが入っていることを確認してから撮影してください。
- ［C.Fn II -2：高感度撮影時のノイズ低減］を［2：強め］に設定すると、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります（p.214）。

- 連続撮影可能枚数が、ファインダー内に「**99**」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、数値が減っていき、内部メモリーがいっぱいになると、上面表示パネルとファインダー内に「**buSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると、数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、61ページの表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。
- UDMA対応のCFカードを使用しても、ファインダー内の連続撮影可能枚数の表示は変わりませんが、61ページの表の( )内に示した枚数の連続撮影ができます。

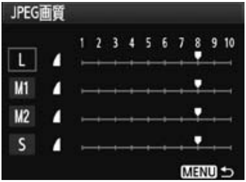
MENU JPEG画質（圧縮率）の設定

画像サイズ**L**/**M1**/**M2**/**S**ごとに、記録画質（圧縮率）を設定することができます。



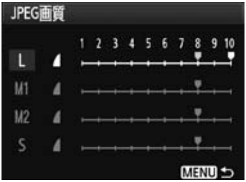
1 **［JPEG画質］を選ぶ**

- ［◘⁝］タブの［**JPEG画質**］を選び、〈SET〉を押します。



2 **画像サイズを選ぶ**

- 〈◎〉を回して画像サイズを選び、〈SET〉を押します。



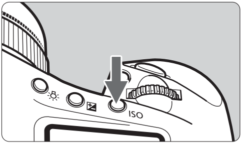
3 **画質（圧縮率）を設定する**

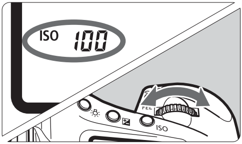
- 〈◎〉を回して数値を選び、〈SET〉を押します。
- 大きな数値に設定するほど、高画質（低圧縮）で記録されます。
- 6～10は〈◢〉、1～5は〈▟〉で表示されます。

大きな数値に設定するほど高画質になりますが、撮影可能枚数は少なくなります。逆に小さな数値に設定するほど画質は低下しますが、撮影可能枚数は多くなります。

ISO：ISO感度を設定する

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。





1 〈ISO〉ボタンを押す（⏱6）

2 ISO感度を設定する

- 上面表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈◎〉を回します。
- ISO100～12800まで、1/3段ステップで設定することができます。
- 「**A**」を選ぶと、ISO感度が自動設定されます（p.65）。

ISO感度を選ぶときの目安（ストロボなし）

ISO感度	撮影シーン	ストロボ撮影できる距離
100～400	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります。
400～1600	曇り空、夕方	
1600～12800、H1、H2、H3	暗い屋内、夜景	

- ［C.Fn II -3：高輝度側・階調優先］を［1：する］に設定すると、「**L**」（ISO50相当）、ISO100/125/160、「**H1**」（ISO25600相当）、「**H2**」（ISO51200相当）、「**H3**」（ISO102400相当）は選択できなくなります（p.215）。
- ISO感度を高くしたり、高温下で撮影すると、画像のザラツキ感がやや増すことがあります。さらに、長時間露光の条件で撮影を行うと、画像に色ムラが発生することがあります。
- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（横縞、輝点など）や色ムラが目立つことがあります。なお、［C.Fn I -3：ISO感度の制御範囲の設定］（p.208）で、上限値を拡張し、ISO感度をH1,H2,H3に設定して撮影すると、さらにノイズや色ムラが目立つことがあります。

［C.Fn I -3：ISO感度の制御範囲の設定］で、ISO感度の設定範囲を、ISO50相当（L）～ISO102400相当（H3）まで拡張することができます。

ISO感度の自動設定「A」（Auto）について



ISO感度の設定が「**A**」のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が表示されます。ISO感度は、撮影モードに応じて次のように自動設定されます。

初期状態でのISO感度

撮影モード	ISO感度設定
P/**Tv**/**Av**/**M**	ISO100～12800
バルブ撮影時	ISO400固定
ストロボ撮影時	ISO400固定*

* 撮影モードが〈**P**〉のときに、外部ストロボを使用してバウンスを行った場合は、ISO400～1600自動設定

* 日中シンクロで撮影時に、露出オーバーになる場合は、最低ISO100

［**C.Fn I-3：ISO感度の制御範囲の設定**］（p.208）の上限値／下限値の設定と、ISO感度自動設定（Auto）の関係は次のとおりです。

P/Tv/Av/M撮影時

- 上限値をH1,H2,H3、下限値をLに設定しても、自動設定範囲はISO100～12800のまま変わりません。
- 初期設定から上限値、下限値を狭めたときは、設定した範囲で自動制御されます。

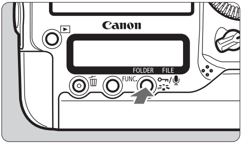
バルブ撮影、ストロボ撮影時

- 上限値～下限値の範囲にISO400が含まれないときは、ISO400に近い感度に設定されます。

［**C.Fn I-3：ISO感度の制御範囲の設定**］、［**C.Fn I-12：シャッター速度の制御範囲の設定**］（p.211）、［**C.Fn I-13：絞り数値の制御範囲の設定**］（p.211）で制御範囲を制限していても、［**C.Fn I-8：セイフティシフト**］（p.210）が［**1：する（Tv/Av値）**］、または［**2：する（ISO感度）**］に設定されているときは、適正な露出で撮影できるように、制御範囲外の値が設定されることがあります。

ピクチャースタイルを選択する

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。



1 〈〉ボタンを押す

- 撮影準備状態で〈〉ボタンを押します。
- ➡ ピクチャースタイル画面が表示されます。



2 スタイルを選ぶ

- 〈〉または〈〉を回してスタイルを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ スタイルが設定され、撮影準備状態に戻ります。

> メニュー［ **ピクチャースタイル**］から設定することもできます。

各ピクチャースタイルの画像特性について

S スタンダード

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

P ポートレート

肌がきれいで、ややくっきりした写真になります。女性や子どもをアップで写すときに効果的です。

68ページの［**色あい**］を変えると、肌色を調整することができます。

L 風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

ニュートラル

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

忠実設定

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

モノクロ

白黒写真になります。

> JPEG画像は、カラー写真に戻すことができません。［**モノクロ**］に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないように注意してください。なお、［**モノクロ**］設定時は、背面表示パネルに〈**B/W**〉が表示されます。

ユーザー設定1～3

［**ポートレート**］や［**風景**］、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、［**ユーザー設定＊**］に登録することができます（p.70）。登録されていないときは、［**スタンダード**］の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号について

スタイル選択画面の上にある記号は、［**シャープネス**］［**コントラスト**］などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている［**シャープネス**］［**コントラスト**］などの設定値を示しています。





記号の意味

	シャープネス
	コントラスト
	色の濃さ
	色あい
	フィルター効果（モノクロ）
	調色（モノクロ）

ピクチャースタイルを調整する

それぞれのピクチャースタイルは、好みに合わせて設定内容（[**シャープネス**]［**コントラスト**］など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りを重ねて確認してください。[**モノクロ**］の調整については、次ページを参照してください。



1 〈〉ボタンを押す

2 スタイルを選ぶ

- 〈〉または〈〉を回してスタイルを選び、〈INFO.〉ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

- 〈〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。





4 内容を設定する

- 〈〉を回して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

設定内容とその効果

シャープネス	0：輪郭強調・控えめ	+7：輪郭強調・強め
コントラスト	-4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
色の濃さ	-4：薄い	+4：濃い
色あい	-4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

- 手順３で［**初期設定**］を選ぶと、スタイルごとに、設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、前ページの手順2で、調整したスタイルを選択してから撮影します。

モノクロの調整

［**シャープネス**］と［**コントラスト**］の他に、［**フィルター効果**］［**調色**］を設定することができます。

フィルター効果

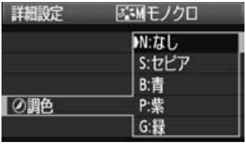


フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N ：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R ：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G ：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色



調色を設定すると、色のついたモノクロ画像を撮影することができます。より印象的な画像にしたいときに有効です。

［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選ぶことができます。

ピクチャースタイルを登録する

［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを選択し、好みに合わせて調整して、［**ユーザー設定1**］から［**ユーザー設定3**］に登録することができます。

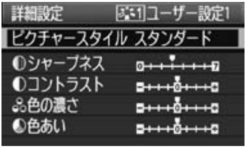
シャープネスやコントラストなどの設定が異なる、複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。また、付属のソフトウェアからカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

1 〈〉ボタンを押す



2 ［ユーザー設定］を選ぶ

- 〈〉または〈◎〉を回して［**ユーザー設定＊**］を選び、〈INFO.〉ボタンを押します。



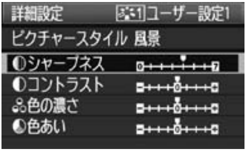
3 〈SET〉を押す

- ［**ピクチャースタイル**］が選ばれた状態で〈SET〉を押します。



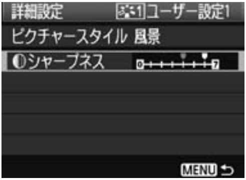
4 基本にするスタイルを選ぶ

- 〈◎〉を回して基本にするスタイルを選び、〈SET〉を押します。
- 付属のソフトウェアから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。



5 項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**シャープネス**］などの項目を選び、〈SET〉を押します。



6 内容を設定する

- 〈◎〉を回して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
  詳しくは、『ピクチャースタイルを調整する』(p.68、69) を参照してください。



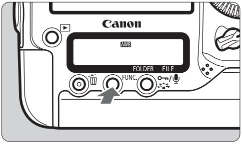
- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ [**ユーザー設定***] の右に、基本にしたスタイルが表示されます。

[**ユーザー設定***] にスタイルがすでに登録されているときは、手順4で基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。

登録したスタイルで撮影するときは、前ページの手順2で、[**ユーザー設定***] を選択してから撮影します。

ホワイトバランスを設定する

　ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常は〈AWB〉（オート）で適切なWBが得られます。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、光源別にWBを選択したり、手動設定で調整します。



1 〈FUNC.〉ボタンを押す（⏱6）

● 〈FUNC.〉ボタンを1回、または2回押して、背面表示パネルの右上に、WBを表示させます。

WB ⇄ カード/画像サイズ



2 ホワイトバランスを選ぶ

● 〈◎〉を回してWBを選びます。

表示	モード	色温度（約・K：ケルビン）
AWB	オート	3000〜7000
☀	太陽光	5200
日陰アイコン	日陰	7000
☁	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
白熱電球アイコン	白熱電球	3200
蛍光灯アイコン	白色蛍光灯	4000
ϟ	ストロボ使用	6000
マニュアルアイコン	マニュアル（p.73）	2000〜10000
K	色温度（p.78）	2500〜10000

ホワイトバランスについて

　人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラの場合は、ソフトウェア的に色温度を調整して、色の基準となる白を決め、白を基準に色の補正が行われます。これにより、自然な色あいで撮影できます。

● メニュー［📷 ホワイトバランス］から設定することもできます。
● カスタムWBを設定するときは、［PC-＊］を選びます。なお、カメラへのカスタムWBの登録は、付属のソフトウェアから行います。登録されていないときは、［PC-＊］は表示されません。

マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを厳密に設定するときに使用します。MWBデータは、カメラに最大5件登録することができます。また、登録したMWBデータにキャプション（見出し）を付けることもできます。

MENU MWBデータを登録する

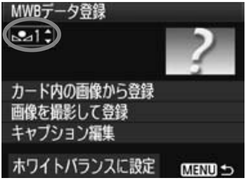
MWBデータの登録方法は、その場で撮影して登録する方法と、カード内に記録されている画像から登録する方法の2通りがあります。

画像を撮影して登録



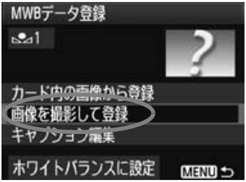
1 ［MWBデータ登録］を選ぶ

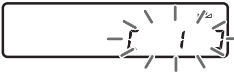
- ［◘˙］タブの［**MWB データ登録**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 登録するMWB番号を選ぶ

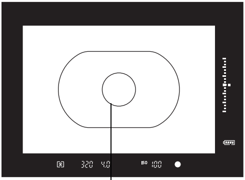
- 〈(SET)〉を押します。
- 〈◎〉を回して〈 ＊〉の1～5の番号を選び、〈(SET)〉を押します。選択した番号にMWBデータが登録されます。





3 ［画像を撮影して登録］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**画像を撮影して登録**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 液晶モニターの表示が消え、背面表示パネルに選択した番号［　＊　］が点滅します。



スポット測光範囲

4 白い無地の被写体を撮影する

- ファインダー内の中央部スポット測光範囲の領域全体に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスは、どのモードでも構いません。



➡ カメラにMWBデータが登録されます。
- 登録したMWBで撮影するときは、『登録したMWBデータを選んで撮影する』（p.76）を参照してください。

- 次の方法でMWBデータを登録することもできます。
  1.〈FUNC.〉ボタンを押し、〈◎〉を回して〈 〉を選びます（p.72）。
  2. 続けて〈 〉を回して、MWBデータを登録したい番号を選びます。
  3.〈 〉ボタンを押します。
  →背面表示パネルに［ ＊ ］が点滅します。
  4. 手順4と同じ方法で白い無地の被写体を撮影します。
  →選択した番号にMWBデータが登録されます。
  撮影すると、登録したMWBデータでホワイトバランス制御が行われます。
- 撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。なお、手順4で［**指定された画像では適切なWBが得られないことがあります**］と表示されたときは、手順1に戻って再度撮影してください。
- 手順4で撮影した画像は、カードには記録されません。
- 白い被写体の代わりに18%標準反射板（市販品）を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。

カード内の画像から登録

カード内に記録されている画像から登録するときは、『**画像を撮影して登録**』（p.73、74）**の手順4を参考にして、あらかじめ白い無地の被写体を撮影しておきます。**手順2までは『画像を撮影して登録』と同じです。

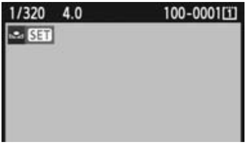
1 ［MWBデータ登録］を選ぶ

2 登録するMWB番号を選ぶ



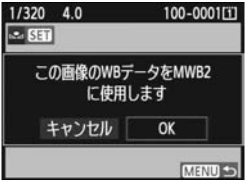
3 ［カード内の画像から登録］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**カード内の画像から登録**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ カード内に記録されている画像が表示されます。



4 MWBデータ登録用の画像を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押すと、4枚/9枚インデックス表示にすることができます。
- 〈◎〉を回してMWBデータ登録用の画像を選び、〈SET〉を押します。



5 ［OK］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ カメラに MWB データが登録されます。メッセージが表示されたときは、〈SET〉を押すと、手順3の画面に戻ります。
- 登録したMWBで撮影するときは、『登録したMWBデータを選んで撮影する』（p.76）を参照してください。

ピクチャースタイルを［**モノクロ**］（p.67）に設定して撮影した画像は、手順4で選択できません。

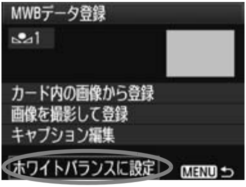
MENU 登録したMWBデータを選んで撮影する

登録されている画像



1 MWB番号を選ぶ

- MWBデータ登録画面で、登録した番号を選びます。



2 ［ホワイトバランスに設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［ホワイトバランスに設定］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ WBの設定が〈＊〉になります。

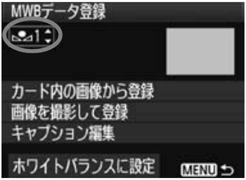
3 撮影する

- ➡ 〈＊〉の設定で撮影されます。

> 背面表示パネルを見ながら、登録したMWB番号を選ぶこともできます。そのときは、〈FUNC.〉ボタンを押し、〈◎〉を回して〈 〉を選びます。続けて〈 〉を回して登録したMWB番号を選びます。

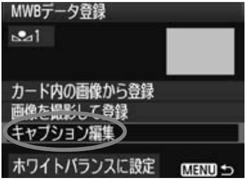
MENU 登録したMWBデータにキャプションを付ける

登録したMWBデータ5件に、それぞれキャプション（見出し）を付けることができます。



1 MWB番号を選ぶ

- MWBデータ登録画面で、見出しを付けるMWB番号を選びます。



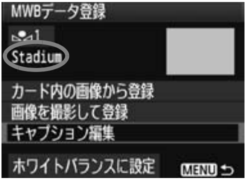
2 ［キャプション編集］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**キャプション編集**］を選び、〈SET〉を押します。



3 任意の文字を入力する

- 〈o-m/🎤〉ボタンを押すと、文字パレットの枠に色が付き、文字入力ができるようになります。
- 〈◎/✣〉を操作して□を移動し、希望する文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- 最大20文字入力することができます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、1 文字消去されます。



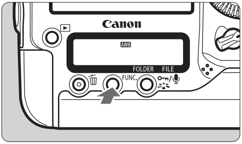
4 終了する

- 入力が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 設定した内容が保存され、手順2の画面に戻ります。入力したキャプションが〈 ＊〉の下に表示されます。

MWBを登録した場所や、光源の名前などをキャプションにすると便利です。

K 色温度を直接設定する

色温度指定は、ホワイトバランスの色温度を数値で設定する、上級者向けの機能です。



1 〈FUNC.〉ボタンを押す（⏱6）

- 〈FUNC.〉ボタンを1回、または2回押して、背面表示パネルの右上に、ホワイトバランスを表示させます。

  WB ⇄ カード/画像サイズ



2 〈K〉を選ぶ

- 〈◎〉を回して〈K〉を選びます。



3 数値を設定する

- 続けて〈◎〉を回して数値を設定します。
- 設定できる色温度範囲は、2500～10000K（100Kステップ）です。

- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてホワイトバランス補正（マゼンタ、またはグリーン寄り）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度数値を〈K〉に設定する場合は、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

メニュー［◘˙ ホワイトバランス］から設定することもできます。

WB+/- ホワイトバランスを補正する

設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販品の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。

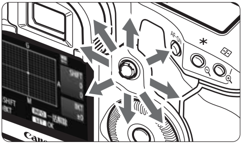
特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

ホワイトバランス補正

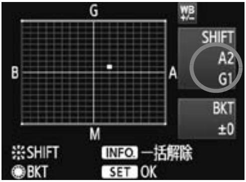


1 ［WB補正/BKT設定］を選ぶ

- ［◘̇］タブの［WB補正/BKT設定］を選び、〈SET〉を押します。



設定例：A2, G1



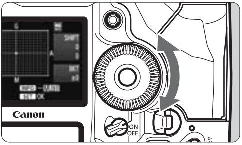
2 ホワイトバランスを補正する

- 〈✥〉を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- 「B」はブルー、「A」はアンバー、「M」はマゼンタ、「G」はグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと［WB補正/BKT設定］の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

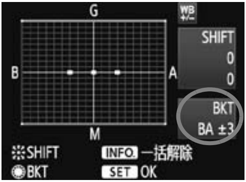
- WB補正中は、ファインダー内と背面表示パネルに〈WB+/-〉が表示されます。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。これをホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）撮影といいます。設定できる補正幅は、1段ステップ±3段です。



B/A方向±3段のとき



補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』の手順2で〈◎〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」（3点）に変わります。
  右に回すと、B/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと［WB 補正 /BKT設定］の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

記録される順番について

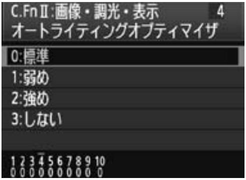
①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。

- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなり、撮影可能枚数も約1/3になります。また、背面表示パネルのホワイトバランスマークが点滅します。
- ホワイトバランス補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影との組み合わせでは、合計9枚の画像が記録されます。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。
- 「**BKT**」は、Bracketing：ブラケティングの略です。

オートライティングオプティマイザ

撮影結果が暗い場合や、コントラストが低い場合に、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。JPEG画像は、撮影時に補正されます。RAW画像には設定情報が付加され、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで自動補正することができます。

初期状態では、[**標準**]に設定されていますが、[**C.Fn II -4：オートライティングオプティマイザ**]で、補正の度合いを変更することができます（p.215）。



1 [C.Fn II -4：オートライティングオプティマイザ]を設定する

- 補正の度合いを設定します。
- カスタム機能の設定方法については、204ページを参照してください。

2 撮影する

- 必要に応じて、明るさ・コントラストが補正された画像が記録されます。



明るく補正された例

- [**C.Fn II -4：オートライティングオプティマイザ**]が[**3：しない**]以外に設定されているときは、マニュアル露出、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定（補正）しても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、[**3：しない**]に設定してください（p.215）。
- 撮影条件により、ノイズが増えることがあります。

MENU レンズの周辺光量を補正する

レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を、「周辺光量の低下」といいますが、この現象を補正することができます。JPEG画像は、撮影時に補正されます。RAW画像には設定情報が付加され、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで自動補正することができます。

初期状態では、補正［**する**］に設定されています。



1 ［周辺光量補正］を選ぶ

- ［**◘˙**］タブの［**周辺光量補正**］を選び、〈SET〉を押します。



2 補正内容を設定する

- 表示された画面で、装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**補正データなし**］が表示されているときは、次ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。
- 〈◎〉を回して補正［**する**］を選び、〈SET〉を押します。

3 撮影する

- 周辺光量が補正された画像が記録されます。


補正する


補正しない

レンズの補正データについて

カメラにはあらかじめ、周辺光量補正を行うためのデータがレンズ約25本分登録されています。手順2で補正［**する**］を選んでおくと、補正データが登録されているレンズを装着したときに、自動的に周辺光量が補正されます。

付属ソフトウェアのEOS Utilityを使用すると、登録されているレンズの種類が確認できます。また、未登録レンズの補正データをカメラに登録することもできます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）のEOS Utility使用説明書を参照してください。

- 撮影したJPEG画像を、後から補正することはできません。
- 撮影条件により、画像周辺部にノイズが発生することがあります。
- 他社製のレンズ使用時は、［**補正データあり**］と表示されていても、補正［**しない**］に設定することをおすすめします。

- エクステンダー装着時も周辺光量補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正［**しない**］と同じ撮影結果になります。
- 付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりもやや控えめに補正されます。
- 距離情報を持たないレンズでは、補正量が少なくなります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

MENU フォルダの作成と選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

なお、この操作を行わなくても、画像を保存するフォルダは自動で作成され、そのフォルダに画像が保存されます。

フォルダの作成



1 [記録機能とメディア・フォルダ選択] を選ぶ

- [🔧] タブの [**記録機能とメディア・フォルダ選択**] を選び、〈SET〉を押します。



2 [フォルダ] を選ぶ

- [**フォルダ**] を選び、〈SET〉を押します。



3 [フォルダ作成] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**フォルダ作成**] を選び、〈SET〉を押します。



4 [OK] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**OK**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 番号が1つ繰り上がった、新しいフォルダが作成されます。

フォルダの選択



● フォルダ選択画面が表示された状態で、〈◎〉を回してフォルダを選び、〈SET〉を押します。

➡ 画像を保存するフォルダが選択されます。

● 撮影を行うと、選択したフォルダに画像が記録されます。

フォルダについて

フォルダ名は、「**100EOS1D**」のように先頭3桁の数字（フォルダ番号）と、5文字の英数字で構成されています。1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（p.89）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときも、カメラがフォルダを認識できません。

MENU ファイル名を変更する

ファイル名は、先頭4文字の英数字、4桁の画像番号（p.88）、拡張子で構成されています。先頭4文字の初期設定は、工場出荷時に決められた、カメラ固有の英数字になっていますが、これを任意に変更することができます。

（例）**BE3B0001.JPG**

ユーザー設定1は、任意の4文字を登録することができます。ユーザー設定2は、任意の3文字を登録して撮影すると、先頭から4文字目に画像サイズが自動的に付加されます。

ファイル名の登録・変更



1 ［ファイル名の設定］を選ぶ

- ［🔧］タブの［**ファイル名の設定**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［ユーザー設定の変更］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**ユーザー設定*の変更**］を選び、〈SET〉を押します。



3 任意の英数字を入力する

- ユーザー設定1は4文字、ユーザー設定2は3文字入力します。
- 〈🗑〉ボタンを押して、不要な文字を消去します。
- 〈⊶/🎤〉ボタンを押すと、文字パレットの枠に色が付き、文字入力ができるようになります。
- 〈◎/✣〉を操作して □ を移動し、希望する文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。



4 終了する

● 所定の文字数を入力し、〈MENU〉ボタンを押します。

➡ 登録したファイル名が保存され、手順2の画面に戻ります。



設定内容

5 登録したファイル名を選ぶ

● 〈◎〉を回して［**ファイル名**］を選び、〈SET〉を押します。

● 〈◎〉を回して登録したファイル名を選び、〈SET〉を押します。

● ユーザー設定2に登録したときは、「(登録した3文字) ***＋画像サイズ」を選びます。

ユーザー設定2について

ユーザー設定2で登録した「***＋画像サイズ」を選択して撮影すると、そのとき設定されていた画像サイズ（1文字）が、ファイル名の先頭から4文字目に自動的に付加されます。付加される文字の意味は次のとおりです。

「***L」＝ L、RAW　　「***M」＝ M1、M RAW

「***N」＝ M2　　「***S」＝ S、S RAW

パソコンなどで画像を取り込んだときに、自動付加された4文字目を読み取ることで、画像を開かずに画像サイズを判別することができます。なお、画像タイプ（RAW画像、JPEG画像）は、拡張子から判別することができます。

● 「_」（アンダーバー）を1文字目に指定することはできません。

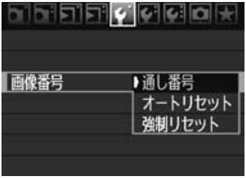
● 拡張子は、JPEG画像は「.JPG」、RAW画像は「.CR2」、動画は「.MOV」になります。

● ユーザー設定2で動画を撮影すると、ファイル名の先頭から4文字目が「_」（アンダーバー）になります。

MENU 画像番号の付け方を設定する

4桁の画像番号は、フィルムのコマ番号に相当するもので、撮影した順に0001～9999の画像番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付け方を変えることができます。

（例）**BE3B0001.JPG**



1 ［画像番号］を選ぶ

- ［🔧］タブの［**画像番号**］を選び、〈SET〉を押します。

2 画像番号の付け方を選ぶ

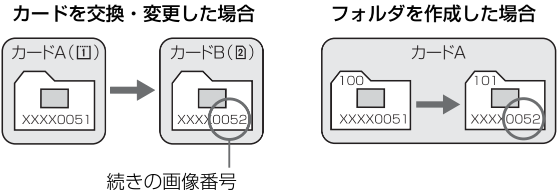
- 〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。

通し番号

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

カード交換やフォルダ作成、カードの変更（例：1→2）を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換・変更したカードや、作成したフォルダにすでに画像が保存されているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

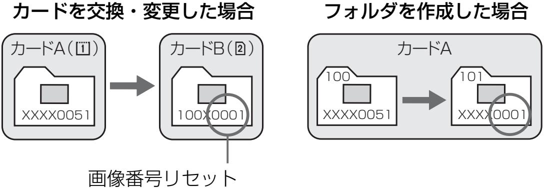


オートリセット

カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成、カードの変更（例：[1]→[2]）を行って撮影すると、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換・変更したカードや、作成したフォルダにすでに画像が保存されているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



強制リセット

任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

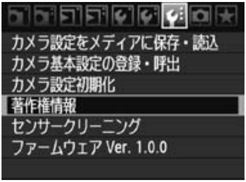
この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。

前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。操作を行ったあとは、通し番号、またはオートリセットの設定に戻ります。

フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

MENU 著作権情報を設定する

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif情報として画像に付加されます。設定した内容は、カメラで確認することができます。



1 ［著作権情報］を選ぶ

- ［🔧:］タブの［**著作権情報**］を選び、〈SET〉を押します。



2 設定する項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**作成者名入力**］または［**著作権者名入力**］を選び、〈SET〉を押します。



3 任意の文字を入力する

- 〈⊶/🎤〉ボタンを押すと、文字パレットの枠に色が付き、文字入力ができるようになります。
- 〈◎/✣〉を操作して□を移動し、希望する文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- 最大63文字入力することができます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、1 文字消去されます。

4 終了する

- 入力が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 設定した内容が保存され、手順2の画面に戻ります。

著作権情報の確認



前ページの手順2で［**著作権情報の表示**］を選ぶと、入力した［**作成者**］、［**著作権者**］の情報を確認することができます。

著作権情報の消去

前ページの手順2で［**著作権情報の消去**］を選ぶと、［**作成者**］、［**著作権者**］の情報が消去されます。

付属ソフトウェアのEOS Utilityから著作権情報を設定することもできます。

MENU 色空間を設定する

色空間とは、再現できる色の範囲（色域特性）のことです。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影のときは、sRGBをおすすめします。



1 ［色空間］を選ぶ

● ［ ］タブの［色空間］を選び、〈SET〉を押します。

2 色空間を設定する

● ［sRGB］または［Adobe RGB］を選び、〈SET〉を押します。

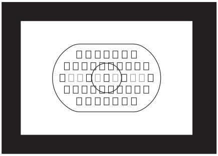
Adobe RGBについて

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

● 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
● ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

3

AF/ ドライブの設定



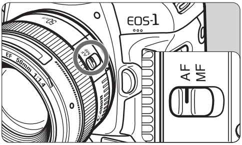
エリアAFフレーム内には、合計45点（39点：高精度クロス測距点＋6点）のAFフレームが配置されています。45点の中から適切なAFフレームを選択することにより、構図優先のAF撮影を行うことができます。

また、撮影状況や被写体にあわせて、オートフォーカスの作動特性を選択したり、最適なドライブモードを選択することができます。

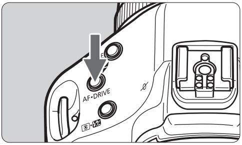
〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

AF: AFモードの選択

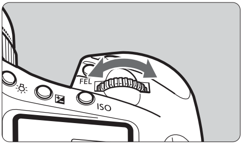
撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする



2 〈AF•DRIVE〉ボタンを押す（6）





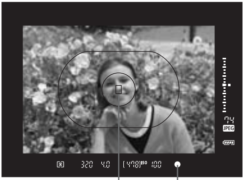
3 AFモードを選ぶ

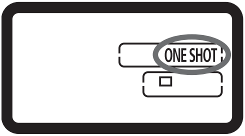
- 上面表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

  ONE SHOT ：ワンショットAF

  AI SERVO ：AIサーボAF

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF





止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが赤く光り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が表示されます。
- 評価測光のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。
- 〈AF-ON〉ボタンでAFを行うこともできます。

- ピントが合わないとファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体』（p.100）を参照してください。
- メニュー［**◘ 電子音**］を［**切**］に設定すると、ピントが合ったときに、電子音が鳴らないようになります（p.52）。

フォーカスロック撮影

ワンショットAFでピントを合わせたあと、ピントを固定したまま構図を変えて撮影する方法を「フォーカスロック撮影」といいます。エリアAFフレームに入らない、画面の端に被写体があるときなどに有効です。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF



撮影距離がたえず変化する（動いている）被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 〈AF-ON〉ボタンでAFを行うこともできます。

AIサーボAF時の動体予測機能について

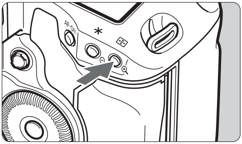
被写体がほぼ等速度でカメラに近づいてくる、または遠ざかっていくときに、シャッターが切れる直前に正しいピントが得られるように、その被写体の位置を予測してピントを合わせ続ける機能です。

- AF フレーム選択（p.97）が、自動選択のときは、始めに中央の AF フレームで被写体をとらえます。AFを行っているときに被写体が中央のAFフレームから外れても、エリアAFフレーム内で被写体をとらえていれば、継続してピント合わせが行われます。
- AFフレームを任意選択しているときは、選択したAFフレームで動体予測が行われます。

AIサーボAFでは、ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

[·:·] AFフレームの選択

45点のAFフレームの中から、ピント合わせに使うAFフレームを選びます。**45点の中から任意の1点を自分で選ぶことを「任意選択」、45点の中からカメラが自動的にピント合わせの位置を選ぶようにすることを「自動選択」といいます。**



自動選択：**[ ] AF**
任意選択：**SEL [ ]**（中央）
SEL AF（中央以外）

1 〈[·:·]〉ボタンを押す（⏱6）

➡ ファインダー内に現在選択されているAFフレームが表示されます。

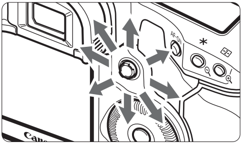
2 AFフレームを選択する

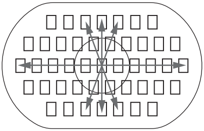
● 〈✣〉を操作するか、〈⚙〉〈◎〉を回します。

EF70-200mm F2.8L USMとエクステンダーを組み合わせたときは、中央AFフレームで撮影してください。中央以外では、測距誤差が生じることがあります。

縦方向にAFフレームを移動すると、AFフレームが2つ点灯することがあります。その状態で撮影したときは、2点での自動選択AFになります。なお、2点の状態で左右方向にAFフレームを移動すると、1点にすることができます。

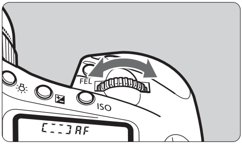
マルチコントローラーによる選択

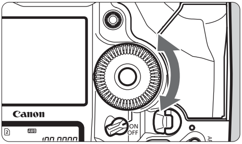




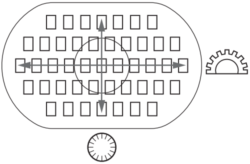
● 〈✣〉を操作すると、押した方向のAFフレームが選択されます。
● 〈✣〉をまっすぐに押すと、中央のAFフレームが選択されます。もう一度まっすぐに押すと、自動選択になります。
● 外周のAF フレームがすべて点灯したときが自動選択です。

電子ダイヤルによる選択





- 〈 〉を回すと、AF フレームが横方向に移動します。
- 〈 〉を回すと、AFフレームが縦方向に移動します。
- 外周の AF フレームがすべて点灯したときが自動選択です。



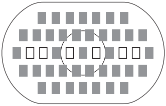
- ［C.Fn III -10：任意選択可能なAFフレーム］で、AFフレームを19点、11点、内側の9点、外側の9点に限定することができます（p.223）。
- ［C.Fn III -8：任意選択時のAFフレーム領域拡大］で、拡大する領域を左右1点、周囲1点、45点全領域に変更することができます（p.222）。
- AFストップボタンを備えた、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズ使用時は、［C.Fn III -6：レンズ・AFストップボタンの機能］を［7：スポットAF］に設定すると、「スポットAF」を行うことができます（p.220）。
- よく使うAFフレームを登録し、C.Fn III -11-1, 2（p.224）、C.Fn III -6-6（p.220）で、登録したAFフレームに瞬時に切り換えることができます。
- EOS 用外部ストロボ使用時にAF 補助光でピントが合わないときは、中央のAFフレームを選択してください。

使用レンズの明るさとAF測距について

EOS-1D Mark IV のAFは、レンズ単体、またはエクステンダーと組み合わせたときの開放FNo.がF2.8より明るい場合、より高精度なピント合わせが行われます。

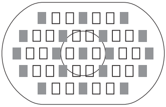
開放FNo.：F2.8まで

［任意選択時］



AFフレーム任意選択時は、■で示した39点のAFフレームで、より高精度なクロス測距（縦横線同時検出）を行うことができます。縦線検出は、横線検出の約2倍の敏感度で行われます。残りの6点では、横線検出によるAF撮影になります。

［自動選択時］



なお、AFフレーム自動選択時は、クロス測距点が39点から、■で示した19点に減少します。残りの26点では、横線検出によるAF撮影になります。

開放FNo.：F4

中央AFフレームで高精度なクロス測距を行うことができます。残り44点のAFフレームでは、横線検出によるAF撮影になります。

開放FNo.：F5.6／F8

F5.6レンズでは、すべてのAFフレームで、横線検出によるAF撮影になります。なお、F8レンズでは、中央AFフレームで横線検出によるAF撮影ができます。中央以外のAFフレームでは、AF撮影できません。

- 焦点距離によって開放FNo.が変化するズームレンズ使用時は、横線検出によるAF撮影になります（クロス測距はできません）。ただし、EF28-80mm F2.8-4L USM使用時は、中央AFフレームでクロス測距を行うことができます。
- EF24mm F2.8、EF28mm F2.8使用時は、エリアAFフレームの左右の端の3点では、横線検出によるAF撮影になります（クロス測距はできません）。

以下のレンズ、および組み合わせでは、開放FNo.がF4ですが、F2.8までと同様に、39点のAFフレームでクロス測距を行うことができます。

EF17-40mm F4L USM、EF24-105mm F4L IS USM、
EF70-200mm F2.8L IS USM＋Extender EF1.4×II、
EF200mm F2L IS USM＋Extender EF2×II、
EF300mm F2.8L IS USM＋Extender EF1.4×II、
EF400mm F2.8L IS USM＋Extender EF1.4×II

AFの苦手な被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

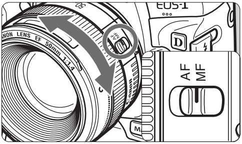
- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
  （例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
  （例：反射光の強い車のボディ）
- 遠いところと近いところにある被写体が、AFフレームにかかっている場合（例：おりの中の動物）
- 繰り返し模様の被写体
  （例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

（1）ワンショットAF（p.95）のときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する。

（2）レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動ピント合わせを行う。

MF: 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）



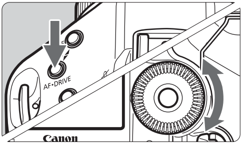
1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

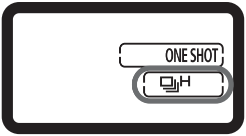
2 ピントを合わせる

- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

AFフレーム自動選択時（p.97）に、シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせを行うと、中央AFフレームでピントが合ったときに、合焦マーク〈●〉が点灯します。

DRIVE：ドライブモードの選択





1 **〈AF•DRIVE〉ボタンを押す**（⏱6）

2 **ドライブモードを選ぶ**

● 上面表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

□　：**1枚撮影**
　　シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

□H：**高速連続撮影**（最高約10コマ／秒）

□L：**低速連続撮影**（最高約3コマ／秒）
　　□H、**□L** ともに、シャッターボタンを全押ししている間、連続して撮影します。

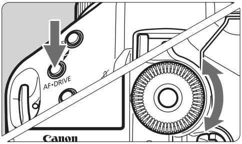
⏲10：**セルフタイマー 10秒**

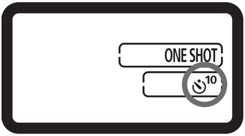
⏲2：**セルフタイマー 2秒**
　　セルフタイマー撮影については、次ページを参照してください。

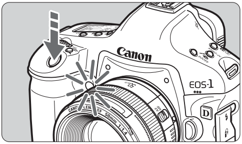
S　：**サイレント1枚撮影**
　　作動音が〈**□**〉よりも静かな1枚撮影です。シャッターボタンを半押しの位置に戻すまで、内部機構の動作は行われません。

● 電池の残量が少なくなると、ドライブモードマーク（**□H**、**□L**、**□**）が点滅します。なお、〈**□H**〉マークが点滅しているときは、連続撮影速度が若干低下します。
● AIサーボAF時は、被写体条件や使用レンズによって連続撮影速度が若干低下することがあります。

⏲ セルフタイマー撮影







1 〈AF•DRIVE〉ボタンを押す（⏱6）

2 〈⏲10〉または〈⏲2〉を選ぶ

- 上面表示パネルを見ながら〈◎〉を回して、〈⏲10〉または〈⏲2〉を選びます。

  ⏲10：10秒タイマー
  ⏲2：2秒タイマー

3 撮影する

- ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ➡ セルフタイマーランプが点滅し、10 秒後、または2秒後に撮影されます。
- ➡ 上面表示パネルに撮影されるまでの秒数が減算で表示されます。
- ➡ 撮影の2秒前になると点滅が速くなります。

- ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、アイピースシャッターを閉じてから撮影してください（p.117）。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。
- レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、狙った被写体にピントが合わなくなります。

- セルフタイマー撮影をするときは、三脚を使用してください。
- 〈⏲2〉セルフタイマー 2秒は、三脚を使用した静物撮影や長秒時撮影などで、撮影開始時に、カメラから手を離しておきたい（カメラをぶらしたくない）ときに使用します。
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、電源スイッチを〈OFF〉にします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（p.95）。
- セルフタイマー撮影した画像はその場で再生し、ピントや露出を確認することをおすすめします（p.156）。

4

写真表現にあわせた露出制御

被写体や撮影目的に合わせて、撮影モードを選択したり、シャッター速度や絞り数値を設定して、思いどおりに撮影することができます。

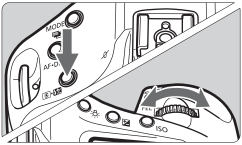
また、EXシリーズスピードライトを使用すると、ストロボなしの撮影と同じ感覚で、簡単にストロボ撮影を行うことができます。



あらかじめ電源スイッチを〈J〉にしてください。

測光モードの選択

被写体の明るさを測る機能の特性を4種類の中から選ぶことができます。

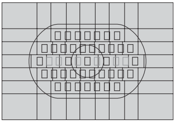




1 〈 ・ 〉ボタンを押す（⊙6）

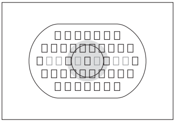
2 測光モードを選ぶ

- 上面表示パネルを見ながら〈 〉を回します。
  - ：**評価測光**
  - ：**部分測光**
  - ：**スポット測光**
  - ：**中央部重点平均測光**



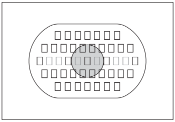
評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。



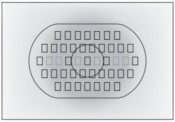
部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。ファインダー中央部の約13.5%の範囲を測光します。



スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー中央部の約3.8%を測光します。



中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

[C.Fn I-7：測距点連動スポット測光] を [1：する（測距点連動）] に設定すると（p.210）、AFフレームに連動したスポット測光を行うことができます。

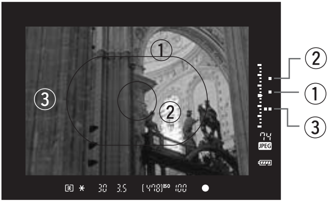
マルチスポット測光

画面の複数の場所をスポット測光し、その場所が相対的にどのような露出になるかを考えながら、狙いどおりの最終露出を決めることができます。

1 スポット測光にする

2 〈FEL〉ボタンを押す（16）

- 相対的な露出レベルを知りたい場所にスポット測光範囲マークを合わせ、それぞれの場所で〈FEL〉ボタンを押します。
- ➡ ファインダー内の右側に、スポット測光した場所の相対的な露出レベルが表示されます。露出値は平均値が設定されます。



- この状態で露出補正を行うと、3点の露出レベル表示全体を見ながら、表現意図に合わせた最終露出を決めることができます。

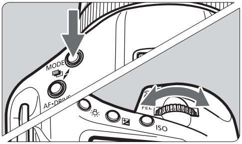
- 8点までスポット測光を行うことができます。
- 露出値の記憶は次の条件で解除されます。
  ・スポット測光後、16秒経過したとき
  ・〈MODE〉〈AF•DRIVE〉〈•〉〈ISO〉〈〉〈〉ボタンを押したとき
  ・撮影後、測光タイマーが切れたとき
- ［C.Fn I -7：測距点連動スポット測光］を［1：する（測距点連動）］に設定（p.210）した状態でも、マルチスポット測光ができます。

P: プログラムAE撮影

　被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これをプログラムAEといいます。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。

＊ AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。





1 撮影モードを〈P〉にする

● 〈MODE〉ボタンを押し、〈ダイヤル/ダイヤル〉を回して〈**P**〉を選びます。

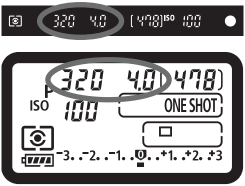


2 ピントを合わせる

● ファインダーをのぞいて、選択した AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

➡ ピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが赤く光り、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します。（ワンショットAF時）

➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と上面表示パネルに表示されます。



3 表示を確認する

● シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。

4 撮影する

● 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。



● シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。



● シャッター速度の「**8000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

AFフレーム自動選択（p.97）のときや、任意選択時にAFフレームの領域拡大（p.222）が設定されているときは、複数のAFフレームが同時に点灯することがあります。

プログラムシフトについて

● プログラムAEのときは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
● プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで〈〉を回します。
● プログラムシフトは、撮影すると自動的に解除されます。
● ストロボ使用時は、プログラムシフトはできません。

Tv：シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッター速度を遅くすると、流動感を表現することができます。

＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。



流動感のある写真
（遅いシャッター速度）

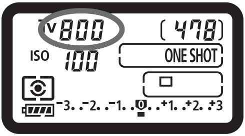


動きを止めた写真
（速いシャッター速度）



1 撮影モードを〈Tv〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈/〉を回して〈**Tv**〉を選びます。



2 シャッター速度を設定する

- 上面表示パネルを見ながら〈〉を回します。

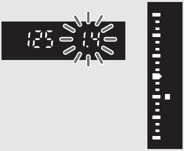
3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 絞り数値が自動的に決まります。

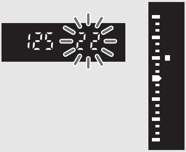


4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。



- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。



- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

シャッター速度の表示
「**8000**」から「**4**」までは分数の分母を表しています。例えば「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

Av：絞り数値を決めて撮る

　絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AE といいます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。



背景をぼかした写真
（小さい絞り数値）

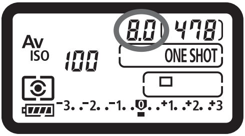


背景にもピントの合った写真
（大きい絞り数値）



1 撮影モードを〈Av〉にする

● 〈MODE〉ボタンを押し、〈⚙/◎〉を回して〈**Av**〉を選びます。



2 絞り数値を設定する

● 上面表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。

3 ピントを合わせる

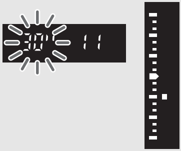
● シャッターボタンを半押しします。

➡ シャッター速度が自動的に決まります。

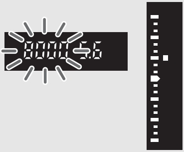


4 表示を確認して撮影する

● シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。



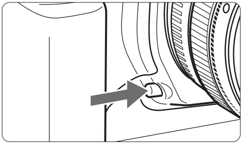
● シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
シャッター速度の点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。



● シャッター速度の「**8000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
シャッター速度の点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

絞り数値の表示
数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

ピントの合う範囲を確認する



絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、ピントの合う前後方向の範囲（被写界深度）をファインダーで確認できます。

- 絞り数値が大きいほど、ピントの合う範囲は前後に広くなりますが、ファインダーが暗くなります。
- 被写界深度の効果がわかりにくいときは、絞り込みボタンを押したまま〈〉を回してください。なお、ライブビュー映像（p.126）を見ながら確認すると、効果がよくわかります。
- 絞り込みボタンを押すと、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M: 自分で露出を決めて撮る

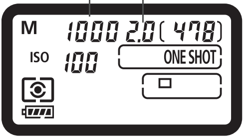
自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

＊〈**M**〉は、Manual（マニュアル）の略です。



1 撮影モードを〈M〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈/〉を回して〈**M**〉を選びます。



2 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は、上面表示パネルを見ながら〈〉を回します。
- 絞り数値は、電源スイッチを〈J〉にして、上面表示パネルを見ながら〈〉を回します。
- 〈〉ボタンを押したあと、〈/〉を回して絞り数値を設定することもできます。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。
- ファインダー内右側の露出レベル表示で、露出レベル〈■〉が標準露出〈▶〉からどのくらいずれているか、確認することができます。



4 露出を決める

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。

5 撮影する

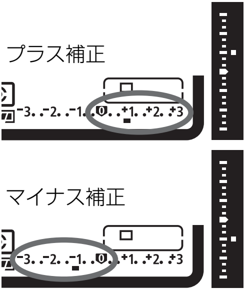
［C.Fn II -4：オートライティングオプティマイザ］(p.81) が［3：しない］以外に設定されているときは、露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。

自分の好みに露出を補正する

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを露出補正といいます。

補正できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

撮影モードが〈**P**/**Tv**/**Av**〉モードのときに露出補正を行うことができます。



1 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を確認します。

2 補正量を設定する

- 電源スイッチを〈J〉にして、ファインダー内、または上面表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。
- 〈◎〉の操作は、シャッターボタン半押し中か、半押し後のタイマー（⏱6）作動中に行います。
- ➡ 補正を行うと、ファインダー内に〈±〉マークが点灯します。
- 露出補正を解除するときは、露出レベル〈■〉を標準露出指標（〈▶〉または〈0〉）の位置に戻します。

3 撮影する

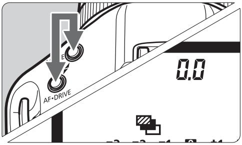
［C.Fn II -4：オートライティングオプティマイザ］（p.81）が［3：しない］以外に設定されているときは、露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります。

- 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- 不用意に〈◎〉が動いて補正量が変わらないように注意してください。電源スイッチを〈ON〉の位置にすると安全です。
- 〈±〉ボタンを押したあと、〈⚙/◎〉を回して設定することもできます。

⧉ 露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影

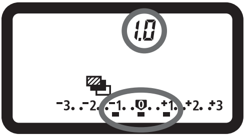
1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的にシャッター速度、または絞り数値を変えながら3 枚の画像を撮影することができます。これをAEB撮影といいます。

＊AEBは、Auto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。



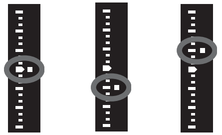
1 **〈MODE〉ボタンと〈AF•DRIVE〉ボタンを同時に押す**（⏱6）

➡ 上面表示パネルに〈⧉〉と「**0.0**」が表示されます。



2 **AEBレベルを設定する**

- 〈⚙/◎〉を回してAEBレベルを設定します。
- 「**1.0**」がAEBステップ量、〈▬〉がAEBレベルです。



標準露出　マイナス補正　プラス補正

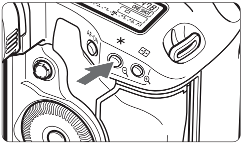
3 **撮影する**

- 設定しているドライブモードに従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- 3枚撮影後でも、AEB撮影は解除されません。解除するときは、AEBステップ量を「**0.0**」に戻します。

- AEB撮影中は、ファインダー内の〈✱〉と、上面表示パネルの〈⧉〉が点滅します。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ストロボ充電完了で、AEB設定が自動解除されます。
- バルブ撮影時、およびストロボ使用時は、AEB撮影できません。
- ドライブモードが〈□〉〈S〉のときは、シャッターボタンを3回押して撮影します。〈⧉H〉〈⧉L〉のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。〈⏲10〉〈⏲2〉のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。
- 露出補正と組み合わせて、AEB撮影を行うこともできます。

✱ 露出を固定して撮る／AEロック撮影

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✱〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下の撮影などで有効です。







1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。

2 〈✱〉ボタンを押す（⏱6）

- ➡ ファインダー内に〈✱〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✱〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3 構図を決めて撮影する

- AE ロックした露出値と新しい露出値がファインダー内の右側にリアルタイムで表示されます。
- 連続して AE ロック撮影をするときは、〈✱〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

AEロックの効果

測光モード（p.104）	AFフレーム選択（p.97）	
	自動選択	任意選択
◙*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
⊡ ⊡ ⬚	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

* レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉ときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

長時間露光（バルブ）撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。



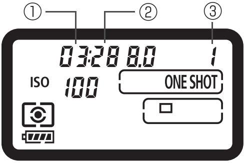
1 撮影モードを〈**buLb**〉にする

● 〈MODE〉ボタンを押し、〈⚙/◎〉を回して〈**buLb**〉を選びます。



2 絞り数値を設定する

● 上面表示パネルを見ながら〈⚙/◎〉を回します。



3 撮影する

● シャッターボタンを全押しします。

➡ 上面表示パネルに露光経過時間が表示されます。

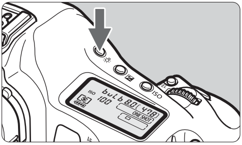
①：分　②：秒　③：時間

長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像になることがあります。

● ［C.Fn II -1：長秒時露光のノイズ低減］を［1：自動］または［2：する］に設定すると、長秒時露光時に発生するノイズを軽減することができます（p.214）。

● バルブ撮影を行うときは、リモートスイッチRS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします。

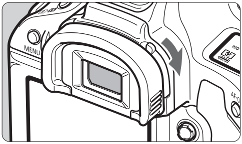
表示パネルの照明



〈☀〉ボタンを押すたびに、上面／背面表示パネルの照明が点灯（⏱6）／消灯します。

なお、バルブ撮影時は、シャッターボタンの全押しで照明が消えます。

アイピースシャッターを併用する



ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真になることがあります。そのようなときは、アイピースシャッターレバーを矢印の方向に操作して、ファインダーを遮光します。

なお、ライブビュー撮影、および動画撮影のときは、ファインダーを遮光する必要はありません。

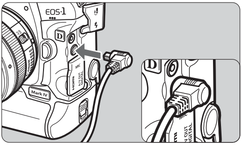
リモートスイッチの取り付け方

リモートスイッチRS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）など、N3タイプの端子を持つEOS用アクセサリーをカメラに取り付けて撮影することができます。

なお、アクセサリーの操作方法については、各アクセサリーの使用説明書を参照してください。

1 端子カバーを開ける

- 上側の端子カバーを開きます。



2 リモコン端子にプラグを取り付ける

- 図のように取り付けます。
- 取り外すときは、プラグの銀色の部分をつまんで引き抜きます。

ミラーアップ撮影

セルフタイマー撮影や、リモートスイッチを使用した撮影でも、カメラブレ防止に十分な効果がありますが、超望遠レンズを使用した撮影のときや、近接（マクロ）撮影のときに、機械的な振動（ミラーショック）が気になるときは、ミラーアップ撮影という方法を使います。

［C.Fn III -17：ミラーアップ撮影］を［1：する］または［2：する（SETボタンでダウン）］に設定すると（p.226）**、ミラーアップ撮影ができます。**

1 ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しする

➡ ミラーが上がり、上面表示パネルの〈 〉が点滅します。

2 再度シャッターボタンを全押しする

➡ 撮影が行われます。
- ［1］設定時は、撮影と同時にミラーが下がります。
- ［2］設定時は、撮影後もミラーが上がったままになります。ミラーを下げるときは〈SET〉を押します。

- 晴天の真夏の海岸や、スキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後、速やかに撮影してください。
- ミラーアップ撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（タイマー作動秒時＋バルブ撮影時間)。タイマー作動中に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。

- ［1：する］設定時に、ドライブモードが連続撮影に設定されていても、1 枚撮影になります。［2：する (SETボタンでダウン)］設定時は、設定したドライブモードで撮影されます。
- セルフタイマー〈10〉〈2〉を使用すると、10秒後、または2秒後に撮影されます。
- ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。
- ミラーアップ撮影を行うときは、リモートスイッチRS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラーTC-80N3（別売）の使用をおすすめします。

ストロボを使った撮影

EOS用EXシリーズスピードライト

EXスピードライト（別売）を使用すると、ストロボなしの撮影と同じ感覚で、簡単にストロボ撮影を行うことができます。

操作方法については、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。なお、このカメラは、EXスピードライトの全機能が使用できる、Aタイプカメラに属しています。

カメラのメニュー画面から、ストロボの機能や、ストロボのカスタム機能を設定する方法については、121～124ページを参照してください。



クリップオンタイプストロボ



マクロストロボ

- **FEロック**

  被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影方法です。被写体をファインダーの中央に置いて、カメラの〈FEL〉ボタンを押してから撮影します。

- **ストロボ調光補正**

  露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を補正することができます。補正できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

  カメラの〈◙・⚡〉ボタンを押したあと、上面表示パネル、またはファインダー内を見ながら、〈◎〉を回します。

[C.Fn II -4：オートライティングオプティマイザ]（p.81）が［3：しない］以外に設定されているときは、露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります。

AF でピントが合わせにくいときは、必要に応じてEOS 用外部ストロボから、AF補助光が自動投光されます。

EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

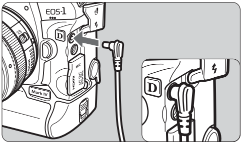
- **EZ/E/EG/ML/TL スピードライトを、TTL またはA-TTL 自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。**
  カメラの撮影モードを〈**M**〉（マニュアル露出）、または〈**Av**〉（絞り優先AE）に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボを使った撮影

同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/300秒以下（または1/250秒以下）で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なるため、1/125～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

シンクロ端子について



- シンクロ端子を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。端子には、コードの抜け落ちを防止するロックねじが付いています。
- シンクロ端子には極性はありません。シンクロコードの極性に関係なく、そのまま使用することができます。

- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- シンクロ端子に 250V 以上の電圧がかかるストロボを使用しないでください。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

アクセサリーシューとシンクロ端子にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することもできます。

MENU ストロボの機能を設定する

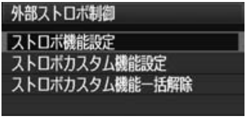
ストロボ機能設定に対応したEXシリーズスピードライト（例：580EX II, 430EX II, 270EX）を使用すると、カメラのメニュー画面から、ストロボの機能を設定したり、ストロボのカスタム機能を設定することができます。設定を行う前に、ストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。

ストロボ機能設定



1 ［外部ストロボ制御］を選ぶ

- ［ ］タブの［**外部ストロボ制御**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［ストロボ機能設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**ストロボ機能設定**］を選び、〈SET〉を押します。



3 ストロボの機能を設定する

- 〈◎〉を回して項目を選び、機能を設定します。
- 操作方法はカメラのメニュー機能の設定と同じです。

- 手順3で〈INFO.〉ボタンを押すと、設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、［**ストロボ機能設定**］の内、［**調光補正**］［**E-TTL II**］［**ストロボの発光**］の項目のみ設定できます。（一部のEXスピードライトでは、［**シンクロ設定**］も設定可能）

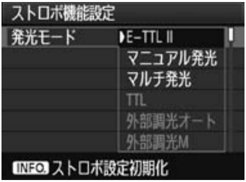
[ストロボ機能設定] で設定できる機能

画面に表示される内容や、設定できる項目は、ストロボの機種や、現在設定されている発光モード、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。

使用するストロボが対応している機能については、ストロボの使用説明書を参照してください。

● 発光モード

外部ストロボでは、撮影目的に応じて発光モードが選択できます。



- [**E-TTL II**] は、ストロボの自動撮影ができる、EXシリーズスピードライトの標準的なモードです。
- [**マニュアル発光**] は、ストロボの [**発光量**] (1/1〜1/128) を自分で決めて撮影するモードです。
- [**マルチ発光**] は、ストロボの [**発光量**] と [**発光周波数**]、[**発光回数**] を自分で決めて撮影するモードです。
- [**TTL**] [**外部調光オート**] [**外部調光M**] については、その発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

● シンクロ設定

通常は、撮影開始直後にストロボが発光する [**先幕シンクロ**] に設定します。

[**後幕シンクロ**] に設定すると、シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。遅いシャッターと組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡を自然な感じで写すことができます。なお、後幕シンクロでは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回、ストロボが発光します。

[**ハイスピード**] に設定すると、すべてのシャッター速度でストロボ撮影を行うことができます。特に日中シンクロによるポートレート撮影を、絞りを優先して行いたいときに有効です。

● **FEB**

ストロボの光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。詳しくは、FEB（Flash Exposure Bracketing）に対応したストロボの説明書を参照してください。

● **調光補正**

119ページの『ストロボ調光補正』と同じ設定を行うことができます。

● **E-TTL II**

通常は、標準的なストロボ露出が得られる［**評価調光**］に設定します。

［**平均調光**］に設定すると、外部調光ストロボのように測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要な、上級者向けの設定です。

● **ズーム**

ストロボの発光照射角を設定することができます。通常は、撮影レンズの焦点距離に応じて照射角をカメラが自動設定する［**Auto**］に設定します。

● **ワイヤレス設定**

ワイヤレス（多灯）ストロボ撮影を行うことができます。詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボの説明書を参照してください。

● **ストロボの発光**

ストロボ撮影を行うときは、［**する**］に設定します。ストロボのAF補助光機能のみを利用したいときは、［**しない**］に設定します。

後幕シンクロで撮影するときは、シャッター速度を1/50秒以下の遅い速度に設定してください。1/60秒以上の速い速度のときは、［**後幕シンクロ**］に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

- ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません（〈⦿・⚡〉ボタン、ストロボ機能設定画面）。なお、同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されます。
- ［**E-TTL II**］はC.Fn II -5（p.215）、［**ストロボの発光**］はC.Fn II -7（p.216）と設定が連動します。

ストロボカスタム機能設定

1 ［ストロボカスタム機能設定］を選ぶ

● 〈◎〉を回して［**ストロボカスタム機能設定**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ストロボの機能を設定する

● 〈◎〉を回して番号を選び、機能を設定します。操作方法は、カメラのカスタム機能の設定と同じです（p.204）。

ストロボカスタム機能の設定解除

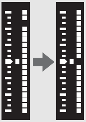
手順1で［**ストロボカスタム機能一括解除**］を選ぶと、ストロボに設定されているカスタム機能がすべて解除されます（［**C.Fn-0：距離表示**］を除く）。

EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の、［**調光方式**］が［**TTL**］に設定されているときは、撮影を行うと常時フル発光します。

ストロボメーターードマニュアル撮影について

手動で調光レベルを決める近接撮影向けの機能です。マニュアル発光できるEXシリーズスピードライトと18%標準反射板を使って、次のように撮影します。

1. カメラとストロボの機能を設定する
   - ・カメラの撮影モードを〈**M**〉、または〈**Av**〉にします。
   - ・ストロボの発光モードをマニュアル発光にします。
2. ピントを合わせる
   - ・手動で被写体にピントを合わせます。
3. 18%標準反射板をセットする
   - ・標準反射板を被写体の位置に置きます。
   - ・ファインダー内の中央部スポット測光範囲の領域全体に、標準反射板がくるようにします。
4. 〈FEL〉ボタンを押す（♁16）
5. 調光レベルを設定する
   - ・調光レベルが標準露出指標の位置にくるように、ストロボのマニュアル発光量と、カメラの絞り数値を設定します。
6. 撮影する
   - ・標準反射板を取り除いて撮影します。



5

ライブビュー撮影

カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

ライブビュー撮影は、被写体との距離が変わらない「静物撮影」に有効です。

カメラを手に持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがあるため、三脚などの使用をおすすめします。

リモートライブビュー撮影について

付属ソフトウェアのEOS Utilityがインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影することができます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

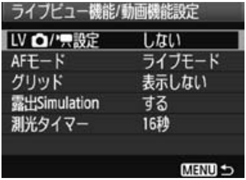
ライブビュー撮影の準備

静止画のライブビュー撮影ができるようにカメラを設定します。動画の撮影については、141ページを参照してください。



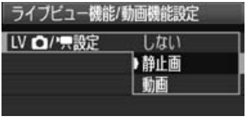
1 [ライブビュー機能/動画機能設定] を選ぶ

- [ ] タブの [**ライブビュー機能/動画機能設定**] を選び、〈SET〉を押します。



2 [LV /設定] を選ぶ

- 〈 〉を回して [**LV /設定**] を選び、〈SET〉を押します。
- 「LV」は、「ライブビュー」の略です。

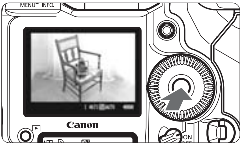


3 [静止画] を選ぶ

- 〈 〉を回して [**静止画**] を選び、〈SET〉を押します。

4 メニュー画面を終了する

- 〈MENU〉ボタン、またはシャッターボタンを半押しして、メニュー画面を消します。



5 ライブビュー映像を表示する

- 〈SET〉を押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 初期状態では、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。
- 標準露出になっていないときは、〈 / 〉を回して調整します。

ライブビュー撮影する



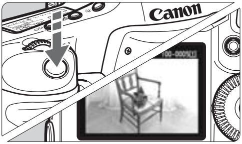
1 撮影モードを選ぶ

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈⚙/◎〉を回して撮影モードを選びます。



2 ピントを合わせる

- 撮影を始める前に、AF または手動でピントを合わせます（p.131〜138)。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAFモードでピント合わせが行われます。



3 撮影する

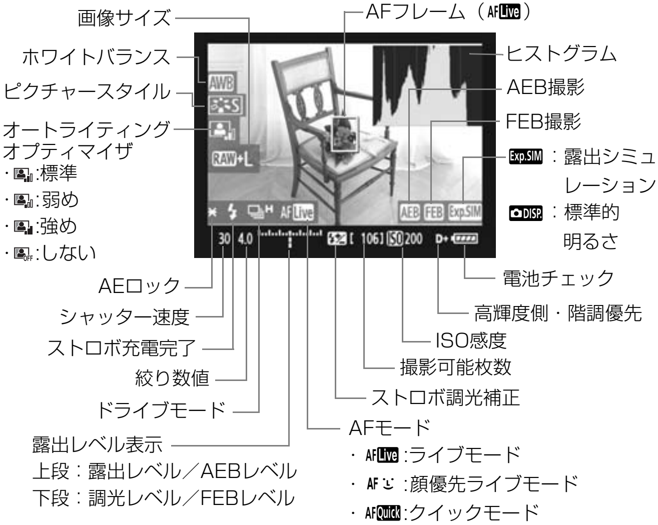
- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈SET〉を押すと、ライブビュー撮影が終了します。

- ライブビュー撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- **ライブビュー撮影全般に関する注意事項は、139、140ページにまとめて記載しています。**

- ピント合わせは、〈AF-ON〉ボタンでも行うことができます。
- 映像の視野率は、約100%です。
- シャッターボタンを全押しすると、シャッター音が2回しますが、撮影枚数は1枚です。また、ストロボ撮影時もミラーとシャッターの作動音が複数回しますが、撮影枚数は1枚です。なお、連続撮影時は、1枚目のみシャッター音が2回します。

INFO. 情報表示について

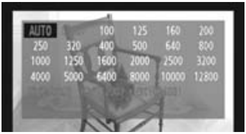
● 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。



- ● ヒストグラムは、［**露出Simulation：する**］（p.130）のときに表示されます。
- ● ［**C.Fn IV -15：アスペクト比情報の付加**］を1～6に設定すると、設定した比率に応じた縦線が画面に表示され、6×6cm、6×4.5cm、4×5 inchなどのフィルム式の中判/大判カメラと同じ構図で撮影することができます（p.234）。
- ● 〈Exp.SIM〉が白く表示されているときは、ライブビュー映像が実際の撮影結果に近い明るさで表示されています。
- ● 〈Exp.SIM〉が点滅しているときは、低輝度、高輝度条件下のため、映像が適切な明るさで表示されていないことを示しています。ただし、撮影を行うと、露出設定どおりに記録されます。
- ● ストロボ使用時、バルブ設定時は、〈Exp.SIM〉とヒストグラムが灰色で（参考）表示されます。なお、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。

撮影機能の設定

ライブビュー表示中もファインダー撮影時と同じように、ボタン操作による機能設定の変更や、再生操作を行うことができます。



- 〈MODE〉〈AF•DRIVE〉〈⚡±〉〈ISO〉〈±〉〈測光〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈メイン電子ダイヤル〉、または〈サブ電子ダイヤル〉を回すと、設定を変更することができます。
- 〈FUNC.〉ボタンを押すと、背面表示パネルを見ながら、〈メイン電子ダイヤル〉で記録するカード、〈サブ電子ダイヤル〉で画像サイズ、またはホワイトバランスを設定することができます。
- 測光モードは、ライブビュー撮影用の評価測光に固定されます。
- 〈✱〉ボタンを押すと、16秒間露出を固定することができます。
- 絞り込みボタンを押すと、被写界深度を確認することができます。
- 連続撮影時は、1枚目の露出で2枚目以降が撮影されます。

ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安

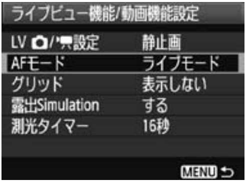
温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影可能枚数	約270枚	約230枚

- フル充電のバッテリーパック LP-E4使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- 連続してライブビュー撮影できる時間は、常温（+23℃）：約3時間、低温（0℃）：約2時間50分です。（フル充電のバッテリーパック LP-E4使用時）

- ライブビュー表示中でも、〈▶〉ボタンを押すと、画像を再生することができます。
- カメラを操作しない状態が続くと、メニュー［🔧 **オートパワーオフ**］の設定時間で電源が自動的に切れます（p.52）。なお、［**切**］に設定されているときは、約30分でライブビュー機能が自動的に終了します（電源は切れません）。
- リモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）のレリーズボタンの半押しで、AFを行うこともできます。
- 付属のステレオAVケーブルや、別売のHDMIケーブルを使用すると、ライブビュー映像をテレビに表示することができます（p.170、171）。

MENU メニュー機能の設定

ライブビュー表示中もメニュー機能の設定を行うことができます。なお、ライブビュー撮影特有の機能は次のとおりです。



［¥:］タブの［**ライブビュー機能/動画機能設定**］画面で、次の機能を設定することができます。

● **AFモード**（p.131～137）

［**ライブモード**］、［**顔ライブモード**］、［**クイックモード**］が選択できます。

● **グリッド**

［**グリッド1**＃］、または［**グリッド2**＃］で格子線を表示することができます。水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。

● **露出Simulation**

・**する**（Exp.SIM）

実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

・**しない**（DISP）

映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。

● **測光タイマー**

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変更することができます。

メニュー［**MWBデータ登録**］、［**ダストデリートデータ取得**］、［**カメラ設定をメディアに保存・読込**］、［**カメラ基本設定の登録・呼出**］、［**センサークリーニング**］、［**カメラ設定初期化**］、［**ファームウェア**］を選んだときは、ライブビュー撮影が終了します。

AFでピントを合わせる

AFモードを選ぶ

AFモードには、[**ライブモード**]、[**顔ライブモード**]（顔優先／p.132）、[**クイックモード**]（p.136）があります。

なお、厳密にピントを合わせたいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にしたあと、映像を拡大して、手動ピント合わせを行ってください（p.138）。



AFモードを選ぶ

- ライブビュー映像が表示されている状態で、〈AF•DRIVE〉ボタンを押します。（6）
- 〈〉を回して、AFモードを選びます。
  - AF Live：ライブモード
  - AF 顔：顔ライブモード
  - AF Quick：クイックモード

前ページの「AFモード」の項目で設定することもできます。

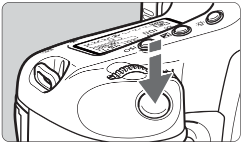
ライブモード：AF Live

撮像素子を使ってピント合わせを行います。ライブビュー表示のままAFできますが、**「クイックモード」よりもピント合わせに時間がかかります。** また、「クイックモード」よりもピントが合いにくいことがあります。



1 AFフレームを移動する

- 〈〉を操作して、AFフレーム〈□〉をピントを合わせたい場所に動かします。（画面の一番端までは動きません）
- 〈〉をまっすぐに押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。



2 **ピントを合わせる**
- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ AFが行われ、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色に変わります。



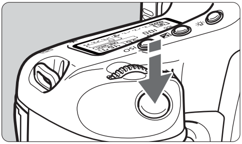
3 **撮影する**
- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.127）。

（顔優先）ライブモード：AF

ライブモードと同じAF方式で、人の顔を検知してピント合わせを行います。写される人は、顔をカメラに向けてください。



1 **カメラを被写体に向ける**
- 顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム〈 〉が顔の部分に表示されます。
- 複数の顔を検知しているときは〈 〉が表示されます。〈 〉を操作して、ピントを合わせたい顔に〈 〉を合わせます。



2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、〈[ ]〉の顔にピント合わせが行われます。
- ➡ AFが行われ、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色に変わります。
- 顔が検知できないときは、AF フレーム〈□〉が表示され、中央の位置でピント合わせが行われます。



3 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.127）。

- ピントが大きく外れていると、顔を検知できません。レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉のまま手動ピント合わせができるレンズのときは、フォーカスリングを回して、おおまかにピント合わせを行うと、顔を検知して画面に〈[ ]〉が表示されます。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」、「顔が明るすぎる／暗すぎる」、「顔が横や斜めを向いている」、「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- ピント合わせを行う〈[ ]〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。

- 〈✣〉をまっすぐに押すと、ライブモード（p.131）に切り換わり、〈✣〉でAFフレームを移動することができます。もう一度まっすぐに押すと、☺（顔優先）ライブモードに戻ります。
- 画面の端のほうで検知された顔は AF できないため、〈⁚ ⁚〉が灰色で表示されます。その状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央のAFフレーム〈□〉でピント合わせが行われます。

ライブモードと☺（顔優先）ライブモードに関するおことわり

AFの動作について

- ピント合わせには、多少時間がかかります。
- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、再度ピント合わせが行われます。
- AF中とAF後で、映像の明るさが変わることがあります。
- ライブビュー映像表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。そのときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でAFを行ってください。
- ライブモードで〈⊕〉ボタンを押すと、AFフレームの部分が拡大表示されますが、拡大表示でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。なお、AFの速度は、通常表示と拡大表示で異なることがあります。
- ライブモードの通常表示でAFを行ったあと、拡大表示すると正確にピントが合っていないことがあります。
- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（AFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- ☺ライブモードのときは、〈⊕〉ボタンを押しても拡大表示されません。
- 外部ストロボからAF補助光は投光されません。

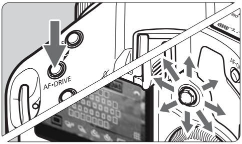
ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面など、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 横縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯などの照明下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 光を強く反射している被写体
- 遠いところと近いところにある被写体が、AFフレームにかかっている場合（おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 近づく、または遠ざかる被写体
- 大きくピンボケした状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合

クイックモード：AFQuick

ファインダー撮影時と同じAF方式で、専用のAFセンサーを使ってワンショットAF（p.95）でピント合わせを行います。

狙ったところに素早くピントを合わせることができますが、**AF中はライブビュー表示が一時的に中断されます。**

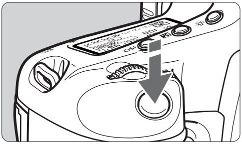




1 AFフレームを選ぶ

- 〈AF•DRIVE〉ボタンを押したあと、〈✣〉を操作して、AFフレームを選びます。
- 〈✣〉を操作すると、押した方向のAFフレームが選択されます。
- 〈✣〉をまっすぐに押すと、中央のAFフレームが選択されます。もう一度まっすぐに押すと、自動選択になります。
- 外周のAFフレームがすべて点灯したときが自動選択です。

- 〈AF•DRIVE〉ボタンを押すか、タイマー（⏱6）が終了すると、画面に選択したAFフレームが表示されます。
（自動選択に設定したときは、AFフレームは表示されません）



2 ピントを合わせる

- ● AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ライブビュー映像が消えてミラーが下がり、AFが行われます。
- ➡ ピントが合うと「ピピッ」と電子音が鳴り、AF フレームが赤く表示されます。（自動選択のときは、ピントが合ったAFフレームが一瞬赤く表示されます）
- ➡ 自動的にライブビュー表示に戻ります。



3 撮影する

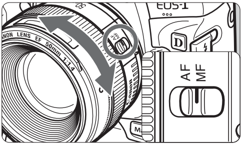
- ● ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.127）。



AF中は撮影できません。ライブビュー映像が表示された状態で撮影してください。

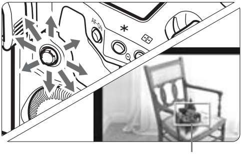
手動でピントを合わせる

映像を拡大表示して、手動で厳密にピントを合わせることができます。



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

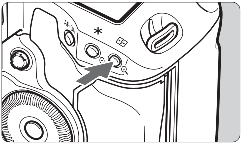
- レンズのフォーカスリングを回して、大まかにピントを合わせておきます。



拡大表示枠

2 拡大表示枠を移動する

- ピントを合わせたい場所に、〈⁜〉で拡大表示枠を移動します。
- 〈⁜〉をまっすぐに押すと、画面中央に戻ります。



3 映像を拡大する

- 〈⊕〉ボタンを押します。
- ➡ 枠内が拡大表示されます。
- 〈⊕〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。

→ 5倍 → 10倍 → 通常表示 →



AEロック
拡大表示位置
拡大率

4 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈⊕〉ボタンを押して通常表示にします。

5 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを押して撮影します（p.127）。

ライブビュー撮影全般に関する注意事項

ライブビュー映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。そのときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 太陽など、極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所でメニュー［**Ƴ: 液晶の明るさ**］を明るい設定にすると、ライブビュー映像に色ノイズが発生することがあります。ただし、この色ノイズは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

〈🌡〉マークとカメラ内部の温度上昇について

- ライブビュー撮影を長時間行ったり、高温下でライブビュー撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、〈🌡〉マークで警告表示が行われます。なお、高温下でライブビュー撮影を長時間行うと、〈🌡〉マークが表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 〈🌡〉マークが表示された状態でライブビュー撮影を行うと、撮影画像（静止画）の画質が低下することがあります。〈🌡〉マークが表示されたときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影を一時休止することをおすすめします。
- 〈🌡〉マークが表示された状態でライブビュー撮影を継続すると、カメラ内部の温度がさらに上昇し、撮影が自動的に終了することがあります。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。

ライブビュー撮影全般に関する注意事項

撮影結果について

- 高ISO感度でライブビュー撮影を行うと、ノイズ（横縞、輝点など）や色ムラが発生することがあります。
- ライブビュー撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、撮影画像の画質が低下する恐れがあります。撮影しないときは、こまめにライブビュー撮影を終了してください。
- 画質低下を防ぐため、長秒時露光を行うときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。
- 高ISO感度で撮影した画像を再生すると、ノイズや色ムラが目立つことがあります。
- 拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。なお、拡大表示中は、シャッター速度と絞り数値が赤く表示されます。なお、拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。

カスタム機能について

- ライブビュー撮影時は、設定が無効になるカスタム機能があります（p.205～207）。
- ［**C.Fn II -4：オートライティングオプティマイザ**］（p.81）が［**3：しない**］以外に設定されているときは、マニュアル露出、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定（補正）しても、明るく撮影されることがあります。

レンズとストロボについて

- 超望遠レンズに搭載されている、フォーカスプリセット機能は使用できません。
- 外部ストロボ使用時にFEロック、モデリング発光はできません。

6

動画を撮影する

　ライブビュー映像を、動画としてカードに記録することができます。動画は「自動露出」または「マニュアル露出」で撮影することができます。記録形式は、MOV形式です。

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、大容量で、書き込み/読み取り速度が速いカードを使用してください。CFカード使用時は、実際の速度が8MB/秒以上、SDカード使用時は、SDスピードクラス6「CLASS⑥」以上のカードを使用してください。

動画撮影時に書き込みが遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。

なお、カードの書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

Full HD 1080について

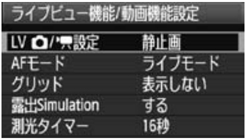
Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本）のHD（High Definition：ハイディフィニション）映像に対応していることを示しています。

🎥 動画撮影の準備

ライブビュー映像を動画として記録できるように設定します。静止画の撮影については、125ページを参照してください。

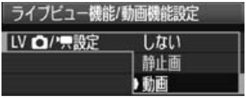
1 [ライブビュー機能/動画機能設定] を選ぶ

- [🔧] タブの [**ライブビュー機能/動画機能設定**] を選び、〈SET〉を押します。



2 [LV📷/🎥設定] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**LV📷/🎥設定**] を選び、〈SET〉を押します。
- 「LV」は、「ライブビュー」の略です。



3 [動画] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**動画**] を選び、〈SET〉を押します。



4 [動画記録サイズ] を設定する

- [**動画記録サイズ**] については、151 ページを参照してください。

5 メニュー画面を終了する

- 〈MENU〉ボタン、またはシャッターボタンを半押しして、メニュー画面を消します。



6 ライブビュー映像を表示する

- 〈SET〉を押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 画面の上下、または左右に半透過の帯が表示されます。その内側が動画として記録される範囲です。
- 撮影モードが〈**M**〉のときは、〈⚙/◎〉を回して明るさを調整します。

動画を撮影する

自動露出撮影

撮影モードが〈M〉以外のときは、明るさに応じて自動露出制御が行われます。なお、自動露出制御の内容は、どの撮影モードでも同じです。



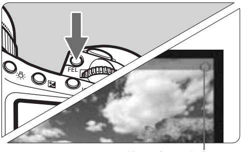
1 撮影モードを〈M〉以外にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈 / 〉を回して〈**M**〉以外の撮影モードを選びます。

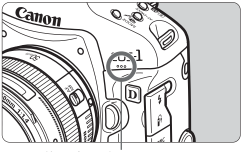


2 ピントを合わせる

- 動画撮影を始める前に、AFまたは手動でピントを合わせます（p.131～138）。
- シャッターボタンの半押し、または〈AF-ON〉ボタンを押すと、設定されているAFモードでピント合わせが行われます。



動画撮影中



動画撮影用マイク

3 動画を撮影する

- 〈FEL〉ボタンを押します。
- ➡ 動画撮影が始まります。動画撮影中は、画面右上に「●」マークが表示されます。
- 動画撮影中に〈AF-ON〉ボタンを押すと、ピントを合わせ直すことができます。
- もう一度〈FEL〉ボタンを押すと、動画撮影が終了します。

- 〈✱〉ボタンを押すと、露出を固定（AEロック）することができます（p.115）。動画撮影中にAEロックを行ったときは、〈⊞〉ボタンを押すと、AEロックを解除することができます。
- 電源スイッチを〈J〉にして〈◎〉を回すと、露出補正を行うことができます。
- ISO感度は、ISO100～12800の範囲で自動設定されます。なお、［C.Fn I -3：ISO感度の制御範囲の設定］で、［上限値］を［H1］［H2］［H3］にすると、ISO感度が拡張され、設定した上限値までの範囲でISO感度が自動設定されます。ただし、［下限値］を［L］に設定しても、低感度側には拡張されません。また、初期設定から上限値、下限値を狭めても、設定範囲は狭くなりません。
- シャッターボタン半押しで画面下に表示される、ISO感度、シャッター速度、絞り数値は、静止画撮影用の露出値です（p.148）。動画撮影の露出値は表示されません。なお、動画の撮影露出と、静止画の撮影露出は異なることがあります。

マニュアル露出撮影

撮影モードを〈M〉に設定すると、任意にISO感度、シャッター速度、絞り数値を設定して、動画撮影を行うことができます。



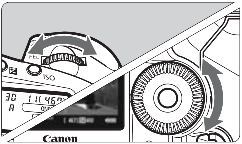
1 撮影モードを〈M〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈⚙/◎〉を回して〈M〉を選びます。



2 ISO感度を設定する

- 〈ISO〉ボタンを押し、画面を見ながら〈⚙/◎〉を回してISO感度を設定します。
- ISO感度については、146ページを参照してください。





3 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
- 〈〉を回すと、1/30（1/60）～1/4000秒の範囲でシャッター速度を設定することができます。
- 電源スイッチを〈J〉にして、〈〉を回すと、絞り数値を設定することができます。



4 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順2, 3と同じです(p.143)。

- マニュアル露出撮影のため、AEロック、露出補正はできません。
- 動画撮影中に、シャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。

- シャッター速度の下限値は、フレームレート（p.151）の設定により変わります。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/30 ～ 1/125 秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。

マニュアル露出撮影時のISO感度について

- ［AUTO］（A）、またはISO100～12800の範囲で1/3段ステップで設定することができます。
- ISO感度を［AUTO］（A）に設定したときは、ISO感度が100～12800の範囲で自動設定されます（［C.Fn I -3：ISO感度の制御範囲の設定］（p.208）の設定は機能しません）。なお、そのときは「絞り優先AE（絞り固定・適正露出）」的な動画撮影を行うことができます。
- ［C.Fn I -3：ISO感度の制御範囲の設定］で、［上限値］を［H1］（ISO25600相当）、［H2］（ISO51200相当）、［H3］（ISO102400相当）に設定すると、ISO感度が拡張され、設定した上限値までの範囲で、ISO感度を任意に設定することができます。なお、初期設定から上限値、下限値を狭めたときは、その範囲で設定することができます。
- ［C.Fn I -3：ISO感度の制御範囲の設定］で、［下限値］を［L］（ISO50相当）に設定しても、ISO感度設定時に［L］は選択できません。
- ［C.Fn II -3：高輝度側・階調優先］（p.215）を［1：する］に設定したときは、ISO感度がISO200～になります。

自動露出撮影、マニュアル露出撮影時共通事項

- ビデオカメラのように、自動的にピントを合わせ続ける機能は搭載していません。
- 動画撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 〈AWB〉で動画撮影中に、ISO 感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- ズーム操作により、開放絞り数値が変化するレンズ使用時は、動画撮影中のズーム操作はおすすめできません。露出変化が記録されることがあります。

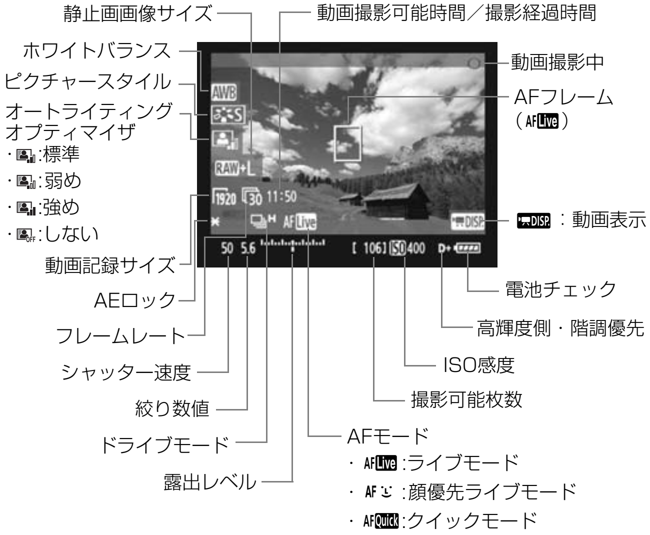
自動露出撮影、マニュアル露出撮影時共通事項

- メニュー［**記録機能とメディア・フォルダ選択**］が、［**振り分け**］［**同一書き込み**］に設定されていても（p.57）、動画をCFカード〈1〉とSDカード〈2〉に同時に記録することはできません。［**振り分け**］［**同一書き込み**］に設定されているときは、［**再生**］に設定されているカードに動画が記録されます。
- **動画撮影全般に関する注意事項は、153、154ページにまとめて記載しています。**
- **必要に応じて139、140ページの『ライブビュー撮影全般に関する注意事項』もお読みください。**
- オリジナルデータセキュリティキット OSK-E3 を使用して、動画を暗号化することはできません。

- 動画は、1回の撮影ごとに、1ファイル記録されます。
- 動画撮影時は、画面の上下または左右に半透過の帯が表示されます。その内側の範囲が動画として記録されます。なお、半透過部分の表示は、［**動画記録サイズ**］の設定で変わります（p.151）。
- 音声は、カメラに内蔵されたマイク（p.143）でモノラル録音されます。
- 外部マイク入力端子（p.19）に、ステレオミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のマイクを接続すると、ステレオ録音することができます。なお、外部マイク入力端子に、外部マイク以外からの出力を入力しないでください。
- 音量（録音レベル）は自動調整されます。
- 撮影した動画を「撮影情報表示」（p.156）で再生したときに、撮影モード、シャッター速度、絞り数値は表示されません。ただし、画像情報（Exif情報）には、撮影開始時点の設定値が記録されます。
- フル充電のバッテリーパック LP-E4で動画撮影できる時間は、常温（＋23℃）：合計約2時間40分、低温（0℃）：合計約2時間20分です。
- 付属ソフトウェアのZoomBrowser EX/ImageBrowserを使用すると、動画から静止画を取り出すことができます。静止画の画質は［**1920×1080**］：約207万画素、［**1280×720**］：約92万画素、［**640×480**］：約31万画素です。

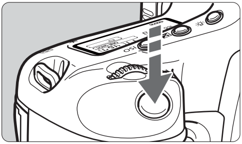
INFO. 情報表示について

● 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。



● カードが入っていないときは、「動画撮影可能時間」が赤く表示されます。
● 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると、撮影の経過時間に変わります。

動画撮影時の静止画撮影について



シャッターボタンを全押しすると、動画撮影中を含め、いつでも静止画を撮影することができます。

- 半透明部分を含む、画面全体が静止画として記録されます。
- シャッターボタンを半押ししたときに表示される露出値で静止画が撮影されます。マニュアル露出で動画撮影中に静止画を撮影したときは、動画撮影用に設定した、露出設定で静止画が撮影されます。
- 設定されている画像サイズ、JPEG 圧縮率、ピクチャースタイルで静止画が撮影されます。
- 動画撮影中に静止画撮影を行うと、動画の中に静止状態の映像が約1 秒間記録されます。静止画がカードに記録され、ライブビュー映像が表示されると、自動的に動画撮影が再開します。
- カードには、動画と静止画が別ファイルで記録されます。なお、連続撮影したときは、撮影枚数分の静止画がカードに記録されます。
- ［**記録機能**］（p.57）が［**標準**］［**自動切り換え**］に設定されているときは、動画と静止画は同じカードに記録されます。［**振り分け**］［**同一書き込み**］に設定されているときは、動画は［**再生**］に設定されているカード、静止画はそれぞれのカードに対する画像サイズの設定通りに記録されます。

- 外部ストロボを使用しても発光しません。
- AEB撮影はできません。
- 動画撮影中に静止画を連続撮影することができますが、連続撮影中は画面が表示されません。なお、静止画の画像サイズや、連続撮影する枚数、カードの性能などにより、動画撮影が自動的に停止することがあります。

- 動画撮影中に静止画を連続撮影するときは、UDMA転送に対応した高速タイプのCFカードの使用をおすすめします。また、静止画の画像サイズを小さくしたり、連続撮影する枚数を少なくすることをおすすめします。
- ドライブモードが〈$\circlearrowleft^{10}$〉〈$\circlearrowleft_2$〉に設定されている状態で、動画撮影を開始すると、自動的に〈□〉（1枚撮影）に切り換わります。

撮影機能の設定

動画撮影時もファインダー撮影時と同じように、ボタン操作による機能設定の変更や、再生操作を行うことができます。

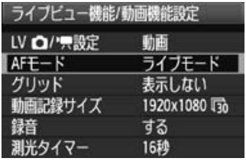


- 〈MODE〉〈AF•DRIVE〉〈☑〉〈☀〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈☼〉、または〈◎〉を回すと、設定を変更することができます。

- 〈FUNC.〉ボタンを押すと、背面表示パネルを見ながら、〈☼〉で記録するカード、〈◎〉で画像サイズ、またはホワイトバランスを設定することができます。
- 測光モードは、動画撮影用の中央部重点平均測光に固定されます。ただし、AFモードが［☺（顔優先）ライブモード］に設定されているときは、被写体の顔に連動した評価測光で露出制御が行われます。
- AF モードを［**クイックモード**］に設定していても、動画撮影中は［**ライブモード**］に切り換わります。

MENU メニュー機能の設定

動画撮影時もメニュー機能の設定を行うことができます。なお、動画撮影特有の機能は次のとおりです。



［Ｙ:］タブの［**ライブビュー機能/動画機能設定**］画面で、次の機能を設定することができます。

● **AFモード**（p.131〜137）

［**ライブモード**］、［**☺ライブモード**］、［**クイックモード**］が選択できます。なお、**動いているものにピントを合わせ続けることはできません。**

● **グリッド**

［**グリッド1**＃］、または［**グリッド2**＃＃］で格子線を表示することができます。水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。

● **動画記録サイズ**

動画の画像サイズ［****x****］と、フレームレート［**］（1秒間に何コマ記録するか）を選ぶことができます。なお、**（フレームレート）は、［**Ｙ: ビデオ出力方式**］の設定により、自動的に切り換わります。

・**画像サイズ**

［**1920×1080**］：Full HD（フルハイビジョン）画質で記録します。
［**1280×720**］：HD（ハイビジョン）画質で記録します。
［**640×480**］：標準画質で記録します。画面の横縦比率は4:3です。

・**フレームレート**（fps：frame per second）

［30］［60］：テレビの映像方式が「NTSC」の地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）で設定します。
［25］［50］：テレビの映像方式が「PAL」の地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）で設定します。
［24］：おもに映画関連で使用します。

* 実際のフレームレート（fps）は、30：29.97、25：25.00、24：23.976、60：59.94、50：50.00です。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安（約）

動画記録サイズ	総記録時間		ファイルサイズ
	4GBカード	16GBカード	
1920×1080 30 25 24	12分	49分	330MB/分
1280×720 60 50	12分	49分	330MB/分
640×480 60 50	24分	1時間39分	165MB/分

- 動画撮影を開始してからファイルサイズが4GBに達した時点、または29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。〈FEL〉ボタンを押すと動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

● **録音**

［**する**］に設定したときは、内蔵マイクでモノラル録音されます。外部マイク入力端子（p.19）に、ステレオミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のマイクを接続すると、外部マイクが優先され、ステレオ録音することができます。［**しない**］に設定したときは、録音は行われません。

● **測光タイマー**

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変更することができます。

メニュー［**MWBデータ登録**］、［**ダストデリートデータ取得**］、［**カメラ設定をメディアに保存・読込**］、［**カメラ基本設定の登録・呼出**］、［**センサークリーニング**］、［**カメラ設定初期化**］、［**ファームウェア**］を選んだときは、動画撮影が終了します。

動画撮影全般に関する注意事項

記録・画質について

- 高ISO感度で動画撮影を行うと、ノイズ（横縞、輝点など）や色ムラが発生することがあります。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、撮影条件により動画撮影時間が短くなったり、撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉の位置にすることをおすすめします。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。なお、市販の外部マイクを使用すると、これらの音を録音しないように（低減）することができます。
- 動画撮影中にピントを合わせ直すときは、〈AF-ON〉ボタンを押してください（シャッターボタンを半押ししてもAFは行われません）。ただし、動画撮影中にAFを行うと、一時的にピントが大きくボケたり、露出変化が生じることがあるため、おすすめできません。
- カードの残り容量がわずかで、動画撮影ができないときは、動画撮影可能時間（p.148）が赤く表示されます。
- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側に5段階のインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードに書き込みができていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーターがフルになると、動画撮影が自動的に停止します。
  書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。



インジケーター

- 動画撮影時は、設定が無効になるカスタム機能があります（p.205～207）。

動画撮影全般に関する注意事項

〈〉マークとカメラ内部の温度上昇について

- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、〈〉マークが表示されることがあります。なお、高温下で動画撮影を長時間行うと、〈〉マークが表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 〈〉マークが表示された状態で動画撮影を行っても、動画の画質は低下しません。ただし、〈〉マークが表示された状態で静止画を撮影すると、撮影画像（静止画）の画質が低下することがあります。〈〉マークが表示されたときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影を一時休止することをおすすめします。
- 〈〉マークが表示された状態で動画撮影を継続すると、カメラ内部の温度がさらに上昇し、撮影が自動的に終了することがあります。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。

再生・テレビ接続について

- 動画撮影中に明るさが変化すると、動画を再生したときに、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。
- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは（p.171）、動画撮影中に〈INFO.〉ボタンを押しても、撮影情報は切り換わりません。
- カメラとテレビを接続（p.170、171）して動画撮影を行うと、撮影中テレビから音は出ません。ただし、音声は正常に記録されます。

7

画像の再生

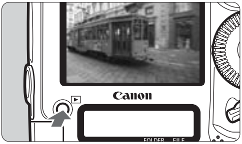
撮影した画像（静止画／動画）を、カメラで再生・消去する方法や、テレビで見る方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明します。

他の機器で撮影・記録された画像について

このカメラ以外で撮影された画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工・編集したり、ファイル形式の変換やファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

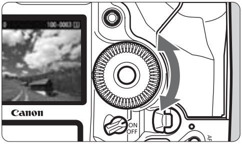
▶ 画像を再生する

1枚表示



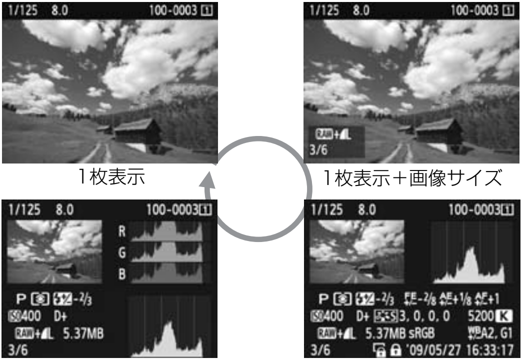
1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。



1枚表示

1枚表示＋画像サイズ

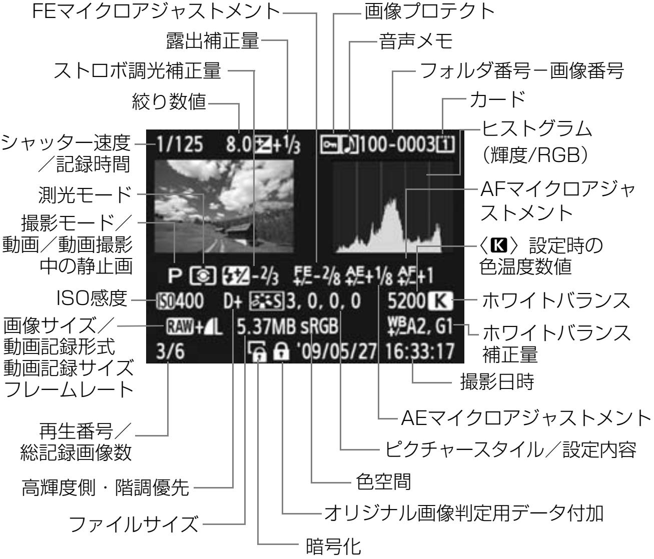
ヒストグラム表示

撮影情報表示

3 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

INFO. 撮影情報の内容



* RAW+JPEGで撮影した画像は、JPEG画像のファイルサイズが表示されます。
* 動画ファイルのときは、動画マーク〈'🎥〉、記録形式〈MOV〉、記録サイズ〈1920/1280/640〉、フレームレート〈60/50/30/25/24〉が表示されます。なお、撮影モード、シャッター速度、絞り数値は、表示されません。
* 動画撮影時に撮影した静止画のときは、〈'🎥〉が表示されます。

● ハイライト警告表示について

メニュー［▶: ハイライト警告表示］を［する］に設定すると、露出オーバーで白飛びした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

● AFフレーム表示について

メニュー［**AFフレーム表示**］を［**する**］に設定すると、ピント合わせを行ったAFフレームが赤い枠で表示されます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数同時に表示されることがあります。

● ヒストグラムについて

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、メニュー［**ヒストグラム**］で行います。

［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例


暗い成分が多い


普通の明るさ


明るい成分が多い

［RGB］表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

▶ 見たい画像を素早く探す

一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

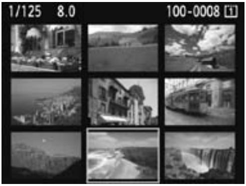
見たい画像を素早く見つけることができる、インデックス表示といわれる再生方法で、一度に4枚、または9枚の画像を表示することができます。



1 インデックス表示にする

- 画像を再生した状態で、〈⊖〉ボタンを押します。
- ➡ 4枚インデックス表示になります。選択されている画像に青色の枠が付きます。
- もう一度〈⊖〉ボタンを押すと、9枚インデックス表示になります。〈⊕〉ボタンを押すと、9枚→4枚→1枚表示になります。



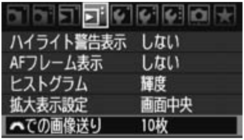


2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して青色の枠を移動させ、画像を選びます。
- 〈SET〉を押すと、選んだ画像が1枚表示で表示されます。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

1枚表示のときに、〈 〉を回すと画像を飛ばして表示することができます。





1 ジャンプ方法を選ぶ

- メニュー［ での画像送り］で［1枚/10枚/100枚/撮影日/フォルダ/動画/静止画］の中から、希望するジャンプ方法を選び、〈SET〉を押します。



ジャンプ方法

再生位置

2 画像送りをする

- 〈 〉ボタンを押して画像を再生します。
- 〈 〉を回します。
- ➡ 設定した方法でジャンプ表示が行われます。
- ➡ 画面右下にジャンプ方法と、現在再生している画像の位置が表示されます。

- ［**撮影日**］は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。〈 〉を回すと撮影日が表示されます。
- ［**フォルダ**］は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- ［**動画**］と［**静止画**］は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。

⊕／⊖ 拡大して見る

撮影した画像を、約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます。



拡大表示位置

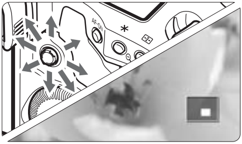
1 画像を拡大する

● 画像を再生した状態で、〈⊕〉ボタンを押します。

➡ 拡大表示されます。

● 〈⊕〉ボタンを押し続けると、最大の拡大率まで連続的に大きくなります。

● 〈⊖〉ボタンを押すと、縮小表示になります。押し続けると、1枚表示まで連続的に小さくなります。



2 表示位置を移動する

● 〈✥〉を操作した方向に表示位置が移動します。

● 〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了し、1枚表示になります。

拡大開始位置について

通常は、画面中央から拡大表示が始まります。メニュー［**▶: 拡大表示設定**］を［**AFフレーム任意選択点から拡大**］に設定すると、任意選択したAFフレームの位置を中心に拡大表示が始まります。迅速なピント確認を行いたいときに有効です。

● 拡大表示中に〈◎〉を回すと、拡大率、拡大位置が固定された状態で、画像を切り換えることができます。
● AF フレーム自動選択、および手動ピント合わせ〈**MF**〉で撮影した画像は、画面中央からの拡大表示になります。
● 撮影直後の画像表示中からの拡大表示はできません。
● ［**AFフレーム任意選択点から拡大**］設定時
　・拡大開始時の表示倍率は、画像サイズにより異なります。
　・C.Fn III -8-1,2,3設定時は、測距領域が広がり、実際にピントが合った位置から拡大されるため、任意選択した位置から拡大されないことがあります。
● 動画は拡大表示できません。

回転させる

画像が表示される向きを変えたいときに、この方法で回転させます。



1 [画像回転]を選ぶ

- [▶̇]タブの[**画像回転**]を選び、〈SET〉を押します。



2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して回転する画像を選びます。
- インデックス表示にして選ぶこともできます。



3 画像を回転する

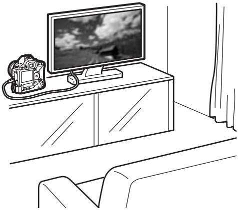
- 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転(90°→270°→0°)します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像回転が終了しメニューに戻ります。

- メニュー[**縦位置画像回転表示**]を[**する**](p.182)に設定して撮影すると、この機能で画像を回転する必要がなくなります。
- 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、メニュー[**縦位置画像回転表示**]を[**する**]に設定します。
- 動画は回転できません。

撮った動画の楽しみ方

撮影した動画は、おもに次の3通りの方法で再生して楽しむことができます。

テレビに接続して再生する (p.170、171)

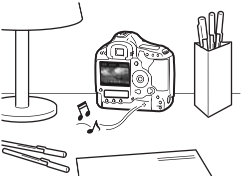


付属のステレオAVケーブル、または別売のHDMIケーブルHTC-100でカメラとテレビを接続して、撮影した動画や静止画をテレビで再生することができます。

Full HD（フルハイビジョン：1920×1080）、またはHD（ハイビジョン：1280×720）画質で撮影した動画は、HDMIケーブルで、ハイビジョン対応のテレビに接続すると、より高画質な映像を楽しむことができます。

- 動画が入ったカードは、MOV形式の動画ファイル再生に対応した機器以外では、再生できません。
- ハードディスクレコーダーは、HDMI 入力端子を備えていないため、HDMIケーブルで、カメラとハードディスクレコーダーを接続することはできません。
- USBケーブルで、カメラとハードディスクレコーダーを接続しても、動画や静止画を再生・保存することはできません。

カメラの液晶モニターで再生する (p.165～169)



カメラの液晶モニターで動画を再生することができ、シーンの前後部分をカット（簡易編集）することもできます。また、カードに記録されている静止画と動画をスライドショーで自動再生することもできます。

パソコンで編集した動画をカードに書き戻して、カメラで再生することはできません。

パソコンで再生・編集する

（→ZoomBrowser EX/ImageBrowser使用説明書PDF参照）

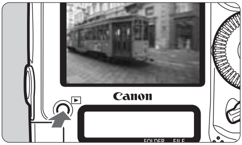


カードに記録されている動画ファイルをパソコンに取り込んで、付属ソフトウェアのZoomBrowser EX/ImageBrowserで再生・編集することができます。

また、動画から1フレームを取り出して、静止画として保存することもできます。

- 撮影した動画をパソコンで滑らかに再生するには、高性能なパソコンが必要です。動作環境については、ZoomBrowser EX/ImageBrowserの使用説明書（PDF）を参照してください。
- 市販のソフトウェアで再生・編集するときは、MOV形式の動画に対応したソフトウェアを使用してください。市販のソフトウェアについては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

🎥 動画を再生する



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。





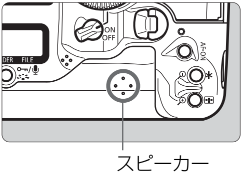
2 動画を選ぶ

- 〈◎〉を回して画像を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に〈🎥 SET〉が表示されている画像が動画です。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈SET〉を押して1枚表示にします。**

3 1枚表示の状態で〈SET〉を押す

➡ 画面の下側に動画再生パネルが表示されます。





4 動画を再生する

- 〈◎〉を回して[▶]（再生）を選び、〈SET〉を押します。

➡ 動画再生が始まります。

- 再生中に〈SET〉を押すと、再生が一時停止します。
- 〈☼〉を回すと、再生中でも音量を調整することができます。
- 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。

項目	再生内容
終了	1枚表示の状態に戻ります。
▶ 再生	〈(SET)〉を押すたびに再生／停止を繰り返します。
スロー再生	〈◎〉を回すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
先頭フレーム	動画の先頭画面が表示されます。
フレーム戻し	〈(SET)〉を押すたびに1コマ戻ります。〈(SET)〉を押し続けると、早戻しになります。
フレーム送り	〈(SET)〉を押すたびに1コマ送られます。〈(SET)〉を押し続けると、早送りになります。
最終フレーム	動画の最終画面が表示されます。
編集	編集画面が表示されます（p.167）。
	再生位置
mm’ SS”	再生時間
音量	〈⚙〉を回すと、内蔵スピーカーの音量を調整することができます。

- フル充電のバッテリーパック LP-E4で連続再生できる時間は、常温（+23℃）：約9時間20分です。
- 1枚表示のときに〈INFO.〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます（p.156）。
- 動画撮影中に静止画を撮影した場面では、約1秒間、静止画が表示されます。
- カメラをテレビに接続して（p.170、171）動画を再生するときは、テレビ側で音量の調整を行ってください。〈⚙〉を回しても音量は変わりません。

✂ 動画の前後部分をカットする

撮影した動画の前後を約1秒単位で削除することができます。



1 動画再生画面で［✂］を選ぶ

➡ 編集画面が表示されます。





2 削除する範囲を指定する

- ［✂前］（前部を削除）か、［後✂］（後部を削除）を選んで〈SET〉を押します。
- 〈✥〉を左右に押すと、フレームが送られます。押したままにすると、早送りになります。〈◎〉をまわすと前後に1フレームずつ送られます。
- 削除する範囲が決まったら、〈SET〉を押します。画面上部の青色で表示された範囲が残ります。



3 編集内容を確認する

- ［▶］を選んで〈SET〉を押すと、青色で表示された範囲が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順2の操作を行います。
- 編集を中止するときは、［⮌］を選んで〈SET〉を押します。



4 保存する

- ［保存］を選んで〈SET〉を押します。
- ➡ 保存画面が表示されます。
- 別画像として保存するときは［**新規保存**］、編集前の動画を残さないときは［**上書き保存**］を選択して、〈SET〉を押します。

- 約1秒単位（［✂］が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なる場合があります。
- カードの空き容量が少ないときは、［**新規保存**］は選択できません。
- 付属ソフトウェアのZoomBrowser EX/ImageBrowserを使うと、さまざまな動画編集を行うことができます。

MENU 自動再生する（スライドショー）

カードに記録されている画像を自動的に連続再生します。



1 ［スライドショー］を選ぶ

- ［▶:］タブの［**スライドショー**］を選び、〈SET〉を押します。







2 再生する画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して図に示した項目を選び、〈SET〉を押します。

［全画像/動画/静止画］

- 〈◎〉を回して［**全画像/動画/静止画**］のいずれかを選び、〈SET〉を押します。

［フォルダ/日付］

- 〈◎〉を回して［**フォルダ/日付**］のいずれかを選びます。
- 〈INFO.〉が明るく表示された状態で、〈INFO.〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回してフォルダ、または日付を選び、〈SET〉を押します。

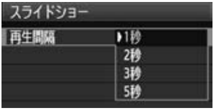
項目	再生内容
全画像	カード内のすべての静止画、動画を再生します。
フォルダ	選んだフォルダ内にある静止画、動画を再生します。
日付	選んだ撮影日の静止画、動画を再生します。
動画	カード内の動画だけを再生します。
静止画	カード内の静止画だけを再生します。



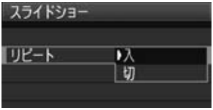
3 再生間隔とリピートを設定する

- 〈◎〉を回して［**設定**］を選び、〈SET〉を押します。
- 静止画の［**再生間隔**］と、［**リピート**］（繰り返し再生）の設定を行い、〈MENU〉ボタンを押します。

［**再生間隔**］



［**リピート**］





4 スライドショーを開始する

- 〈◎〉を回して［**スタート**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ［**画像読み込み中...**］が数秒間表示されたあと、スライドショーが始まります。

5 スライドショーを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、スライドショーが終了し設定画面に戻ります。

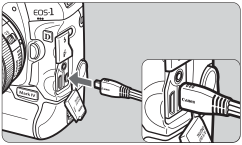
- 一時停止したいときは、〈SET〉を押します。一時停止中は画像の左上に［**II**］が表示されます。もう一度〈SET〉を押すと、再開します。
- 自動再生中に〈INFO.〉ボタンを押すと、静止画の表示形式を切り換えることができます。
- 動画再生中に〈⚙〉を回すと、音量を調整することができます。
- 一時停止中に〈◎〉または〈⚙〉を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中、オートパワーオフは機能しません。
- 画像により、表示時間が異なる場合があります。
- テレビでスライドショーを見るときは、170、171ページを参照してください。

テレビで見る

撮影した静止画や動画を、テレビなどで見ることができます。ケーブルの接続／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。

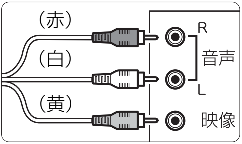
* 動画の音量はテレビで調整します。なお、動画の再生方法は、165ページを参照してください。
* 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。

HD（ハイビジョン）非対応のテレビで見る



1 付属のAVケーブルをカメラに接続する

- カメラの〈**A/V OUT**／**DIGITAL**〉端子に、ステレオAVケーブルを接続します。
- プラグの〈**Canon**〉ロゴが、カメラの前面に向くようにして差し込みます。

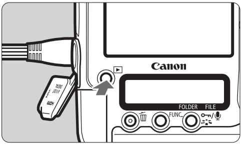


2 テレビにAVケーブルを接続する

- ステレオAVケーブルを、テレビの映像入力端子、音声入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする



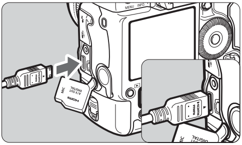
5 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。

- テレビ方式と異なるビデオ出力方式が設定されていると、画像が正しく表示されません。そのときは、メニュー［**ビデオ出力方式**］で方式を切り換えてください。
- 付属のステレオAVケーブル以外は使用しないでください。画像が表示されないことがあります。

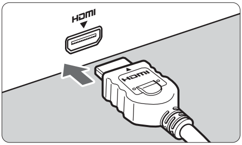
HD（ハイビジョン）対応のテレビで見る

別売のHDMIケーブル HTC-100が必要です。



1 HDMIケーブルをカメラに接続する

- カメラの〈**HDMI OUT**〉端子に、HDMIケーブルを接続します。
- プラグの〈**▲HDMI MINI**〉マークが、カメラの背面に向くようにして差し込みます。

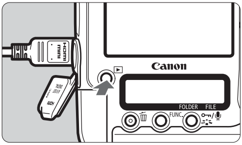


2 テレビにHDMIケーブルを接続する

- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする



5 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、表示を切り換えることができます。

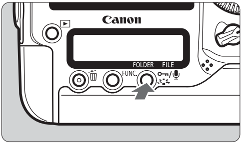
カメラの〈**HDMI OUT**〉端子に、他の機器からの出力を入力しないでください。故障の原因になります。

- テレビとの相性により、撮影した画像を再生できないことがあります。そのときは、付属のステレオAVケーブルで接続してください。
- 〈**A/V OUT**/**DIGITAL**〉端子と〈**HDMI OUT**〉端子は、同時に使用できません。

⚿ 保護する（プロテクト）

大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないよう、プロテクトをかける（保護する）ことができます。

1枚ずつプロテクト





1 プロテクトしたい画像を選ぶ

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生し、〈◎〉を回して画像を選びます。

2 プロテクトをかける

- 画像が表示された状態で、〈⚿/🎤〉ボタンを押します。
- ➡ プロテクトが設定されると、画面の上に〈⚿〉が表示されます。
- もう一度〈⚿/🎤〉ボタンを押すと、プロテクトが解除され〈⚿〉が消えます。
- ほかにプロテクトをかけたい画像があるときは、手順1、2を繰り返します。

MENU フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ単位、またはカード単位で、画像にプロテクトをかけることもできます。



メニュー［▶ **画像プロテクト**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像にプロテクトがかかります。

解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。

- **カードを初期化すると**（p.50）、**プロテクトされた画像も消去されます。**
- 1枚ずつプロテクトするときは、〈/〉ボタンを押してすぐに離してください。約2秒間押したままにすると、音声メモが記録されます。

- メニュー［ **画像プロテクト**］の［**画像を選択**］でも、1枚ずつプロテクトすることができます。そのときは、〈SET〉でプロテクト/解除を行います。
- プロテクトをかけた画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像にプロテクトをかけてから全画像消去（p.179）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。
- ［**C.Fn IV -9：/ボタンの機能**］を［**1：音声メモ記録（プロテクト不可）**］［**2：音声メモ再生（長押しで記録）**］に設定したときは、〈/〉ボタンで、画像のプロテクトはできません。メニュー［ **画像プロテクト**］の［**画像を選択**］でプロテクトしてください。

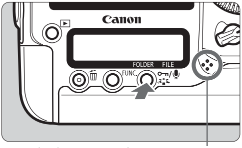
🎙 音声メモを記録／再生する

撮影した画像に音声メモを付けることができます。音声メモは、画像と同じ画像番号で音声ファイル（WAV形式）として記録されます。カメラ、または付属のソフトウェアなどで再生することができます。

音声メモを記録する

1 音声メモを付加したい画像を選ぶ

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生し、〈◎〉を回して画像を選びます。



音声メモ記録用マイク





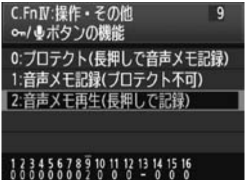
2 音声メモを記録する

- 画像が表示された状態で、〈⊶/🎙〉ボタンを約2秒間押したままにします。
- ［**音声メモ記録中...**］が表示されたら、ボタンを押したまま、記録マイクに向かって話します。一度に記録できる時間は30秒です。
- 話し終わったら、ボタンから指を離します。
- ➡ 画面の上に〈[♪]〉が表示されます。

- プロテクトされている画像に、音声メモを付けることはできません。
- 動画に音声メモを付けることはできません。
- 30秒以上記録するときは、手順2を繰り返します。
- 撮影直後の画像表示中に、手順2の操作で1回だけ記録することができます。
- 外部マイクで音声メモを記録することはできません。

音声メモを再生する

［C.Fn IV -9：ボタンの機能］を［2：音声メモ再生（長押しで記録）］に設定すると（p.231）、画像に付加した音声メモを再生することができます。



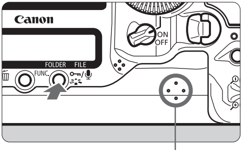
1 ［C.Fn IV -9：ボタンの機能］を［2：音声メモ再生（長押しで記録）］に設定する

- 231ページを参照して、設定します。
- カスタム機能の設定方法については、204ページを参照してください。



2 音声メモを再生したい画像を選ぶ

- 〈 〉ボタンを押して画像を再生し、〈 〉を回して、画面の上に〈 〉が表示されている画像を選びます。



スピーカー



3 音声メモを再生する

- 画像が表示された状態で、〈 〉ボタンを押します。
- ➡ 音声メモが再生されます。
- 〈 〉を回すと、音量を調整することができます。
- 再生を中止するときは、〈 〉ボタンを押します。

- 画像に複数の音声メモが付加されているときは、連続して再生されます。
- 画像に付加した音声メモだけを、このカメラで消去することはできません。
- 画像を消去（p.179）すると、その画像に付加されている音声メモも消去されます。

コピーする

カード内に記録されている画像を、もう一方のカードにコピー（複製保存）することができます。

MENU 画像を1枚ずつ選んでコピーする



1 [画像コピー] を選ぶ

- ［▶̇］タブの［**画像コピー**］を選び、〈SET〉を押します。



2 [画像選択] を選ぶ

- コピー元と、コピー先の空き容量を確認します。
- 〈◎〉を回して［**画像選択**］を選び、〈SET〉を押します。



3 フォルダを選ぶ

- 〈◎〉を回してコピーしたい画像が入っているフォルダを選び、〈SET〉を押します。
- 画面右側に表示される画像を参考にして、フォルダを選びます。
- ➡ 選択したフォルダ内の画像が表示されます。

コピー元は、メニュー［**記録機能とメディア・フォルダ選択**］の［**記録・再生**］（［**再生**］）で選択されているカードです。

総指定枚数



4 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してコピーする画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画面左上に〈✓〉が付きます。
- 〈⊖〉ボタンを押すと、3 画像表示になります。〈⊕〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。
- ほかにもコピーしたい画像があるときは、手順4を繰り返します。

5 〈⊶/🎙〉ボタンを押す

- すべての画像を選び終わったら、〈⊶/🎙〉ボタンを押します。



6 ［OK］を選ぶ

- コピー先のカードを確認し、〈SET〉を押します。



7 コピー先のフォルダを選ぶ

- 〈◎〉を回して画像をコピー保存するフォルダを選び、〈SET〉を押します。
- ［**フォルダ作成**］を選ぶと、新しいフォルダを作成することができます。



8 ［OK］を選ぶ

- コピー元とコピー先の情報を確認します。
- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。



➡ コピーが始まり、コピー状況が表示されます。
コピーが終了すると、結果が表示されます。[OK] を選ぶと、手順2の画面に戻ります。

MENU フォルダ内の画像をすべてコピーする

手順2で［■ 選択］を選びます。コピーするフォルダを選んだあと、コピー先のフォルダを選びます。

MENU カード内の画像をすべてコピーする

手順2で［全画像］を選びます。コピー元のカードに記録されているすべてのフォルダと画像が、コピー先のカードにコピーされます。（フォルダ番号、ファイル名は、コピー先と同じになります。）

- オリジナルの画像と同じファイル名でコピーされます。
- ［画像選択］のときに、複数フォルダ内の画像を、同時にコピーすることはできません。フォルダごとに画像を選んでコピーしてください。
- コピー先の同一番号のフォルダに、同じ画像番号の画像が記録されているときは、［スキップしてコピー］［上書きコピー］［コピー中止］が表示されます。コピー方法を選んで〈SET〉を押します。
  - ・［スキップしてコピー］：番号が重複する画像だけコピーされません
  - ・［上書きコピー］：番号が重複する画像は、コピー画像に書き換えられます（プロテクト画像を含む）

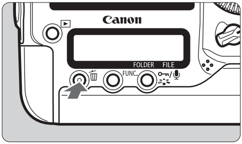
  なお、印刷指定（p.201）されている画像に対して、上書きコピーを行ったときは、再度指定しなおしてください。
- 印刷指定情報はコピーされません。
- コピー実行中は、撮影できません。［キャンセル］を選んでから、撮影してください。

🗑 消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（p.172）をかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。RAW+JPEGで撮影した画像は、両方消去されます。

1枚ずつ消去



1 消去したい画像を再生する

2 〈🗑〉ボタンを押す

➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。



3 消去する

➡ 〈◎〉を回して［**消去**］を選び、〈SET〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

MENU チェック〈✓〉を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することもできます。メニュー［**▶ 画像消去**］で［**選択して消去**］を選びます。〈SET〉で消去したい画像に〈✓〉を付けたあと、〈🗑〉ボタンを押します。

MENU フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することもできます。メニュー［**▶ 画像消去**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

プロテクトがかけられた画像も含めてすべて消去するときは、カード初期化を行います（p.50）。

再生に関する機能の設定を変更する

MENU 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターが見やすいように、明るさを調整することができます。



1 [液晶の明るさ] を選ぶ

● [¥] タブの [**液晶の明るさ**] を選び、〈SET〉を押します。



2 明るさを調整する

● グレーチャートを参考にして、〈◎〉を回して調整し、〈SET〉を押します。

● 撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（p.158）で確認することをおすすめします。
● 画像再生時に〈☼〉ボタンを押すと、手順 2 の画面が表示され、明るさを調整することができます。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を設定することができます。撮影画像を表示したままにするときは［**ホールド**］、撮影画像を表示しないようにするときは［**切**］に設定します。

1 ［撮影画像の確認時間］を選ぶ

● ［◘˙］タブの［**撮影画像の確認時間**］を選び、〈SET〉を押します。



2 時間を設定する

● 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

［**ホールド**］に設定すると、オートパワーオフの設定時間まで表示されます。

MENU 縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定



縦位置で撮影した画像は、カメラで再生するときや、パソコンの画面で見るときに、被写体が横向きで表示されないように、自動回転して見やすい向きで表示されますが、この設定を変更することができます。

1 ［縦位置画像回転表示］を選ぶ

- ［🔧］タブの［**縦位置画像回転表示**］を選び、〈SET〉を押します。



2 回転表示を設定する

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

- **する📷🖥**

  カメラで再生するときと、パソコン画面で見るときに、自動回転させたいとき

- **する🖥**

  パソコン画面で見るときだけ自動回転させたいとき

- **しない**

  自動回転させたくないとき

［**しない**］で撮影した画像は、［**する**］に設定して再生しても、自動回転表示されません。

- 撮影直後に表示される画像は自動回転表示されません。
- 動画は自動回転表示されません。
- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われないことがあります。
- パソコンの画面で自動回転しないときは、使用しているソフトウェアが回転表示に対応していません。付属ソフトウェアの使用をおすすめします。

8

撮像素子の清掃

　このカメラは、撮像素子の前面（ローパスフィルター）に付いたゴミを自動的に取り除く､セルフ クリーニング センサー ユニットを搭載しています。

　また、ダストデリートデータ（ゴミ消し情報）を画像に付加する機能により、除去しきれなかったゴミを、付属のソフトウェア（Digital Photo Professional）で、自動的に消去することができます。

撮像素子の前面に付着する汚れについて

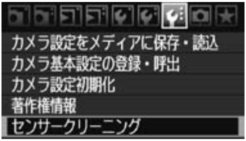
　撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。撮像素子の自動清掃後に汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

セルフ クリーニング センサー ユニットの作動中でも、シャッターボタンを半押しすると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。

撮像素子の自動清掃

このカメラは、電源スイッチを〈ON/J〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子前面に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフ クリーニング センサー ユニットが作動するようになっています。通常はこの機能を意識する必要はありませんが、任意に作動させたいときや、このユニットを作動させたくないときは、次のようにします。

任意に作動させて清掃する



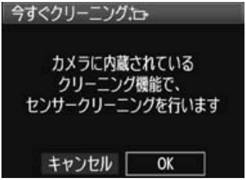
1 ［センサークリーニング］を選ぶ

- ［Ψ:］タブの［**センサークリーニング**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［今すぐクリーニング］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**今すぐクリーニング**］を選び、〈SET〉を押します。



3 ［OK］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ クリーニング中を示す画面〈 〉が表示され、清掃が行われます。清掃が終了すると、手順2の画面に戻ります。

- 清掃中は、シャッターの作動音が3回しますが、撮影は行われません。
- 効果的なゴミの除去を行うため、机の上などにカメラを置いて（底面が机に付いた状態で）清掃してください。
- 繰り返し清掃を行っても、効果は大きく変わりません。清掃終了直後は、［**今すぐクリーニング**］が一時的に選べなくなります。

自動清掃を行わないようにする

- 手順2で［**自動クリーニング**］を選び、［**しない**］を選びます。
- ➡ 電源スイッチを〈ON/J〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、清掃が行われなくなります。

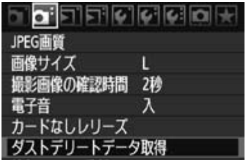
MENU ゴミ消し情報を画像に付加する

通常は、セルフ クリーニング センサー ユニットで、画像に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去することができます。しかし、除去できなかったゴミがある場合に備え、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

事前準備

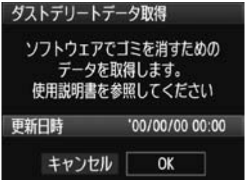
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回します。

ダストデリートデータを取得する



1 ［ダストデリートデータ取得］を選ぶ

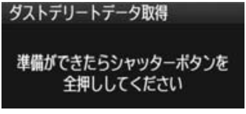
- ［📷˙］タブの［ダストデリートデータ取得］を選び、〈SET〉を押します。

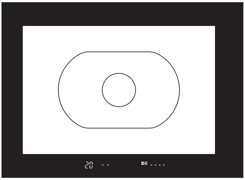


2 ［OK］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押すと、撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。途中、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

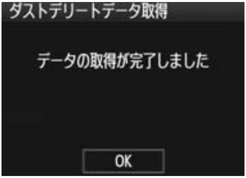






3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20～30cmの距離で、（模様などがない）真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➡ 絞り優先AE、絞り数値F22で撮影されます。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。



- ➡ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
  ［OK］を選ぶと、メニューに戻ります。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、［OK］を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

なお、付属ソフトウェアによる自動ゴミ消し処理については、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

画像に付加されるダストデリートデータの容量はごく小さなものですので、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

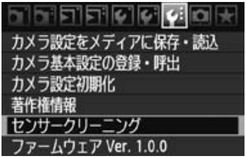
> 未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、付属ソフトウェア使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

MENU 手作業で撮像素子を清掃する

撮像素子の自動清掃で取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、自分で清掃することができます。

撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理受付窓口にお申し付けください。

清掃を始める前にレンズを取り外してください。



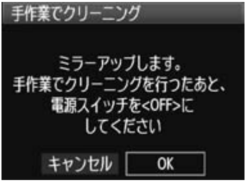
1 ［センサークリーニング］を選ぶ

- ［🔧:］タブの［**センサークリーニング**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［手作業でクリーニング］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**手作業でクリーニング**］を選び、〈SET〉を押します。



3 ［OK］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 一瞬の間をおいたあと、ミラーが上がりシャッターが開きます。
- 上面表示パネルに「**CLn**」が点滅します。



4 清掃を終了する

- 清掃が終わったら、電源スイッチを〈**OFF**〉にします。

- 電源には、ACアダプターキットACK-E4（別売）の使用をおすすめします。
- 電池を使うときは、必ずフル充電した電池を使用してください。

- **清掃中は、絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷する恐れがあります。**
  ・電源スイッチを〈OFF〉にする
  ・電池を取り出す／入れる
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

9

画像の印刷

● **印刷**（p.190）

カメラとプリンターを直接つないで、カードに記録されている画像を印刷することができます。このカメラは、ダイレクトプリント標準規格の「PictBridge」に対応しています。

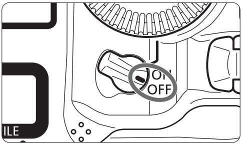
● **画像を印刷指定する／DPOF**（p.199）

カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital Print Order Format）に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

印刷の準備をする

ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、**すべてカメラ側で行います**。

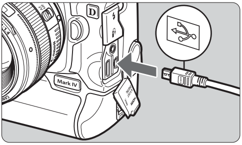
カメラとプリンターを接続する



1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

2 プリンターの準備をする

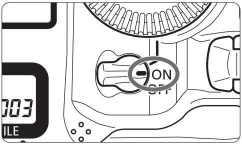
- 詳しくはプリンターの使用説明書を参照してください。



3 カメラとプリンターを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈⭠〉マークが、カメラの背面に向くようにして、〈**A/V OUT**/**DIGITAL**〉端子に差し込みます。
- プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

4 プリンターの電源を入れる



5 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

➡ プリンターの機種により、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

PictBridge



6 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターが接続されていることを示すマーク〈PictBridge〉が表示されます。

- 動画は印刷できません。
- 「CPダイレクト」または「Bubble　Jetダイレクト」のみに対応したプリンターは使用できません。
- 付属のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。
- 手順5で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、プリンターに問題が発生しています。どのような問題が発生しているかは、次の操作で確認することができます。
  1.〈▶〉ボタンを押して画像を再生する
  2.〈SET〉を押す
  3. 印刷設定画面で［**印刷**］を選ぶ
  液晶モニターにエラーメッセージが表示されます（p.198）。

- このカメラで撮影したRAW画像も印刷できます。
- カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。フル充電した電池で約6時間印刷できます。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。
- ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にACアダプターキットACK-E4（別売）の使用をおすすめします。

印刷する

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

プリンター接続表示



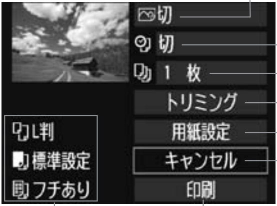
1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈〉が表示されていることを確認します。
- 〈◎〉を回して印刷する画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

➡ 印刷設定画面になります。

印刷設定画面



＊ プリンターの機種により、日付／画像番号印刷やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。

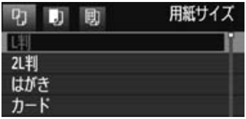


3 ［用紙設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**用紙設定**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 用紙設定画面になります。

用紙サイズの設定



- 〈◎〉を回してプリンターにセットされている用紙のサイズを選び、〈SET〉を押します。
- ⇒ 用紙タイプの設定画面になります。

用紙タイプの設定



- 〈◎〉を回してプリンターにセットされている用紙のタイプを選び、〈SET〉を押します。
- キヤノン製プリンターで、純正用紙を使うときは、プリンターの使用説明書で使用できる用紙を確認してください。
- ⇒ レイアウトの設定画面になります。

レイアウトの設定



- 〈◎〉を回して印刷レイアウトを選び、〈SET〉を押します。
- ⇒ 印刷設定画面に戻ります。

項目	印刷内容
フチあり	用紙の周りに余白を付けて印刷します。
フチなし	余白なしで用紙いっぱいに印刷します。「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」で印刷されます。
フチあり i	Lサイズ以上の用紙の余白に撮影情報*を印刷します。
xx面配置	用紙1枚に画像を小さく、2/4/8/9/16/20画面印刷します。
20面配置 i **35面配置 □**	DPOF（p.199）で印刷指定した画像を20画像、または35画像単位で、A4サイズの用紙に縮小印刷します。 ・［**20面配置 i**］では、撮影情報*を印刷します。
標準設定	プリンターの機種や設定により、印刷レイアウトが異なります。

* Exif 情報の中から、カメラ名、レンズ名、撮影モード、シャッター速度、絞り数値、露出補正量、ISO感度、ホワイトバランスなどを印刷します。



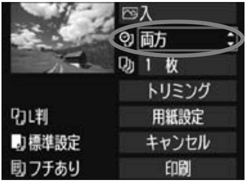
4 印刷効果を設定する

- 必要に応じて設定します。設定しないときは、手順5に進みます。
- 〈◎〉を回して画面右上の項目を選び、〈SET〉を押します。
- 〈INFO.〉の横に〈☰〉が表示されているときは、印刷効果の調整を行うこともできます（p.196）。
- 〈◎〉を回して印刷効果を選び、〈SET〉を押します。

項目	印刷内容
入	プリンターの標準色で印刷されます。画像のExif情報を活用して、自動的に補正が行われます。
切	印刷特性は「入」と同じです。自動補正は行われません。
VIVID	海や空の青、植物の緑などが、いっそう色鮮やかに印刷されます。
NR	画像のノイズ低減処理が行われて印刷されます。
B/W 白黒	純黒調の白黒で印刷されます。
B/W 冷黒調	クールな印象の青っぽい（冷黒調）白黒で印刷されます。
B/W 温黒調	温かい印象の黄色っぽい（温黒調）白黒で印刷されます。
ナチュラル	画像本来の色やコントラストを活かした印刷が行われます。自動色調整は行われません。
ナチュラルM	印刷特性は「ナチュラル」と同じです。「ナチュラル」よりも細かい印刷調整を行うことができます。
標準設定	プリンターの機種により、印刷内容が異なります。プリンターの使用説明書を参照してください。

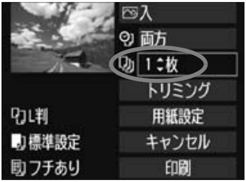
*** 表示される内容は、プリンターの機種により異なります。**

*** 印刷効果の設定を変更すると、画面左上に表示されている画像に設定内容が反映されます。ただし、実際の印刷結果とは多少異なる場合があるため、目安としてとらえてください。196ページの［明るさ補正］と［レベル補正］も同様です。**



5 日付／画像番号印刷を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◎〉を回して〈◎〉を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して印刷内容を選び、〈SET〉を押します。



6 印刷枚数を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◎〉を回して〈◎〉を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して印刷枚数を選び、〈SET〉を押します。



7 印刷する

- 〈◎〉を回して［**印刷**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 印刷が開始されます。

- トリミングについては、197ページを参照してください。
- 印刷効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。［**標準設定**］の内容については、プリンターの使用説明書を参照してください。
- ISO感度をH2,H3に拡張して撮影した画像を、撮影情報 i （p.193）で印刷すると、ISO感度が適切な値で印刷されないことがあります。
- 印刷する画像のファイルサイズや画像サイズにより、［**印刷**］を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 画像の傾き補正（p.197）を行うと、印刷に時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押して［**OK**］を選びます。
- メニュー［**カメラ設定初期化**］（p.53）を行うと、設定した内容がすべて初期状態に戻ります。

印刷効果の調整について



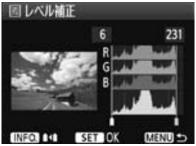


194 ページの手順 4 で項目を選び、〈INFO.〉の横に〈〉が表示されているときに、〈INFO.〉ボタンを押すと、印刷効果の調整を行うことができます。調整できる（表示される）内容は、手順4の選択内容により異なります。

● **明るさ補正**

画像の明るさを調整することができます。

● **レベル補正**



［**手動**］を選ぶと、ヒストグラムの分布を変更して、画像の明るさとコントラストを調整することができます。

レベル補正画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、〈〉の位置が切り換わります。〈〉を回すと、シャドウレベル（0〜127）、ハイライトレベル（128〜255）を任意に調整することができます。

● **明るく補正**

逆光などで被写体の顔が暗くなった画像で効果的です。［**入**］に設定すると、顔が明るく印刷されます。

● **赤目補正**

ストロボ撮影で被写体の目が赤くなった（赤目現象が発生した）画像で効果的です。［**入**］に設定すると、目の赤みが緩和されて印刷されます。

- ［**明るく補正**］［**赤目補正**］の効果は、画面で確認できません。
- ［**詳細設定**］を選ぶと、［**コントラスト**］［**色の濃さ**］［**色あい**］［**カラーバランス**］を調整することができます。なお、［**カラーバランス**］の調整は、〈〉で行います。「B」はブルー、「A」はアンバー、「M」はマゼンタ、「G」はグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- ［**初期化**］を選ぶと、設定した印刷効果の内容がすべて初期状態に戻ります。

トリミング（印刷範囲）の設定

傾き補正



　画像を部分的に拡大したり、構図を変えたような感じで印刷することができます。**トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。**トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で［トリミング］を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

- 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、［**用紙設定**］の設定で変わります。

枠の大きさを変える

　〈⊕〉〈⊖〉ボタンを押すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大して印刷されます。

枠を移動する

　〈✥〉を操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

枠を回転する

　〈INFO.〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したように印刷することもできます。

画像の傾きを補正する

　〈◎〉を回すと、0.5度単位±10度の範囲で画像を回転させることができます。回転を行うと、画面上の〈◇〉が青色に変わります。

3 〈SET〉を押してトリミングを終了する

➡ 印刷設定画面に戻ります。

- 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認することができます。

- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど印刷の画質が粗くなります。
- トリミングは、液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示しながらトリミングを行うと、枠が正しく表示されないことがあります。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、［**続行**］を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作して印刷を再開してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈SET〉を押して印刷を中止し、問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

用紙が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー

インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー

用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー

選択した画像はPictBridgeで印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

画像を印刷指定する／DPOF

印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する



1 ［印刷指定］を選ぶ

- ［▶］タブの［**印刷指定**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**設定**］を選び、〈SET〉を押します。

3 項目の内容を設定する

- ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。
- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。

［**印刷タイプ**］



［**日付**］



［**画像番号**］



項目	印刷内容		
印刷タイプ	●	スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
	●	インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
	● ●	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入	[入] にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。	
	切		
画像番号	入	[入] にすると、画像番号を付けて印刷します。	
	切		

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。
- 次に印刷指定画面の [**画像選択**] [**■指定**] [**全画像**] で、印刷する画像を指定します。

- [**日付**] [**画像番号**] を [**入**] にしても、印刷タイプの設定や、プリンターの機種により、印刷されないことがあります。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOF に対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

- RAW画像と動画は、印刷指定できません。
- [**インデックス**] に設定したときは、[**日付**] と [**画像番号**] を同時に [**入**] にできません。

印刷する画像を指定する

● 画像選択



画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈⊖〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈⊕〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

指定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。



[スタンダード] [両方]

〈(SET)〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈◎〉を回すと、その画像の枚数指定を最大99枚にすることができます。



[インデックス]

〈(SET)〉を押すと、表示されている画像がインデックス印刷用の画像として指定され、画面左上に〈✓〉が付きます。

● ■指定

指定を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、解除を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● 全画像

指定を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、解除を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

- ■指定／全画像指定を行っても、RAW画像と動画は、印刷指定されません。
- PictBridgeで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を、400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

印刷指定画像のダイレクトプリント



印刷指定した画像を、PictBridge対応のプリンターで簡単に印刷することができます。

1 印刷の準備をする

- 190ページを参照してください。
  『カメラとプリンターを接続する』の手順5まで行います。

2 [▶'] タブの [印刷指定] を選ぶ

3 [印刷] を選ぶ

- [**印刷**] は、カメラとプリンターが接続され、印刷できる状態になっていないと表示されません。

4 [用紙設定] の内容を設定する（p.192）

- 印刷効果（p.194）は必要に応じて設定します。

5 [OK] を選ぶ

- 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
- プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
- [**フチあり**] にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
- 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。

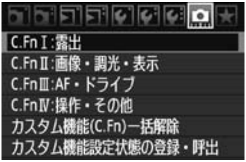
- [**レベル補正**] の [**手動**] は選択できません。
- 印刷を中止したあとに、残りの画像を印刷するときは、[**再開**] を選びます。ただし次のときは、印刷の再開はできません。
  - ・再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき
  - ・インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき
  - ・印刷を中断したときに、カードの空き容量が少なかったとき
- 印刷中に問題が発生したときは、198ページを参照してください。

10

カメラをカスタマイズする

撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更したり、カメラの設定をカードに保存したり、カメラに登録することができます。

MENU カスタム機能の設定方法

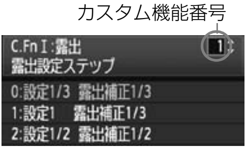


1 ［📷］を選ぶ

● 〈ダイヤル〉を回して［📷］を選びます。

2 グループを選ぶ

● 〈◎〉を回してC.Fn I～IVのいずれかを選び、〈SET〉を押します。



3 カスタム機能番号を選ぶ

● 〈◎〉を回して設定する機能番号を選び、〈SET〉を押します。



4 設定を変更する

● 〈◎〉を回して設定内容（番号）を選び、〈SET〉を押します。
● 手順2～4を繰り返して、そのほかのカスタム機能を設定します。
● 画面の下に並んでいる番号で、設定状態を確認することができます。

5 設定を終了する

● 〈MENU〉ボタンを押します。
➡ 手順2の画面に戻ります。

カスタム機能の設定解除

手順2で［**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

> カスタム機能の一括解除を行っても、［**📷C.Fn IV -12：フォーカシングスクリーン**］の設定は保持されます。なお、［**📷C.Fn I -16：AEマイクロアジャストメント**］［**📷C.Fn I -17：FEマイクロアジャストメント**］［**📷C.Fn III -7：AFマイクロアジャストメント**］は、登録した内容は保持されますが、設定は［**0：しない**］になります。

MENU カスタム機能一覧

C.Fn I：露出

<table>
<tr><th></th><th></th><th></th><th>LV撮影</th><th>動画撮影</th></tr>
<tr><td>1</td><td>露出設定ステップ</td><td rowspan="3">p.208</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>2</td><td>ISO感度設定ステップ</td><td>○</td><td>動画M時</td></tr>
<tr><td>3</td><td>ISO感度の制御範囲の設定</td><td>○</td><td>動画M時</td></tr>
<tr><td>4</td><td>ブラケティング自動解除</td><td rowspan="3">p.209</td><td>○</td><td rowspan="3">（静止画：WB-BKT時）</td></tr>
<tr><td>5</td><td>ブラケティング順序</td><td>○</td></tr>
<tr><td>6</td><td>ブラケティング時の撮影枚数</td><td>○</td></tr>
<tr><td>7</td><td>測距点連動スポット測光</td><td rowspan="3">p.210</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>8</td><td>セイフティシフト</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td>撮影モードの限定</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>10</td><td>測光モードの限定</td><td rowspan="4">p.211</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>11</td><td>マニュアル露出時の測光モード</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>12</td><td>シャッター速度の制御範囲の設定</td><td>○</td><td>動画M時</td></tr>
<tr><td>13</td><td>絞り数値の制御範囲の設定</td><td>○</td><td>動画M時</td></tr>
<tr><td>14</td><td>撮影・測光モードの呼出</td><td rowspan="2">p.212</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>15</td><td>Avモード時のストロボ同調速度</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>16</td><td>AEマイクロアジャストメント</td><td rowspan="2">p.213</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>17</td><td>FEマイクロアジャストメント</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

- □が付いたカスタム機能は、ライブビュー（LV）撮影時、または動画撮影時には機能しません（設定が無効になります）。
- 動画撮影時にAFモードが［**クイックモード**］（AFQuick）に設定されていても、動画撮影中は［**ライブモード**］（AFLive）に切り換わります。そのため、「AFQuick時」と記載されている項目は、動画撮影中は機能しません（動画撮影開始前のみ機能）。

C.Fn II：画像・調光・表示

<table>
<tr><th></th><th></th><th></th><th>LV撮影</th><th>動画撮影</th></tr>
<tr><td>1</td><td>長秒時露光のノイズ低減</td><td rowspan="2">p.214</td><td>○</td><td>（静止画）</td></tr>
<tr><td>2</td><td>高感度撮影時のノイズ低減</td><td>○</td><td>（静止画）</td></tr>
<tr><td>3</td><td>高輝度側・階調優先</td><td rowspan="3">p.215</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>4</td><td>オートライティングオプティマイザ</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>5</td><td>E-TTL II 調光方式</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td>ストロボのシンクロタイミング</td><td rowspan="3">p.216</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td>ストロボの発光</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td>露光中のファインダー内表示</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>9</td><td>バルブ撮影中の表示パネル照明</td><td rowspan="2">p.217</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td>撮影時のINFOボタン</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

C.Fn III：AF・ドライブ

<table>
<tr><th></th><th></th><th></th><th>LV撮影</th><th>動画撮影</th></tr>
<tr><td>1</td><td>USMレンズの電子式手動フォーカス</td><td rowspan="3">p.218</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>2</td><td>AIサーボ時の被写体追従敏感度</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>3</td><td>AIサーボ1コマ目/2コマ目以降動作</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>4</td><td>AIサーボ時の測距点選択特性</td><td rowspan="2">p.219</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>5</td><td>AF測距不能時のレンズ動作</td><td colspan="2">AFQuick時</td></tr>
<tr><td>6</td><td>レンズ・AFストップボタンの機能</td><td>p.220</td><td colspan="2">4以外（一部AFQuick時）</td></tr>
<tr><td>7</td><td>AFマイクロアジャストメント</td><td>p.221</td><td colspan="2">AFQuick時</td></tr>
<tr><td>8</td><td>任意選択時のAFフレーム領域拡大</td><td>p.222</td><td colspan="2">AFQuick時</td></tr>
<tr><td>9</td><td>測光中のマルチコントローラー</td><td rowspan="2">p.223</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>10</td><td>任意選択可能なAFフレーム</td><td colspan="2">AFQuick時</td></tr>
<tr><td>11</td><td>登録AFフレームへの切り換え</td><td rowspan="2">p.224</td><td colspan="2">2＋AFQuick時</td></tr>
<tr><td>12</td><td>AFフレーム自動選択の選択可否</td><td colspan="2">AFQuick時</td></tr>
</table>

13	測距時のAFフレーム表示	p.225	AFQuick時	
14	AFフレーム点灯輝度		AFQuick時	
15	AF補助光の投光		AFQuick時	
16	縦位置/横位置のAFフレーム設定	p.226	AFQuick時	
17	ミラーアップ撮影			
18	連続撮影速度		○	
19	連続撮影時の撮影枚数制限	p.227	○	

C.Fn IV：操作・その他

			LV撮影	動画撮影
1	シャッター /AF-ONボタン	p.227	○	
2	AF-ON/AEロックボタン入替		○	
3	測光タイマー中のサブ電子ダイヤル	p.228	1,3は AFQuick 時 動画+2,4は動画M時	
4	SETボタンの機能	p.229		
5	マニュアル露出時Tv、Av値設定		○（M時）	
6	Tv/Av値設定時のダイヤル回転	p.230	○	動画M時
7	レンズ未装着時の絞り数値設定		○	動画M時
8	WB/メディア・画像サイズの設定			
9	⊶/🎤ボタンの機能	p.231		
10	〈OFF〉時のボタン操作		○	
11	動画撮影の開始	p.232		○
12	フォーカシングスクリーン			
13	各種タイマー保持時間	p.233	［**レリーズ後タイマー**］のみ	
14	レリーズタイムラグ最速化			
15	アスペクト比情報の付加	p.234	○	（静止画）
16	オリジナル画像判定用データの付加		○	（静止画）

MENU カスタム機能で変更できる内容

カスタム機能は、機能ごとに4つのグループ（「C.Fn I：露出」、「C.Fn II：画像・調光・表示」、「C.Fn III：AF・ドライブ」、「C.Fn IV：操作・その他」）に分類されています。

項目により、EOS-1D Mark IIIのカスタム機能番号と異なる場合がありますので、注意してください。

C.Fn I：露出

C.Fn I -1　露出設定ステップ

0：設定1/3　露出補正1/3

1：設定1　露出補正1/3

シャッター速度と絞り数値の設定ステップを、1段ステップにすることができます。

2：設定1/2　露出補正1/2

シャッター速度と絞り数値、および露出補正の設定ステップを1/2段ステップにすることができます。

2に設定したときは、ファインダー内と上面表示パネルの露出レベル表示が、1/2段設定時に「■」→「■■」になります。

C.Fn I -2　ISO感度設定ステップ

0：1/3段　　**1：1段**

C.Fn I -3　ISO感度の制御範囲の設定

しない： 100～12800の範囲でISO感度を設定することができます。

する： ［**登録**］で設定した、上限値から下限値の範囲で、ISO 感度を設定することができます。

登録： ISO感度の上限値を100～H3（102400相当）、下限値をL（50相当）～H2（51200相当）の範囲で、それぞれ設定することができます。設定が終了したら［**適用**］を選びます。

- 他のEOSカメラの「ISO感度拡張」機能と同じようにしたいときは、上限値を［H1］［H2］［H3］、下限値を［L］に設定します。
- C.Fn I -3で下限値をLに設定しても、動画マニュアル露出撮影時にL（ISO50）は選択できません。

C.Fn I -4　ブラケティング自動解除

0：する

電源スイッチ〈OFF〉、カメラ設定初期化を行うと、AEB、WB-BKTの設定が解除されます。また、バルブ設定、ストロボ充電（完了）でAEBの設定が解除されます。

1：しない

電源スイッチ〈OFF〉を行っても、AEB、WB-BKTの設定が解除されないようになります（ストロボ充電完了でAEBは一旦解除されますが、設定したAEBレベルは記憶されています）。

C.Fn I -5　ブラケティング順序

AEBの撮影順序と、ホワイトバランスブラケティング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

0：0→－→＋

1：－→0→＋

2：＋→0→－

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 ：標準露出	0 ：基準ホワイトバランス	0 ：基準ホワイトバランス
－：マイナス補正	－：ブルー寄りに補正	－：マゼンタ寄りに補正
＋：プラス補正	＋：アンバー寄りに補正	＋：グリーン寄りに補正

C.Fn I -6　ブラケティング時の撮影枚数

AEB、およびホワイトバランスブラケティング時の撮影枚数を通常の3枚から、2枚/5枚/7枚に変更することができます。C.Fn I -5-0設定時は、下表のように撮影されます。

0：3枚

1：2枚

2：5枚

3：7枚

（1段ステップ設定時）

	1枚目	2枚目	3枚目	4枚目	5枚目	6枚目	7枚目
0：3枚	標準（0）	－1	＋1				
1：2枚	標準（0）	－1					
2：5枚	標準（0）	－2	－1	＋1	＋2		
3：7枚	標準（0）	－3	－2	－1	＋1	＋2	＋3

C.Fn I -7　測距点連動スポット測光

0：しない（中央固定）

1：する（測距点連動）

　［**C.Fn III -10：任意選択可能なAFフレーム**］（p.223）が、［**1：19点**］［**2：11点**］［**3：9点（内側）**］［**4：9点（外側）**］に設定されているときは、任意選択AFフレームに連動したスポット測光になります。AFフレーム自動選択のときは、ファインダー中央部でのスポット測光になります。

C.Fn III -10が、［**0：45点**］に設定されているときは、C.Fn I -7を［**1：する（測距点連動）**］に設定しても、ファインダー中央部でのスポット測光になります。

C.Fn I -8　セイフティシフト

0：しない

1：する（Tv/Av値）

　シャッター優先AE（**Tv**）、絞り優先AE（**Av**）時に機能します。被写体の明るさが急に変化して、適切な自動露出値が得られない場合、設定値をカメラが自動的に変更して、適正露出で撮影することができます。

2：する（ISO感度）

　プログラムAE（**P**）、シャッター優先AE（**Tv**）、絞り優先AE（**Av**）時に機能します。被写体の明るさが急に変化して、適切な（自動）露出値が得られない場合、ISO感度が自動的に変化して、適正露出で撮影することができます。

- C.Fn I -3,12,13で制御範囲が初期状態から変更されていても、適切な露出が得られない場合は、セイフティシフトが優先されます。
- 1, 2設定時は、ストロボ撮影時も状況に応じてセイフティシフトします。

C.Fn I -9　撮影モードの限定

しない：すべての撮影モード（**M**、**Tv**、**Av**、**P**、**BULB**）が選択できます。

する：［**登録**］で設定した、撮影モードのみ選択できます。

登録：使用しない撮影モードは〈✓〉を外します。設定が終了したら［**適用**］を選びます。

C.Fn I -10　測光モードの限定

しない： すべての測光モード（評価測光アイコン：評価測光、部分測光アイコン：部分測光、スポット測光アイコン：スポット測光、中央部重点平均測光アイコン：中央部重点平均測光）が選択できます。

する： ［**登録**］で設定した測光モードのみ選択できます。

登録： 使用しない測光モードは〈✓〉を外します。設定が終了したら［**適用**］を選びます。

C.Fn I -11　マニュアル露出時の測光モード

マニュアル露出撮影時に使用する測光モードを設定することができます。

0： 設定測光モード
1： 評価測光
2： 部分測光
3：スポット測光
4：中央部重点平均測光

1～4設定時は、撮影時に〈測光モード・調光補正ボタン〉ボタンを押して、測光モードを変更することはできません。

C.Fn I -12　シャッター速度の制御範囲の設定

しない： 1/8000～30秒の範囲でシャッター速度を設定することができます。

する： ［**登録**］で設定した、高速側から低速側までの範囲で、シャッター速度を設定することができます。

登録： 高速側のシャッター速度を1/8000～15秒、低速側のシャッター速度を30秒～1/4000秒の範囲で、それぞれ設定することができます。設定が終了したら［**適用**］を選びます。

C.Fn I -13　絞り数値の制御範囲の設定

しない： カメラに装着しているレンズの絞り開放から、最小絞りまで設定することができます。

する： ［**登録**］で設定した、小絞り側から開放側までの範囲で、絞り数値を設定することができます。

登録： 小絞り側の絞り数値をF91～F1.4、開放側の絞り数値をF1.0～F64の範囲で、それぞれ設定することができます。設定が終了したら［**適用**］を選びます。

C.Fn I -14　撮影・測光モードの呼出

〈✱〉（AEロック）ボタンを押している間だけ、登録した設定（撮影モード、測光モード、シャッター速度、絞り数値、露出補正量）に切り換えて撮影することができます。

しない：〈✱〉ボタンを押すと、露出が固定（AEロック）されます。

する：〈✱〉ボタンを押すと、カメラの設定が瞬時に登録した内容に切り換わります。

登録：あらかじめ登録したい撮影モード、測光モード、シャッター速度、絞り数値、露出補正量をカメラに設定しておきます。

［**登録**］を選ぶと、［**AEロックボタンで呼出時AFする/AFしない**］が表示され、〈✱〉ボタンを押したときのAFの作動の有無を設定することができます。［**AFする/AFしない**］を選ぶと、カメラに登録されます。

撮影モードがバルブ撮影に設定されているときは、登録できません。

C.Fn I -15　Avモード時のストロボ同調速度

絞り優先AE（**Av**）モードでストロボ撮影を行ったときのストロボ同調速度を設定することができます。

0：自動

明るさに応じてシャッター速度が1/300～30秒の範囲で自動設定されます。ハイスピードシンクロを行うこともできます。

1：1/300-1/60秒自動

暗い場所でシャッター速度が自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により適正露出になりますが、被写体の背景は暗くなることがあります。

2：1/300秒固定

シャッター速度が1/300秒に固定されるため、1よりも被写体ブレや手ブレを防止することができます。ただし、暗い場所では1よりも被写体の背景が暗くなります。

1, 2設定時は、外部ストロボ使用時に、ハイスピードシンクロはできません。

C.Fn I -16　AEマイクロアジャストメント

通常はこの機能で調整を行う必要はありません。必要な場合のみ調整を行ってください。調整により適切な露出で撮影ができなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。

カメラの露出基準を微調整することができます。「標準露出」で撮影した画像が、いつも露出アンダー、または露出オーバーと感じるときに有効です。

1を選び〈INFO.〉ボタンを押すと、調整画面になります。

0：しない

1：する

1/8段ステップ±1段の範囲で調整することができます。撮影画像がアンダー傾向にある場合は＋側に、オーバー傾向にある場合は－側に調整します。



C.Fn I -17　FEマイクロアジャストメント

通常はこの機能で調整を行う必要はありません。必要な場合のみ調整を行ってください。調整により適切な露出でストロボ撮影ができなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。

ストロボ撮影時の調光露出の基準を微調整することができます。調光補正を行わずに「標準的なストロボ露出」で撮影した際に、主被写体がいつも露出アンダー、または露出オーバーと感じるときに有効です。

1を選び〈INFO.〉ボタンを押すと、調整画面になります。

0：しない

1：する

1/8段ステップ±1段の範囲で調整することができます。主被写体がアンダー傾向にある場合は＋側に、オーバー傾向にある場合は－側に調整します。



C.Fn II：画像・調光・表示

C.Fn II -1　長秒時露光のノイズ低減

0：しない

1：自動

露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常は、この［**自動**］で十分な効果が得られます。

2：する

露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、常に低減処理が行われます。［**自動**］で検出できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

- 1，2設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要になることがあります。なお、低減処理中でも、ファインダー内の連続撮影可能枚数が「**1**」以上のときは、続けて撮影することができます。
- ISO1600以上の高感度で撮影すると、0、1設定時よりも2設定時の方が画像のザラつきが多くなる場合があります。
- 2設定時、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、「**BUSY**」が表示され、処理が終了するまでライブビュー表示は行われません（次の撮影はできません）。

C.Fn II -2　高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減します。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。ノイズの程度に応じて設定を変更します。

0：標準

1：弱め

2：強め

3：しない

- 2設定時は、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります。
- 動画撮影時は機能しません。ただし、動画撮影中に撮影した静止画には、設定した内容でノイズ低減処理が行われます。
- RAW画像、またはRAW+JPEG画像をカメラで再生したり、ダイレクトプリントを行うと、高感度撮影時のノイズ低減効果が小さくなる場合があります。ノイズ低減効果の確認と、ノイズ低減画像の印刷は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行ってください。

C.Fn II -3　高輝度側・階調優先

0：しない

1：する

　高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。

1設定時は、通常撮影時よりノイズが若干増えることがあります。

1設定時は、ISO感度の設定範囲がISO200～12800になります。
また、上面表示パネルとファインダー内には、〈**D+**〉が表示されます。

C.Fn II -4　オートライティングオプティマイザ

　撮影結果が暗い場合や、コントラストが低い場合に、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。
　オートライティングオプティマイザ機能については、81ページを参照してください。

0：標準　　**2：強め**

1：弱め　　**3：しない**

C.Fn II -5　E-TTL II 調光方式

0：評価調光

　暗い場所から日中シンクロまでのストロボ撮影を、全自動で行うことができます。

1：平均調光

　測光領域全体を平均的に測光します。自動補正は行われませんので、状況に応じてストロボ調光補正を行ってください。また、FEロックを行ったときも状況に応じてストロボ調光補正を行ってください。

C.Fn II -6　ストロボのシンクロタイミング

0： 先幕シンクロ

1： 後幕シンクロ

　撮影終了直前にストロボが発光します。遅いシャッター速度と組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡を自然な感じで写すことができます。

　同調（シンクロ）タイミング切り換え機能がないEXスピードライトで、後幕シンクロができるようになります（270EXを除く）。

- シンクロタイミング切り換え機能を持つEXスピードライト使用時は、C.Fn II -6の設定は機能しません。ストロボ機能設定画面（p.122）、またはストロボ側で直接設定してください。
- 270EX使用時は、ストロボ機能設定画面でシンクロタイミングを設定することができます。
- 1に設定したときは、シャッターボタンを全押ししたときと、撮影終了直前の計2回、ストロボが発光するため、注意してください。
- 後幕シンクロで撮影するときは、シャッター速度を1/50秒以下の遅い速度に設定してください。1/60秒以上の速い速度のときは、1に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

C.Fn II -7　ストロボの発光

　外部ストロボ、およびシンクロ端子を利用した汎用ストロボの発光を行うかどうかを設定することができます。

0： する

1： しない

　外部ストロボのAF補助光だけを利用したいときに有効です。ただしAF補助光の投光については、C.Fn III -15の設定によります。

C.Fn II -8　露光中のファインダー内表示

0： しない

1： する

　露光中もファインダー内に情報が表示されます。露出や撮影可能枚数などを確認しながら連続撮影したいときなどに有効です。

撮影モードがバルブ撮影のときは、1に設定しても機能しません。

C.Fn II -9　バルブ撮影中の表示パネル照明

0： 消灯

1： 継続して点灯

表示パネル照明（p.116）が点灯した状態でバルブ撮影を行うと、撮影終了まで照明が継続されます。暗い場所などで露光時間を確認しながらバルブ撮影したいときに有効です。

C.Fn II -10　撮影時のINFO.ボタン

撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押したときに、液晶モニターに表示する情報を変更することができます。

0： 撮影機能の設定状態を表示（p.23）



上面表示パネルや、ファインダー内表示に相当する、撮影に関連する情報が表示されます。

なお、撮影機能の設定状態が表示されているときに、〈MODE〉〈AF•DRIVE〉〈◎•☒〉〈☒〉〈ISO〉〈☒〉〈☷〉ボタンを押すと、ボタンに応じた機能の画面が表示され、画面を見ながら〈☼〉または〈◎〉で設定を変更することができます。



1： カメラ設定内容を表示（p.246）

カメラに設定されている機能の状態が表示されます。

C.Fn III：AF・ドライブ

C.Fn III -1　USMレンズの電子式手動フォーカス

以下のレンズを使用したときに、USM電子式手動フォーカスを行うかどうかを設定することができます。

EF50mm F1.0 L USM、EF85mm F1.2L USM、
EF85mm F1.2L II USM、EF200mm F1.8L USM、
EF300mm F2.8L USM、EF400mm F2.8L USM、
EF400mm F2.8L II USM、EF500mm F4.5L USM、
EF600mm F4L USM、EF1200mm F5.6L USM、
EF28-80mm F2.8-4L USM

0：ワンショットAF作動後・可

ワンショットAF合焦後：可能／C.Fn IV -1-2, 3設定時：合焦前も可能

1：ワンショットAF作動後・不可

ワンショットAF合焦後：不可／C.Fn IV -1-2, 3設定時：合焦前に可能

2：AF時すべて不可

AFモードでの電子式手動フォーカスを禁止します。

C.Fn III -2　AIサーボ時の被写体追従敏感度

AIサーボAF時の測距中に、AFフレームを横切る被写体（障害物）に対するAF敏感度を、5段階で設定することができます。

［**遅い**］の方向に設定すると、障害物の影響が少なくなります。狙っている被写体にピントを合わせ続けたいときに有効です。

［**速い**］の方向に設定すると、横切った被写体にピントが合いやすくなります。ランダムな距離にある複数の被写体をつぎつぎに撮影するときに有効です。

C.Fn III -3　AIサーボ1コマ目/2コマ目以降動作

AIサーボAF＋連続撮影時における、サーボの作動特性とレリーズタイミングの関係を変更することができます。

0：ピント優先/被写体追従優先

1枚目は、被写体に対するピント合わせが優先されます。連続撮影中（2枚目以降）は、被写体へのピントの追従を優先した撮影になります。

1：ピント優先/撮影速度優先

1枚目は、被写体に対するピント合わせが優先されます。連続撮影中は、（被写体へのピントの追従よりも）連続撮影速度を優先した撮影になります。

2：レリーズ優先/撮影速度最優先

1枚目は、（被写体に対するピント合わせよりも）レリーズが優先されます。連続撮影中は1よりもさらに連続撮影速度を優先した撮影になります。

3：レリーズ優先/被写体追従優先

1枚目は、（被写体に対するピント合わせよりも）レリーズが優先されます。連続撮影中（2枚目以降）は、被写体へのピントの追従を優先した撮影になります。

C.Fn III -4　AIサーボ時の測距点選択特性

AIサーボAF時の被写体捕捉中、測距中心に、より撮影距離の近い（手前に）被写体が入ったときに、その被写体にピントを合わせるか、障害物として無視するかを設定することができます。

* 測距中心＝AFフレーム自動選択時：中央測距点
任意選択＋AFフレーム領域拡大（C.Fn III -8-1,2,3）時：任意選択点

0：測距中心優先

測距点が測距中心へ乗り移り、手前に入った被写体にピント合わせが行われます。撮影したい被写体が、一番手前にあるシーンで有効です。

1：測距連続性優先

手前に入った被写体を障害物として無視します。測距中心にこだわらず、直前の測距結果から被写体移動の連続性を判断して、測距点の乗り移りが行われます。撮影したい被写体の手前を、柵や電柱などがさえぎるようなシーンで有効です。

C.Fn III -5　AF測距不能時のレンズ動作

AFを行って合焦できないときに、続けてAF動作を行うかどうかを設定することができます。

0：サーチ駆動する

1：駆動しない

再測距を行って大ボケ状態になることを防止することができます。特に大ボケ状態になりやすい、超望遠レンズ使用時に有効です。

C.Fn III -6 レンズ・AFストップボタンの機能
*AFストップボタンは、手ブレ補正機能付き超望遠レンズに装備されています。

0：AF停止

1：AF開始

押している間だけAFが作動します。押している間は、カメラ側を操作してもAFは作動しません。

2：AEロック

押すとAEロックします。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。

3：測距点 任意→自動/自動→中央

AFフレーム任意選択時に押すと、押している間だけ45点でのAFフレーム自動選択になります。任意選択から自動選択へ瞬時に切り換わるので、AIサーボAF作動中に、任意選択したAFフレームで被写体に追従できなくなったときに有効です。

AFフレーム自動選択時に押すと、押している間だけ中央のAFフレームが選択されます。

4：ワンショット⇄AIサーボ

ワンショットAF時に押すと、押している間だけAIサーボAFになり、AIサーボAF時に押すと、押している間だけワンショットAFになります。

移動･停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。

5：手ブレ補正機能作動

レンズの手ブレ補正機能スイッチが〈**ON**〉のときに、AFストップボタンを押すと、手ブレ補正機能が作動します。シャッターボタンを半押ししても、手ブレ補正機能は作動しません。

6：登録AFフレームへの切り換え

AFストップボタンを押しながら〈FEL〉ボタンを押すと、登録されているAFフレームに切り換わります。もう一度押すと、元のAFフレームに切り換わります。AFフレームの登録方法については、224ページを参照してください。

7：スポットAF

測距ラインセンサーの使用範囲が狭くなり、より狭い部分にピントを合わせることができます。AFモード、AFフレーム選択方法を問わず機能しますが、とくにAFフレーム任意選択時に有効な機能です。ただし、動きのある被写体に対しては、AFフレームを被写体に合わせ続けることが難しいため、ピントが合いにくいことがあります。なお、スポットAF時は、AFフレームが通常よりも明るい状態で点滅します。

C.Fn III -7　AFマイクロアジャストメント

通常はこの機能で調整を行う必要はありません。必要な場合のみ調整を行ってください。なお、調整により、適切なピントで撮影できなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。



AFによるピント合焦位置を微調整することができます。調整範囲は、±20ステップ（－：前方向／＋：後方向）です。

1ステップあたりの調整幅は、使用するレンズの開放FNo.によって異なります。**「調整→撮影→確認」を繰り返してピント調整を行ってください。**

1または2を選び〈INFO.〉ボタンを押すと、登録画面になります。

〈削除〉ボタンを押すと、登録した内容を一括解除することができます。

0：しない

1：全レンズ一律調整

使用するレンズにかかわらず、常に設定量分シフトして合焦します。



2：レンズごとに調整

レンズの種類（銘柄）ごとに調整を行い、カメラに最大20本まで登録することができます。登録されたレンズを使用すると、設定量分シフトして合焦します。

すでに20本登録されているときは、上書き消去するレンズを選びます。



- 「調整→撮影→確認」を行うときは、画像サイズ：JPEG L（ラージ）、JPEG画質（圧縮率）：8以上で撮影することをおすすめします。
- 実際に撮影する環境下で調整を行うことをおすすめします。より適確なピント調整を行うことができます。
- 2設定時に、エクステンダーを使用しているときは、「レンズ＋エクステンダー」の組み合わせで登録されます。
- ライブビュー撮影時のライブモード、顔ライブモードのAF調整はできません。

C.Fn III -8　任意選択時のAFフレーム領域拡大

AFフレーム任意選択時に、隣接する測距点を使用して、測距点数を増やしてAF撮影を行うことができます。ワンショットAF、AIサーボAFの両方のモードで機能します。

任意の1点では被写体を追従することが難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。任意選択したAFフレームでピント合わせができないときに、領域拡大したAFフレームでピント合わせが行われます。

0：しない

1：左右1領域拡大

任意選択したAFフレームに隣接する左右1測距点（縦位置撮影時は上下）が有効になります。

2：周囲1領域拡大

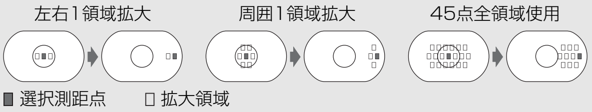
任意選択したAFフレームに隣接する周囲1測距点が有効になります。

3：45点全領域を使用

AIサーボAF時は、任意選択したAFフレーム（測距点）を中心に、上下1行の内の6測距点、左右3測距点（最大18点）が有効になります。被写体が領域拡大した測距点に乗り移るたびに、乗り移った点を中心に拡大領域が遷移します。すべての45測距点が作動するため、エリアAFフレーム内に被写体を捉えていれば、被写体に対して常にピント合わせが行われます。

なお、ワンショットAF時は、任意選択したAFフレームでピント合わせができない場合、残り44測距点を使ってピント合わせが行われます。

- C.Fn III -10-1, 2, 3, 4設定時も領域拡大が行われます。
- AFモードがAIサーボAFのときは、初めに任意選択したAFフレームでピント合わせを行ってください。
- 任意選択したAFフレームが2点のとき、1設定時は2点の左側1点、右側1点が有効になります。2設定時は2点に隣接する最大8点が有効になります。
- AFフレームの領域拡大は、選択AFフレームを中心に拡大されるため、外寄りのAFフレームを選択したときは、図のように拡大領域が小さくなります。



C.Fn III -9　測光中のマルチコントローラー

0：切

1：AFフレーム選択

　ファインダー撮影時に、測光タイマーが作動している状態であれば、最初に〈⊞〉ボタンを押さずに、〈✣〉で直接AFフレームを選ぶことができます。

C.Fn III -10　任意選択可能なAFフレーム

　任意選択できるAFフレームの数を変更することができます。なお、自動選択時は、0〜4の設定に関係なく45点でAFが行われます。

0：45点

1：19点

　任意選択できるAFフレームが、EOS-1D Mark IIIと同じ19点になります。

2：11点

　任意選択できるAFフレームが11点になります。

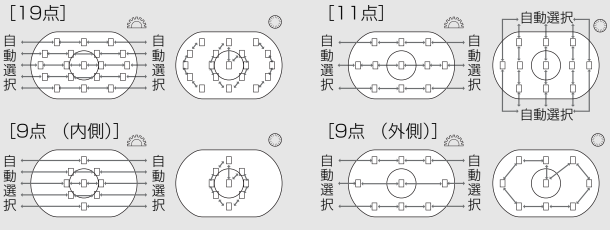
3：9点（内側）

　任意選択できるAFフレームが内側の9点になります。

4：9点（外側）

　任意選択できるAFフレームが外側の9点になります。

AFフレーム選択時の動作は次のとおりです。



C.Fn III -11　登録AFフレームへの切り換え

測光タイマー作動中に、〈⁜〉、または〈✱〉ボタンで、あらかじめ登録したAFフレームに瞬時に切り換えることができます。なお、切り換えと同時にAFが作動します。

0：しない

1：〈⁜〉で切り換え

〈⁜〉を押すと、登録されているAFフレームに切り換わります。もう一度押すと、元のAFフレームに切り換わります。

2：〈✱〉ボタンを押している間のみ

〈✱〉を押している間だけ、登録されているAFフレームに切り換わります。〈✱〉ボタンから指を離すと、元のAFフレームに戻ります。

AFフレームの登録

よく使うAFフレームをあらかじめカメラに登録することができます。

1. 登録したいAFフレームを選択する（p.97）
2. 〈⊞〉ボタンを押しながら、〈ISO〉ボタンを押す
   - **[ ] HP**：自動選択、**SEL [ ]**：中央、**SEL HP**：中央以外

なお、登録後にC.Fn III -10の設定を変更すると、登録内容が解除され、中央AFフレームへの切り換えになります。

AFフレームを複数登録することはできません。

C.Fn III -12　AFフレーム自動選択の選択可否

AFフレーム選択時に、自動選択が選べるかどうかを設定することができます。

前者は、C.Fn IV -3-1, 3設定時における、測光タイマー作動中の〈◎〉操作を表します。後者は、〈⊞〉ボタンを押したときの、〈⌒〉操作を表します。

0：◎直接：不可／⌒→可

測光タイマー作動中に〈◎〉で自動選択は選択できません。／〈⌒〉で自動選択を選択できます。

1：◎直接：不可／⌒→不可

自動選択は選択できません。

2：◎直接：可／⌒→可

測光タイマー作動中に〈◎〉で自動選択を選択できます。／〈⌒〉で自動選択を選択できます。

C.Fn III -13　測距時のAFフレーム表示

0：する

1：しない

AFフレーム選択時を除き、AFフレームの赤い点灯表示は行われません。

2：する（合焦時）

AF測距中は、任意選択したAFフレームの淡い点灯表示が行われなくなります。AF開始時、合焦時のみ点灯表示が行われます。

C.Fn III -14　AFフレーム点灯輝度

0：通常

1：明るい

AFフレームの赤い点灯表示の輝度が、より明るくなります。

C.Fn III -15　AF補助光の投光

EOS用の外部ストロボから、AF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

0：する

必要に応じて外部ストロボからAF補助光が投光されます。

1：しない

2：赤外光方式の補助光のみ投光

外部ストロボのAF補助光の中で、赤外光方式のAF補助光だけを投光します。ストロボ発光方式のAF補助光を投光したくないときに設定します。

外部ストロボのカスタム機能［**AF補助光の投光**］が［**しない**］に設定されているときは、0, 2に設定してもAF補助光は投光されません。

C.Fn III -16　縦位置/横位置のAFフレーム設定

縦位置撮影と横位置撮影で、同じAFフレームを使用するか、別々のAFフレームを使用するかを設定することができます。

0：同じ

縦位置撮影、横位置撮影とも同じAFフレームでの撮影になります。

1：別々に設定

縦位置撮影時のAFフレームと、横位置撮影時のAFフレームを別々に設定することができます。撮影時にカメラの姿勢を検知して、設定したAFフレームに自動的に切り換わります。

1に設定したときは、縦位置（グリップ上）、縦位置（グリップ下）、横位置でAFフレームの選択操作（p.97）**を行ってください。**それぞれの位置で選択したAFフレームが、カメラに記憶されます。

1設定時にカメラ設定初期化（p.53）を行うと、縦位置/横位置で設定したAFフレームが解除され、中央のAFフレームが選択された状態になります。

C.Fn III -17　ミラーアップ撮影

ミラーアップ撮影については、118ページを参照してください。

0：しない

1：する

2：する（SETボタンでダウン）

1, 2設定時は、上面表示パネルに〈〉が表示されます。

C.Fn III -18　連続撮影速度

しない：〈H〉：最高約10コマ/秒、〈L〉：約3コマ/秒で連続撮影することができます。

する：　［**登録**］で設定した速度での連続撮影になります。

登録：　〈H〉は10〜2コマ/秒、〈L〉は9〜1コマ/秒の範囲で設定することができます。設定が終了したら［**適用**］を選びます。

C.Fn III -19　連続撮影時の撮影枚数制限

しない：枚数制限は行われません。表示されている連続撮影可能枚数まで連続撮影することができます。

する：　連続撮影を行うと、［**登録**］で設定した枚数で自動停止します。

登録：　99～2枚の範囲で制限枚数を設定することができます。設定が終了したら［**適用**］を選びます。

C.Fn IV：操作・その他

C.Fn IV -1　シャッター /AF-ONボタン

0：測光・AF開始

1：測光・AF開始/AF停止

AF中に〈AF-ON〉ボタンを押すと、AF動作が中止されます。

2：測光開始/測光・AF開始

移動・停止を繰り返す被写体を撮影するときに有効です。AIサーボAF時は、〈AF-ON〉ボタンでAIサーボAFの作動／停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適な状態にしてシャッターチャンスを待つことができます。

3：AEロック/測光・AF開始

ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈AF-ON〉ボタンで測光・AF作動、シャッターボタン半押しでAEロック（露出決定）することができます。

4：測光・AF開始/無効

〈AF-ON〉ボタンは機能しません。

C.Fn IV -2　AF-ON/AEロックボタン入替

0：しない

1：する

〈AF-ON〉ボタンと〈✱/🔍〉ボタンの機能が入れ替わります。

C.Fn IV -3　測光タイマー中のサブ電子ダイヤル

測光タイマー作動時のサブ電子ダイヤルの機能を変更することができます。

0：露出補正/絞り数値

1：AFフレーム選択

〈⊞〉ボタンを押さずに、直接〈◎〉でAFフレームを選択することができます。測光タイマー中に〈◎〉を回すと、横方向のAFフレームを選択することができます。AFフレーム自動選択は選択できません。ただし、C.Fn III -12-2を同時に設定すると、自動選択も選べるようになります。

露出補正、およびマニュアル露出時の絞り数値を設定するときは、〈☒〉ボタンを押して、〈☼/◎〉を回します。

2：ISO感度

〈◎〉を回すと、ISO感度をリアルタイムに変更することができます。

3：AFフレーム選択＋☒⇄⊞

〈⊞〉ボタンを押さずに、直接〈◎〉でAFフレームを選択することができます。測光タイマー中に〈◎〉を回すと、横方向のAFフレームを選択することができます。AFフレーム自動選択は選択できません。ただし、C.Fn III -12-2を同時に設定すると、自動選択も選べるようになります。

また、〈☒〉ボタンと〈⊞〉ボタンの機能が入れ替わります。〈⊞〉ボタンを押しながら〈☼〉を回すと、露出補正/ 絞り数値の設定を行うことができます。

4：ISO感度＋☒⇄ISO

〈◎〉を回すと、ISO感度をリアルタイムに変更することができます。

また、〈☒〉ボタンと〈ISO〉ボタンの機能が入れ替わります。〈ISO〉ボタンを押しながら〈☼〉を回すと、露出補正/ 絞り数値の設定を行うことができます。

C.Fn IV -4　SETボタンの機能

よく使う機能を、〈SET〉に割り当てることができます。撮影準備状態で〈SET〉を押します。

0：通常（無効）

1：ホワイトバランス

背面表示パネルを見ながら、ホワイトバランスを変更することができます。

2：画像サイズ

背面表示パネルを見ながら、カード、画像サイズを変更することができます。

3：ISO感度

上面表示パネル、またはファインダー内を見ながら、ISO感度を変更することができます。

4：ピクチャースタイル

ピクチャースタイル設定画面が表示されます。

5：記録機能とメディア・フォルダ

メニュー［**記録機能とメディア・フォルダ選択**］画面が表示されます。

6：メニュー表示

〈MENU〉ボタンと同じになります。

7：画像再生

〈▶〉ボタンと同じになります。

ライブビュー撮影（p.126）、または動画撮影（p.142）ができる状態に設定されているときは、1～7に設定しても、ライブビュー撮影／動画撮影が優先されます。

C.Fn IV -5　マニュアル露出時Tv、Av値設定

0：Tv値＝メイン電子ダイヤル/Av値＝サブ電子ダイヤル

1：Tv値＝サブ電子ダイヤル/Av値＝メイン電子ダイヤル

大型ストロボを使用したスタジオ撮影など、絞り数値を頻繁に変更する場合に有効です。

また、マニュアル露出でAEBを行うと、シャッター速度固定で、絞り数値がAEBに連動して変化します。シャッター速度は〈露出補正〉ボタンを押して、〈メイン電子ダイヤル/サブ電子ダイヤル〉で設定することもできます。

C.Fn IV -6　Tv/Av値設定時のダイヤル回転

0：通常

1：設定方向を反転

　シャッター速度、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転させることができます。

　マニュアル露出時は〈〉〈〉、それ以外の撮影モードでは〈〉による設定方向が反転します。マニュアル露出時と、露出補正時の〈〉による設定方向が同じになります。

C.Fn IV -7　レンズ未装着時の絞り数値設定

0：不可

1：可

　レンズを外した状態で絞り数値の設定を行うことができます。スタジオ撮影など、撮影時の絞り数値が決まっているときに、この機能を使って準備しておくことができます。

C.Fn IV -8　WB/メディア・画像サイズの設定

〈FUNC.〉ボタンを押したときに、ホワイトバランス、カード、画像サイズの選択・設定を、背面表示パネルで行うか、メニュー画面で行うかを選ぶことができます。

0：背面表示パネル

1：液晶モニター

　〈FUNC.〉ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。押すごとに、［**ホワイトバランス**］、［**画像サイズ**］、［**記録機能とメディア・フォルダ選択**］の順で画面が切り換わります。

1に設定しても、ライブビュー撮影時、および動画撮影時は、〈FUNC.〉ボタンを押すと、背面表示パネルを見ながら上記設定を行うことができます。

C.Fn IV -9 ⊶/🎙ボタンの機能

0：プロテクト（長押しで音声メモ記録）

〈⊶/🎙〉ボタンを2秒間押すと、音声メモの記録が始まります。ボタンから指を離すと、音声メモの記録が終了します。

1：音声メモ記録（プロテクト不可）

〈⊶/🎙〉ボタンを押すと、すぐに音声メモの記録が始まります。ボタンから指を離すと、音声メモの記録が終了します。画像をプロテクトするときは、メニュー［▶ **画像プロテクト**］で行います。

2：音声メモ再生（長押しで記録）

音声メモが付加された画像を再生し、〈⊶/🎙〉ボタンを押すと、音声メモが再生されます。画像再生中に〈⊶/🎙〉ボタンを2秒間押すと、音声メモの記録が始まります。ボタンから指を離すと、音声メモの記録が終了します。画像をプロテクトするときは、メニュー［▶ **画像プロテクト**］で行います。

C.Fn IV -10 ◎〈OFF〉時のボタン操作

0：通常（有効）

1：⚙◎マルチコントローラーは無効

電源スイッチを〈**ON**〉の位置にすると、〈⚙〉〈◎〉〈✣〉で設定変更ができないようになります。ただしシャッターボタンで撮影することはできます。

不用意な設定変更を防止し、同じ設定で続けて撮影したいときなどに有効です。

1に設定しても、電源スイッチが〈J〉の位置のときは、〈⚙〉〈◎〉〈✣〉で設定を変更することができます。

C.Fn IV -11　動画撮影の開始

0：通常（ライブビュー状態から）

1：〈FEL〉ボタンでクイックスタート

　メニュー［**ライブビュー機能/動画機能設定**］で、動画撮影（p.142）ができる設定になっているときは、撮影準備状態で〈FEL〉ボタンを押すと、すぐに動画撮影が始まります。

C.Fn IV -12　フォーカシングスクリーン

　フォーカシングスクリーンを交換したときは、適切な露出で撮影するため、使用するスクリーンのタイプに応じて、設定変更を行ってください。

0：L Ec-C IV

　標準フォーカシングスクリーン（レーザーマットタイプ）です。

1：L Ec-A, B, C, C II, C III, D, H, I, L

　レーザーマット使用時に設定します。

2：P Ec-S

　スーパープレシジョンマット使用時に設定します。

3：N Ec-N, R

　ニューレーザーマット使用時に設定します。

スーパープレシジョンマットEc-Sとレンズの開放絞り数値について

- F1.8～2.8の明るいレンズに最適化されています。
- F1.8より明るいレンズを使用すると、中央部スポット範囲マーク、エリアAFフレームが見えにくくなることがあります。
- F2.8より暗いレンズを使用すると、ファインダーが暗くなります。

- Ec-A、Ec-B、Ec-I、Ec-Lは中央部がプリズムになっているため、評価測光、中央部スポット測光では適正な露出が得られません。中央部重点平均測光か、AFフレーム連動スポット測光（中央部を除く）で撮影してください。
- フォーカシングスクリーンの交換方法については、フォーカシングスクリーンの使用説明書を参照してください。

C.Fn IV -13 各種タイマー保持時間

ボタンから指を離したあと、タイマーによりその機能の設定状態が保持される時間を変更することができます。

しない：タイマーの作動時間は初期状態のままです。

する：［**登録**］で設定した時間でタイマーが制御されます。

登録：6秒、16秒、レリーズ後タイマーの時間を、0〜59秒/1〜60分の範囲で、それぞれ設定することができます。設定が終了したら［**適用**］を選びます。

・6秒タイマー

測光タイマー／〈✱〉ボタンによるAEロック時に作動します。

・16秒タイマー

〈FEL〉ボタンによるマルチスポット測光時、FEロック時に作動します。

・レリーズ後タイマー

通常、撮影後に2秒間作動します。時間を長くすると、同じ露出でAEロック撮影を行いやすくなります。

C.Fn IV -14 レリーズタイムラグ最速化

通常は、レリーズタイムラグを安定化する制御が行われますが、この制御が行われないようにして、レリーズタイムラグをさらに短くすることができます。

0：しない

1：する

絞り開放から約3段までの撮影で、レリーズタイムラグが通常時に比べ、最高約20%速くなります。

C.Fn IV -15　アスペクト比情報の付加

ライブビュー撮影時、および動画撮影時に、設定した比率に応じた縦線が画面に表示されます。6×6cm、6×4.5cm、4×5inchなど、フィルム式の中判/大判カメラと同じ構図で、静止画を撮影することができます。

撮影を行うと、画像にアスペクト比情報が自動的に付加されます（トリミングされた画像が、カードに記録されるわけではありません）。

画像をパソコンに取り込み、付属のソフトウェア（Digital Photo Professional）を使用すると、撮影時のアスペクト比で画像が表示されます。

0：しない

1：比率6：6

2：比率3：4

3：比率4：5（六切）

4：比率6：7

5：比率5：6（四切）

6：比率5：7

- ファインダー撮影時も、情報が付加されます。
- 情報が付加された画像をカメラで再生すると、比率に応じた縦線が表示されます。

C.Fn IV -16　オリジナル画像判定用データの付加

0：しない

1：する

撮影画像に、その画像がオリジナルであるか否かを判定するためのデータが自動的に付加されます。判定用データが付加された画像を撮影情報表示（p.157）で再生すると、〈🔒〉が表示されます。

オリジナル画像の判定には、オリジナルデータセキュリティキットOSK-E3（別売）が必要です。

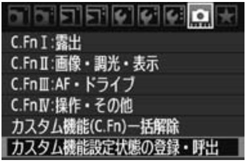
MENU カスタム機能設定の登録と呼び出し ■

カスタム機能の設定内容をカメラに3件まで登録することができます。

スポーツ撮影用、スナップ撮影用、風景撮影用など、撮影シーンに分けて登録すると便利です。

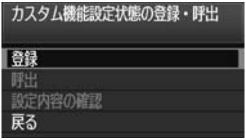
呼び出し操作を行うと、カスタム機能の設定が、登録されている内容に切り換わります。

カスタム機能設定状態の登録



1 ［カスタム機能設定状態の登録・呼出］を選ぶ

- ［ ］タブの［**カスタム機能設定状態の登録・呼出**］を選び、〈SET〉を押します。



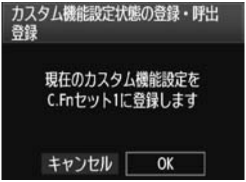
2 ［登録］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**登録**］を選び、〈SET〉を押します。



3 ［セット］を選ぶ

- 設定状態を確認します。
- 〈◎〉を回して登録する［**セット***］を選び、〈SET〉を押します。



4 ［OK］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 設定内容が［**セット***］に登録され、登録内容が一覧で表示されます。〈SET〉を押すと、手順2の画面に戻ります。

［C.Fn I -16：AEマイクロアジャストメント］［C.Fn I -17：FEマイクロアジャストメント］［C.Fn III -7：AFマイクロアジャストメント］［C.Fn IV -12：フォーカシングスクリーン］の設定は、登録内容に含まれません。

［**設定内容の確認**］を選ぶと、登録されている内容を一覧で確認することができます。初期設定から変更されている項目の番号は、青色で表示されます。また、選択肢が番号以外の項目は、青い［＊］印で表示されます。

カスタム機能設定状態の呼び出し

手順2で［**呼出**］を選び、呼び出しを行う［**セット＊**］を選びます。［**OK**］を選ぶと、カスタム機能の設定が、セット＊に登録されている内容に切り換わります。

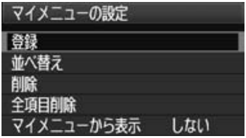
MENU マイメニューを登録する

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに6項目まで登録することができます。



1 ［マイメニューの設定］を選ぶ

- ［★］タブの［**マイメニューの設定**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［登録］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**登録**］を選び、〈SET〉を押します。



3 登録する

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 確認画面で［OK］を選び、〈SET〉を押すと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと手順2の画面に戻ります。

マイメニューの設定について

- **並べ替え**

登録した項目の並び順を変えることができます。［**並べ替え**］を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉を押します。［⬍］が表示された状態で〈◎〉を回して並び順を変え、〈SET〉を押します。

- **削除／全項目削除**

登録した項目を削除することができます。［**削除**］を選ぶと1項目ずつ削除、［**全項目削除**］を選ぶと登録内容がすべて削除されます。

- **マイメニューから表示**

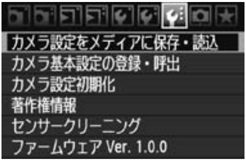
［**する**］に設定すると、メニュー画面を表示したときに［★］タブから表示されます。

MENU カメラ設定の保存と読み込み

撮影モードやメニュー、カスタム機能など、カメラに設定されている内容を、カメラ設定ファイルとしてカードに保存することができます。ファイルの読み込みを行うと、保存されている内容と同じ設定状態になります。

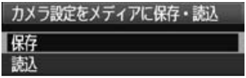
別のEOS-1D Mark IV で読み込んで同じ設定状態にしたり、撮影シーンごとに最適な設定を保存して使い分けることができます。

カメラ設定の保存



1 ［カメラ設定をメディアに保存・読込］を選ぶ

- ［🔧:］タブの［**カメラ設定をメディアに保存・読込**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［保存］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**保存**］を選び、〈SET〉を押します。

保存先



3 ［実行］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**実行**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 設定内容がカードに保存され、手順2の画面に戻ります。



- ［**ファイル名を変更**］を選ぶと、ファイル名(8文字)を任意に変更してから保存することができます。
  操作方法については、86ページ『ファイル名を変更する』を参照してください。入力できる文字数が異なりますが、文字入力の操作方法は同じです。

保存される設定内容

● **撮影機能**

撮影モード＋設定値、ISO感度、AFモード、AFフレーム、測光モード、ドライブモード、露出補正量、ストロボ調光補正量

● **メニュー機能**

［撮影1］ ホワイトバランス、MWBデータ登録、WB補正/BKT設定、色空間、ピクチャースタイル、周辺光量補正
［撮影2］ JPEG画質、画像サイズ、撮影画像の確認時間、電子音、カードなしレリーズ、外部ストロボ制御（ストロボ機能設定）
［再生2］ ハイライト警告表示、AFフレーム表示、ヒストグラム、拡大表示設定、電子ダイヤルでの画像送り
［設定1］ オートパワーオフ、記録機能とメディア・フォルダ選択（記録機能）、画像番号、ファイル名の設定、縦位置画像回転表示
［設定2］ 液晶の明るさ、ライブビュー機能/動画機能設定
［設定3］ センサークリーニング（自動クリーニング）
［カスタム］ カスタム機能
［★］ マイメニュー

カメラ設定の読み込み

手順2で［**読込**］を選ぶと、カードに記録されているカメラ設定ファイルが最大10件表示されます。希望するファイルを選ぶと、読み込みが行われ、保存されている内容と同じ設定状態になります。

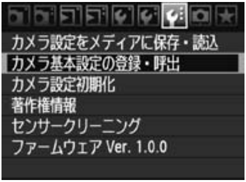
- 日付/時刻、言語、ビデオ出力方式、およびC.Fn I -16、C.Fn I -17、C.Fn III -7、C.Fn IV -12の設定は保存されません。
- 1枚のカードに10件まで保存できます。すでに10件保存されているときは、上書き保存するか、別のカードに交換するか、保存するカードを変更してください。
- EOS-1D Mark IV以外で保存したカメラ設定ファイルをこのカメラで読み込むことはできません。

MENU カメラの基本設定の登録と呼び出し

撮影モード、AFモード、測光モード、ドライブモードなどの主要な機能の基本設定を、任意に設定してカメラに登録することができます。

使用頻度の高い撮影設定状態に、瞬時に切り換えたいときに便利です。

基本設定の登録

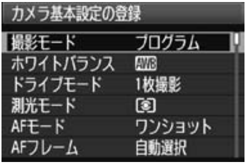


1 [カメラ基本設定の登録・呼出] を選ぶ

- [ψ:] タブの [**カメラ基本設定の登録・呼出**] を選び、〈SET〉を押します。

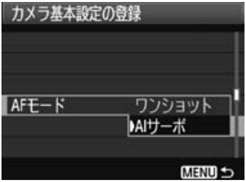
2 [登録] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**登録**] を選び、〈SET〉を押します。



3 項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 撮影モード、ホワイトバランス、ドライブモードなど、9項目の設定ができます。



4 項目の内容を設定する

- 〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。

5 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、設定が終了し、手順2の画面に戻ります。

基本設定の呼び出し

手順2で [**呼出**] を選びます。カメラの設定が登録されている内容に切り換わります。

呼び出しを行うと、[**記録機能**] の設定が [**標準**] となり、露出補正、AEB、ストロボ調光補正、WB補正/BKTの設定も解除されます。

11

資料

撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行っています。また、章の最後には索引を設け、知りたいことが見つけやすいようになっています。

撮影機能の組み合わせ一覧

●：自動設定　○：選択可能　▭：選択不可／無効

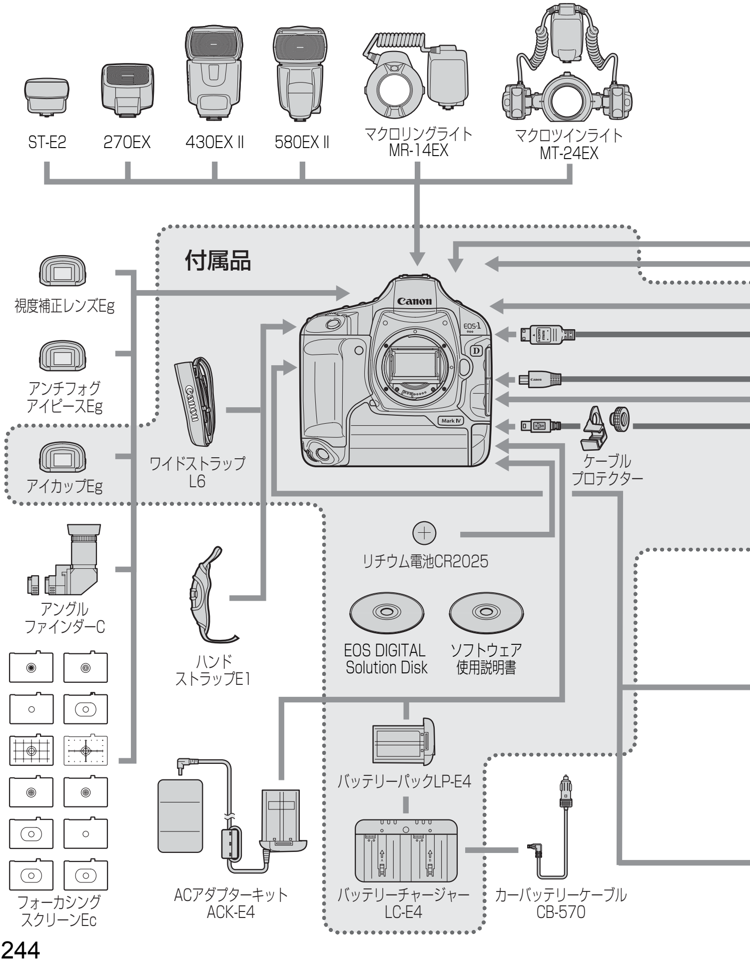
機能		ファインダー撮影					LV撮影	動画撮影
		P	Tv	Av	M	Bulb		
画像サイズ	JPEG	○	○	○	○	○	○	（静止画）
	RAW	○	○	○	○	○	○	
	RAW + JPEG	○	○	○	○	○	○	
ISO感度	自動設定	○	○	○	○	○	○	○
	手動設定	○	○	○	○	○	○	動画M時
ピクチャースタイル	スタンダード	○	○	○	○	○	○	○
	ポートレート	○	○	○	○	○	○	○
	風景	○	○	○	○	○	○	○
	ニュートラル	○	○	○	○	○	○	○
	忠実設定	○	○	○	○	○	○	○
	モノクロ	○	○	○	○	○	○	○
	ユーザー設定	○	○	○	○	○	○	○
ホワイトバランス	オートWB	○	○	○	○	○	○	○
	プリセットWB	○	○	○	○	○	○	○
	マニュアルWB	○	○	○	○	○	○	○
	色温度指定	○	○	○	○	○	○	○
	WB補正	○	○	○	○	○	○	○
	WB-BKT	○	○	○	○	○	○	（静止画）
色空間	sRGB	○	○	○	○	○	○	●*
	Adobe RGB	○	○	○	○	○	○	*
オートライティングオプティマイザ		○	○	○	○	○	○	○
レンズ周辺光量補正		○	○	○	○	○	○	○
長秒時露光のノイズ低減		○	○	○	○	○	○	
高感度撮影時のノイズ低減		○	○	○	○	○	○	（静止画）
高輝度側・階調優先		○	○	○	○	○	○	○

* 静止画は色空間の設定どおりに撮影されます。

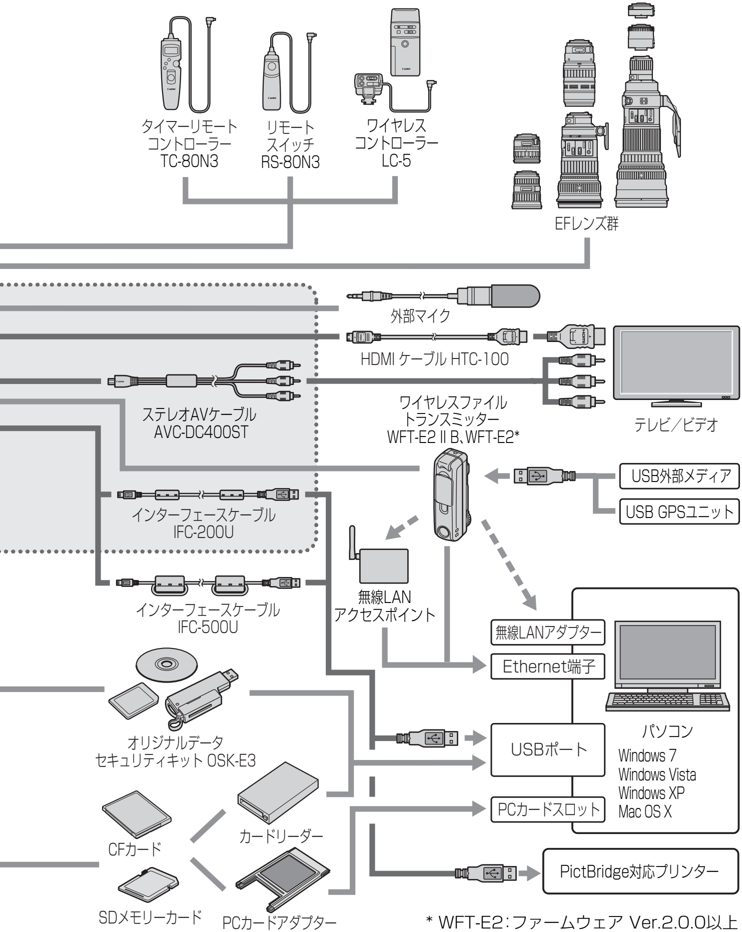
●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可／無効

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">機能</th><th colspan="5">ファインダー撮影</th><th rowspan="2">LV撮影</th><th rowspan="2">動画撮影</th></tr>
<tr><th>P</th><th>Tv</th><th>Av</th><th>M</th><th>Bulb</th></tr>
<tr><td rowspan="7">AF</td><td colspan="2">ワンショット</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2">AFQuick 時</td></tr>
<tr><td colspan="2">AIサーボ</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">AF
フレーム
選択</td><td>自動</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2" rowspan="2">AFQuick 時</td></tr>
<tr><td>任意</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">ライブモード</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">(顔)ライブモード</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">クイックモード</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>撮影開始前</td></tr>
<tr><td rowspan="4">測光</td><td colspan="2">評価測光</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>●</td><td>AF(顔)時</td></tr>
<tr><td colspan="2">部分測光</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">スポット測光</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">中央部重点
平均測光</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>●</td></tr>
<tr><td rowspan="5">露出</td><td colspan="2">プログラムシフト</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">露出補正</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td rowspan="2">動画M時以外</td></tr>
<tr><td colspan="2">AEロック</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">AEB</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">被写界深度確認</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="6">ドライブ</td><td colspan="2">1枚撮影</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td rowspan="3">(静止画)</td></tr>
<tr><td colspan="2">高速連続撮影</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">低速連続撮影</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">セルフ10秒</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">セルフ2秒</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">サイレント
1枚撮影</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>(静止画)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外部
ストロボ</td><td colspan="2">FEロック</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ストロボ調光補正</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

システム図



ST-E2
270EX
430EX II
580EX II
マクロリングライト
MR-14EX
マクロツインライト
MT-24EX
付属品
視度補正レンズEg
アンチフォグ
アイピースEg
アイカップEg
ワイドストラップ
L6
アングル
ファインダーC
フォーカシング
スクリーンEc
ハンド
ストラップE1
ケーブル
プロテクター
リチウム電池CR2025
EOS DIGITAL
Solution Disk
ソフトウェア
使用説明書
バッテリーパックLP-E4
ACアダプターキット
ACK-E4
バッテリーチャージャー
LC-E4
カーバッテリーケーブル
CB-570



* WFT-E2：ファームウェア Ver.2.0.0以上

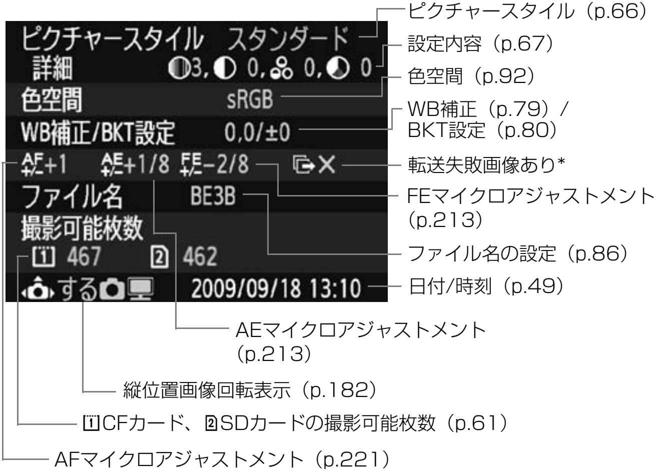
INFO. カメラ設定の確認

［C.Fn II -10：撮影時のINFO.ボタン］（p.217）を［1：カメラ設定内容を表示］に設定し、撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、画像に関連する機能の設定内容を確認することができます。



設定内容を表示する

● 撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押します。



* ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E2 II B、WFT-E2使用時に、転送失敗画像があるときのみ表示されます。

初期状態で〈INFO.〉ボタンを押したときは、撮影機能の設定状態が表示されます（p.23）。

MENU 電池情報の確認

使用している電池の状態をメニュー画面で確認することができます。



[バッテリー情報] を選ぶ

- [𝐘:]タブの[**バッテリー情報**]を選び、〈SET〉を押します。



- 使用している電池、または家庭用電源（別売）の型式が表示されます。
- 残量が、電池チェック表示（p.35）とともに1%単位で表示されます。
- 使用している電池で撮影した回数が表示されます。充電を行うと回数がリセットされます。
- 電池の劣化状態が3段階で表示されます（p.29）。
  - ■■■（緑）：劣化していません
  - ■■□（緑）：少し劣化しています
  - ■□□（赤）：電池の買い換えをおすすめします

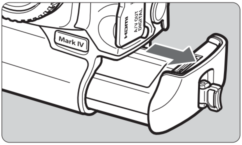
バッテリーパック LP-E4以外の電池は使用しないでください。カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

- 撮影回数は、静止画撮影を行った回数が表示されます（動画撮影は回数に含まれません）。
- [**次回の充電時にキャリブレーションをおすすめします**] と表示されたときは、30 ページを参照してください。
- 電源スイッチを〈ON/J〉にしたときに、何らかの原因で電池と通信できないときは、[**バッテリーと通信できません**] と表示されますが、[**OK**] を選ぶとそのまま撮影できます。そのときは、上面表示パネルの電池チェックが〈 〉（点灯）の表示になります。

日付／時計機能用電池を交換する

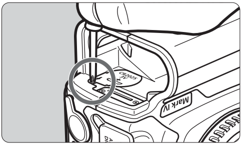
日付／時計機能用電池（バックアップ電池）の電池寿命は約5年です。電源を入れたときに、日付/時刻がリセットされるようになったら、次の手順で、新しいCR2025リチウム電池に交換してください。

日付/時刻が初期化されますので、必ず再設定してください（p.49）。



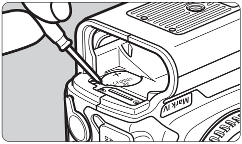
1 **電源スイッチを〈OFF〉にして、電池を取り出す**

● バックアップ電池は、電池室の上部に収納されています。

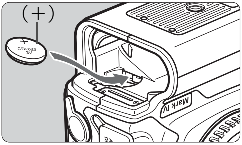


2 **ふたを取り外す**

● 小型のプラスドライバーを使用して、ねじをゆるめ、ふたを取り外します。
● 取り外したふたとねじは、なくさないよう注意してください。



3 **電池を取り出す**



4 **新しい電池を入れる**

●（+）側を上にして入れます。

5 **ふたを取り付ける**

日付／時計機能用電池は、必ずCR2025リチウム電池を使用してください。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、249～255ページを参照してカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

付属の充電器で電池が充電できない

- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E4を使用してください。

充電器の〈CAL/CHARGE〉ランプが赤色に点滅した
充電器のランプが3つ点滅した

- 30、31ページを参照してください。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください（p.32）。
- 電池を充電してください（p.28）。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください（p.36）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、数秒間はアクセスランプが点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使用してください（p.28）。
- 電池の性能が劣化している可能性があります。メニュー［**ƒ: バッテリー情報**］で電池の劣化状態を確認してください（p.247）。劣化しているときは、新しい電池をお買い求めください。
- 撮影機能の設定状態の画面を表示したままにしたり（p.23）、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと（p.125、141）、撮影可能枚数が少なくなります。

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、メニュー［**🔧 オートパワーオフ**］を［**切**］にしてください。

撮影関連

レンズが装着できない

- EF-Sレンズは使用できません（p.39）。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、38ページ、または256ページを参照してください。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（p.36）。
- SD カード使用時は、ライトプロテクトスイッチを上側にしてください（p.36）。
- カードの空き容量がないときは、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（p.36、179）。
- ワンショットAFでピント合わせを行ったときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（p.41、95、100）。

画像がボケて写っている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください（p.39）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（p.40、41）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズは、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。

露出を暗めに設定（補正）したのに、明るく撮影される

- ［C.Fn II -4：**オートライティングオプティマイザ**］を［**3：しない**］に設定してください。［**標準/弱め/強め**］に設定されているときは、マニュアル露出、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定（補正）しても、明るく撮影されることがあります（p.81、215）。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- ［C.Fn II -2：**高感度撮影時のノイズ低減**］を［**標準/弱め/しない**］のいずれかに設定してください。［**強め**］に設定されているときは、連続撮影可能枚数（バースト枚数）が大幅に少なくなります（p.214）。
- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1 枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、61ページに目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

ISO100に設定できない

- ［C.Fn II -3：**高輝度側・階調優先**］が［**する**］に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。［**しない**］に設定すると、ISO100が設定できるようになります（p.215）。

〈Av〉モードでストロボ撮影すると、シャッター速度が遅くなる

- 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も適正露出になるように、自動的にシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ撮影）。シャッター速度が遅くならないようにするときは、［C.Fn I -15：**Avモード時のストロボ同調速度**］を、1または2に設定してください（p.212）。

ストロボが発光しない

- カメラにストロボ（またはシンクロコード）がしっかり取り付けられているかどうか確認してください。

ストロボがいつもフル発光する

- EXシリーズスピードライト以外のストロボを使用すると、常時フル発光します（p.120）。
- ストロボカスタム機能の［**調光方式**］が［**TTL（自動調光）**］に設定されていると、常時フル発光します（p.124）。

ストロボ調光補正ができない

- ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

Avモード時にハイスピードシンクロができない

- ［**C.Fn I -15：Avモード時のストロボ同調速度**］を［**0：自動**］に設定してください（p.212）。

ライブビュー撮影ができない

- ライブビュー撮影を行うときは、メモリーカードを使用してください（ハードディスクタイプのカードの使用はおすすめできません）。ハードディスクタイプのカードは、メモリーカードよりも使用可能温度が低いため、ハードディスクを保護する機能が作動して、ライブビュー撮影が一時的にできなくなることがあります。カメラ内部の温度が下がると、ライブビュー撮影ができるようになります（p.139）。

ライブビュー撮影時にISO感度、シャッター速度、絞り数値が設定できない

- ［**LV /設定**］を［**静止画**］に設定してください（p.126）。

ライブビュー撮影時にシャッター音が2回する

- ライブビュー撮影時は、1回の撮影でシャッター音が2回します（p.127）。

動画マニュアル露出撮影ができない

- ［LV📷/🎥 設定］を［動画］に設定し、撮影モードを〈**M**〉（マニュアル露出）にしてください（p.142、144）。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。CFカード使用時は、実際の書き込み/読み取り速度が8MB/秒以上のカードを使用してください。SDカード使用時は、SDスピードクラス6「CLASS⑥」以上のカードを使用してください。なお、書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 動画撮影を開始してからファイルサイズが4GBに達した時点、または29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを素早く左右に動かしたり（高速パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがむことがあります。なお、動画記録サイズを1280×720、640×480に変更して撮影すると、ゆがみが改善することがあります（p.151）。

動画撮影中に静止画を撮影すると、動画撮影が終了する

- 動画撮影中に静止画を撮影するときは、UDMA 転送に対応した CF カードの使用をおすすめします。
- 静止画の画像サイズを小さくしたり、連続撮影する枚数を少なくすると、改善することがあります。

動画が再生できない

- 付属のソフトウェアなどを使用して、パソコンで編集した動画は、カメラで再生できません。

動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。市販の外部マイクの使用をおすすめします（p.153）。

表示・操作関連

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

- 液晶モニターがよごれているときは、眼鏡ふきや、やわらかい布などでふいてください。
- 低温下、または高温下では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

画像の一部が黒く点滅する

- メニュー［**ハイライト警告表示**］が［**する**］に設定されています（p.157）。

画像に赤い枠が表示される

- メニュー［**AFフレーム表示**］が［**する**］に設定されています（p.158）。

画像が消去できない

- 画像にプロテクトがかかっていると消去できません（p.172）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_」）になる

- 色空間をsRGBに設定してください。Adobe RGBに設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（p.92）。

ファイル名の4文字目が変化する

- メニュー［**ファイル名の設定**］で、カメラ固有のファイル名、またはユーザー設定1に登録したファイル名を選択してください（p.86）。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります（p.88）。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（p.49）。

テレビに画像が表示されない

- ステレオAVケーブル、またはHDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（p.170、171）。
- ビデオ出力方式（NTSC/PAL）をテレビと同じ方式に設定してください（p.170）。
- 付属のステレオAVケーブルを使用してください（p.170）。

音声メモが再生できない

- ［C.Fn IV -9：/ボタンの機能］を［2：音声メモ再生（長押しで記録）］に設定してください（p.175、231）。

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音がする

- ［今すぐクリーニング］を選んだときは、シャッターの作動音が3回します（p.184）。

印刷関連

印刷効果の項目が説明書より少ない

- 表示される内容は、プリンターの機種により異なります。本書ではすべての項目を記載しています（p.194）。

エラー表示

エラー番号



原因・対処方法

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

番号	メッセージ／対処方法
01	カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください
	➔ カメラ/レンズの接点清掃、純正レンズを使用する（p.13、16）
02	カード＊にアクセスできません。カード＊を入れなおすか、交換するか、このカメラで初期化してください
	➔ カード抜き差し、カード交換、カード初期化 （p.36、50）
04	カード＊がいっぱいになったため、記録できませんでした。カード＊を交換してください
	➔ カード交換、不要画像の消去、カード初期化 （p.36、179、50）
06	センサークリーニングができませんでした。電源スイッチを入れなおしてください
	➔ 電源スイッチ操作（p.34）
10, 20 30, 40 50, 60 70, 80 99	エラーが発生したため撮影できません。電源スイッチを入れなおすか、電池を入れなおしてください
	➔ 電源スイッチ操作、電池出し入れ、純正レンズを使用する（p.34、32）

＊上記の対処を行ってもエラーが表示されるときは、エラー番号を控えて別紙の修理受付窓口にご相談ください。

主な仕様

■型式

型式....................................デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体............................CFカード（タイプI、II準拠、UDMA対応)、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード
*ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E2 II B、WFT-E2（ファームウェア Ver.2.0.0以上）装着時、USB外部メディアに記録可能
撮像画面サイズ.................27.9×18.6mm
使用レンズ........................キヤノンEFレンズ群（EF-Sレンズを除く）
（有効撮影画角は、レンズ表記焦点距離の約1.3倍に相当）
レンズマウント.................キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式....................................CMOSセンサー
カメラ部有効画素.............約1610万画素
アスペクト比....................3：2
ダスト除去機能.................自動、手動、ダストデリートデータ付加

■記録形式

記録フォーマット.............DCF2.0
画像タイプ........................JPEG、RAW（14bit、キヤノン独自）
RAW+JPEG同時記録可能
記録画素数........................ラージ　：約1600万（4896×3264）画素
ミドル1 ：約1240万（4320×2880）画素
ミドル2 ：約840万（3552×2368）画素
スモール：約400万（2448×1632）画素
RAW　　：約1600万（4896×3264）画素
M-RAW ：約900万（3672×2448）画素
S-RAW ：約400万（2448×1632）画素
記録機能............................標準、自動切り換え、振り分け、同一書き込み
フォルダ作成/選択...........可能
ファイル名........................カメラ固有設定、ユーザー設定1、ユーザー設定2
画像番号............................通し番号、オートリセット、強制リセット

■画像処理

ピクチャースタイル.......... スタンダード、ポートレート、風景、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3
ホワイトバランス .... オート、プリセット（太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ）、マニュアル（5件）、色温度指定（2500～10000K）、カスタムホワイトバランス（5件）
ホワイトバランス補正、ホワイトバランスブラケティング可能
*色温度情報通信対応
ノイズ低減......................... 長秒時露光、高感度撮影に対応
画像の明るさ自動補正...... オートライティングオプティマイザ機能により対応
高輝度側･階調優先 .... 可能
レンズ周辺光量補正.......... 可能

■ファインダー

方式.................................... ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率................................ 上下/左右とも約100%
倍率................................... 約0.76倍（50mmレンズ・∞・－1m^{-1}）
アイポイント..................... 約20mm（－1m^{-1}時/接眼レンズ中心から）
視度調整範囲..................... －3.0～＋1.0m^{-1}（dpt）
アイピースシャッター...... 内蔵
フォーカシング
スクリーン......................... Ec-C IV標準装備、交換可能
ミラー................................ クイックリターン式
被写界深度確認................. 可能

■オートフォーカス

方式.................................... TTL二次結像位相差検出方式
測距点................................ 45点（39点：クロス測距点＋6点）
輝度範囲............................ EV－1～18（常温・ISO100）
フォーカスモード .... ワンショットAF、AIサーボAF、手動（MF）
AF補助光........................... EOS用外部ストロボのAF補助光による
AF微調整........................... AFマイクロアジャストメントにより対応

■露出制御

測光方式	63分割TTL開放測光 ・評価測光（すべてのAFフレームに対応） ・部分測光（中央部・ファインダー画面の約13.5%） ・スポット測光（中央部・ファインダー画面の約3.8%） ・中央部重点平均測光
測光範囲	EV0～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
露出制御方式	プログラムAE、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出、バルブ
ISO感度（推奨露光指数）	自動設定（ISO Auto）、ISO100～12800任意設定（1/3、1段ステップ）、およびL（ISO50相当）、H1（ISO25600相当）、H2（ISO51200相当）、H3（ISO102400相当）の感度拡張が可能
露出補正	手動、AEB（手動露出補正との併用可能） 補正量：1/3、1/2段ステップ±３段
AEロック	自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック 手動：AEロックボタン押しによる
露出基準微調整	AEマイクロアジャストメントにより対応

■シャッター

形式	電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	1/8000～30秒、バルブ（すべての撮影モードを合わせて） X=1/300秒（EOS用外部ストロボ使用時）

■ドライブ関係

ドライブモード	１枚撮影、高速連続撮影、低速連続撮影、セルフタイマー10秒、セルフタイマー２秒、サイレント１枚撮影
連続撮影速度	最高約10コマ/秒
連続撮影可能枚数	JPEGラージ：約85枚（約121枚） RAW：約26枚（約28枚） RAW+ JPEGラージ：約20枚（約20枚） * 当社試験基準4GBカードを使用し、当社試験基準（高速連続撮影、JPEG画質：8、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定 *（ ）内の数値は、当社試験基準Ultra DMA（UDMA）モード6対応、16GBカード使用時の枚数

■外部ストロボ

対応ストロボ.................... EXシリーズスピードライト（カメラ側操作で機能設定可能）
調光方式............................ E-TTL II 自動調光
ストロボ調光補正 .... 1/3、1/2段ステップ±3段
FEロック .... 可能
シンクロ端子 .... あり
調光基準微調整 .... FEマイクロアジャストメントにより対応

■ライブビュー撮影機能

フォーカス........................ ライブモード、顔優先ライブモード（コントラスト検出方式）、クイックモード（位相差検出方式）
手動ピント合わせ（5倍/10倍拡大確認可能）
測光方式............................ 撮像素子による評価測光
測光範囲............................ EV 0～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
グリッド表示 2種類

■動画撮影機能

映像圧縮方式 MPEG-4 AVC/H.264
可変（平均）ビットレート方式
音声記録方式 .... リニアPCM
記録形式............................ MOV形式
記録サイズ/
フレームレート .... 1920×1080（Full HD）: 30p/25p/24p
1280×720（HD）　　 : 60p/50p
640×480（SD）　　　: 60p/50p
* 30p : 29.97fps、25p : 25.0fps、24p : 23.976fps、60p : 59.94fps、50p : 50.0fps
ファイルサイズ .... 1920×1080（30p/25p/24p）: 約330MB/分
1280×720（60p/50p）　　 : 約330MB/分
640×480（60p/50p）　　　: 約165MB/分
フォーカス........................ ライブビュー撮影機能のフォーカスに準ずる
測光方式............................ 撮像素子による中央部重点平均測光と評価測光
* フォーカスモードにより自動設定
測光範囲............................ EV 0～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
露出制御............................ 動画撮影用プログラムAE（露出補正可能）、マニュアル露出

ISO感度 .... 自動露出撮影時：自動設定
マニュアル露出撮影時：
自動設定（ISO Auto）、ISO100～12800任意設定（1/3、1段ステップ）、およびH1（ISO25600相当）、H2（ISO51200相当）、H3（ISO102400相当）の感度拡張が可能
録音.................................... 内蔵モノラルマイク
外部ステレオマイク端子装備
グリッド表示 2種類

■液晶モニター
形式.................................... TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ/ドット数....... 3.0型、約92万ドット（VGA）
視野率................................ 約100%
明るさ調整 .... 手動（7段階）
メニュー表示言語............. 日本語、英語

■再生機能
画像表示形式 .... 1枚、1枚＋情報（画像サイズ、撮影情報、ヒストグラム）、4枚インデックス、9枚インデックス、画像回転可能
拡大ズーム倍率................. 約1.5～10倍
画像表示検索 .... 1枚、10枚、100枚、撮影日、フォルダ、動画、静止画
ハイライト警告................. ハイライト部分点滅表示
AFフレーム表示............... 可能
スライドショー................. 全画像、フォルダ、日付、動画、静止画
画像プロテクト................. 可能
画像コピー .... 可能
バックアップ .... ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E2 II B、WFT-E2（ファームウェア Ver.2.0.0以上）装着時、外部メディアにバックアップ可能
音声メモ .... 記録/再生可能
動画再生 .... 可能（液晶モニター、映像/音声出力、HDMI出力）
スピーカー内蔵

■ダイレクトプリント機能
対応プリンター................. PictBridge対応プリンター
印刷対応画像 .... JPEG画像、RAW画像
印刷指定............................ DPOF バージョン1.1準拠

■カスタマイズ機能

カスタム機能.................... C.Fn I～IV 全62種
カスタム機能設定登録...... 3セット登録可能
カメラ設定保存 1枚のカードに最大10件登録可能
カメラ基本設定登録......... 9項目設定可能
マイメニュー登録 6項目登録可能
著作権情報........................ 設定/付加可能

■インターフェース

映像/音声出力・
デジタル端子.................... アナログ映像（NTSC, PAL対応）/ステレオ音声出力
パソコン通信、ダイレクトプリント用（Hi-Speed USB相当）
HDMIミニ出力端子......... タイプC（解像度自動切り換え）
外部マイク入力端子......... φ3.5mmステレオミニジャック
リモコン端子.................... N3タイプのリモコンに対応
拡張システム端子 .... ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E2 II B、WFT-E2（ファームウェア Ver.2.0.0以上）接続用

■電源

使用電池........................... バッテリーパック LP-E4、1個
* ACアダプターキット ACK-E4（別売）使用により、AC駆動可能
電池情報........................... 電池チェック6段階、残容量、撮影回数、劣化度確認可能
撮影可能枚数.................... ファインダー撮影：
常温（＋23℃）約1500枚、低温（0℃）約1200枚
ライブビュー撮影：
常温（＋23℃）約270枚、低温（0℃）約230枚
* CIPA試験基準による
動画撮影可能時間 .... 常温（23℃）：合計約2時間40分
低温（0℃）：合計約2時間20分
* フル充電のバッテリーパック LP-E4使用時
日付/時計機能用電池....... リチウム電池CR2025、1個

■大きさ・質量

大きさ............................... 156（幅）×156.6（高さ）×79.9（奥行）mm
質量.................................. 約1180g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度.................... 0℃～＋45℃
使用可能湿度.................... 85%以下

■バッテリーパック LP-E4

形式....................................充電式リチウムイオン電池
公称電圧............................DC11.1V
容量....................................2300mAh
大きさ................................68.4（幅）×34.2（高さ）×92.8（奥行）mm
質量....................................約180g（保護カバーを除く）

■バッテリーチャージャー LC-E4

形式....................................バッテリーパック LP-E4専用充電器
充電時間............................約2時間/1本
定格入力............................AC100～240V（50/60Hz）
DC12V/24V
定格出力............................DC12.6V 1.55A
電源コード.........................約2m
使用可能温度.....................0℃～＋40℃
使用可能湿度.....................85%以下
大きさ................................155（幅）×52.3（高さ）×95（奥行）mm
質量....................................約340g（電源コード、保護カバーを除く）

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標、または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国および他の国で登録された、米国アップル社の商標、または登録商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
- SDHCロゴは商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

＊ DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

＊ このデジタルカメラは、DCF 2.0とExif 2.21（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいな印刷出力結果を得ることができます。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリーは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

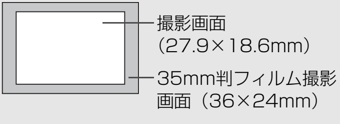
本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と、期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店、または別紙の修理受付窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

撮影画角について

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.3倍」相当になります。



MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

索　引

英数字

あ

か

ま

や

ら

わ

Canon

キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90002

受付時間：平日 9：00〜20：00
土・日・祝日 10：00〜17：00
（1月1日〜1月3日は休ませていただきます）

※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556をご利用ください。
※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理受付窓口でご確認ください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/eos-d

この使用説明書は、2009年10月に作成したものです。それ以降に発売されたアクセサリー、レンズとの組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。

Li-ion リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CT1 - 5246 - 003 © CANON INC. 2010